

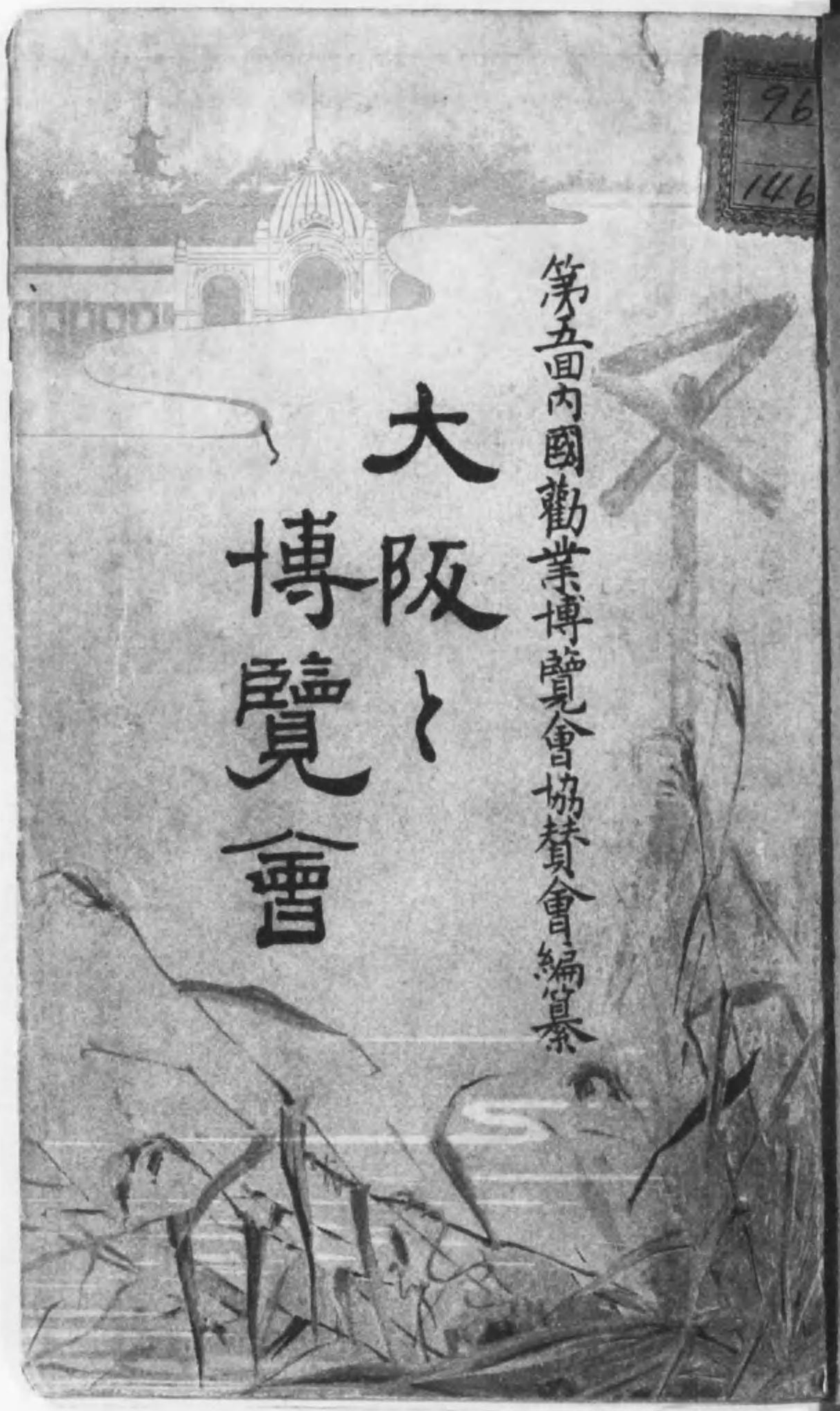
始



96
146

第五回内國勸業博覽會協賛會編纂

大阪博覽會



OSAKA HOTEL.



新築大阪ホテル

大阪市中之島公園

大阪ホテル (大阪俱樂部)

支配人 大塚卯三郎

電話東京、七番六、七番七、七番八、七番九

博覽會場內(電話東京七六九)

出張所



美術館ノ前奏樂堂ノ隣高丘上ノ好位置ヲ
占メ博覽會場ノ全景一眸ノ下ニ
在リ御料局御出品ノ御殿造リ
日本家屋並ニ茶室ハ弊館ニ接シ其拜
觀ノ取扱方ハ特ニ弊館ニ差許サレタル等
博覽會來覽諸君ノ見逃スベカラザル好休
憩所ナリ
待遇懇切ニ食事精撰低廉ナレ一
定ノ價格ニテ頼ル御便利ニ御食事ヲ最



高がま屋飯田吳藤店

京都 烏丸高辻 南
大 阪 心齋橋筋二丁目
東 京 京橋區西紺屋町

京都東店 輸出向絹織物刺繍品類

槇原貿易店 神戶出張所

元町三丁目



大阪と博覽會

目 錄

- 一 地 圖 博覽會場俯瞰圖、東洋の交通と大阪、大阪市全圖、四區分割圖（二枚）、大阪府下名勝圖
- 一 肖像 總裁開院宮殿下、副總裁男爵平田東助君、事務官長安廣伴一郎君、審査官長男爵大島圭介君、大阪府知事高崎親章君、大阪市長鶴原定吉君、協賛會々長住友吉左衛門君、副會長土居通夫君
- 一 風景寫真版 大阪府廳、大阪城、大阪控訴院、大阪郵便電信局、造幣局、日本銀行大阪支店、大阪商業會議所、大阪商品陳列所、大阪株式取引所、堂島米市場、大阪博物館、泉布觀、梅田停車場、中之島公園、大川納涼、天神橋、湊町停車場、櫻宮、茶臼山、天王寺、高津神社、生國魂神社、心齋橋、川口、舊居留地、道頓堀、築港工事、住吉神社、堺大濱、妙國寺、濱寺公園、箕面公園（以上小川一眞大阪國文社製版印刷）

牡丹 煙草



錢五入本廿 錢貳拾入本十五



錢六入本廿 錢五入本十五



錢四入本廿 錢拾入本十五

壯丹煙草は我
國産の原料
を精選し
葉を乾燥し
製成した
ため味は
優美なり
紙巻煙草
の良體也

製造元 東京 葉千商店
代理店 大阪 西村寺
西村寺 岩次郎
西村寺 岩次郎

第三編 博覽會

四

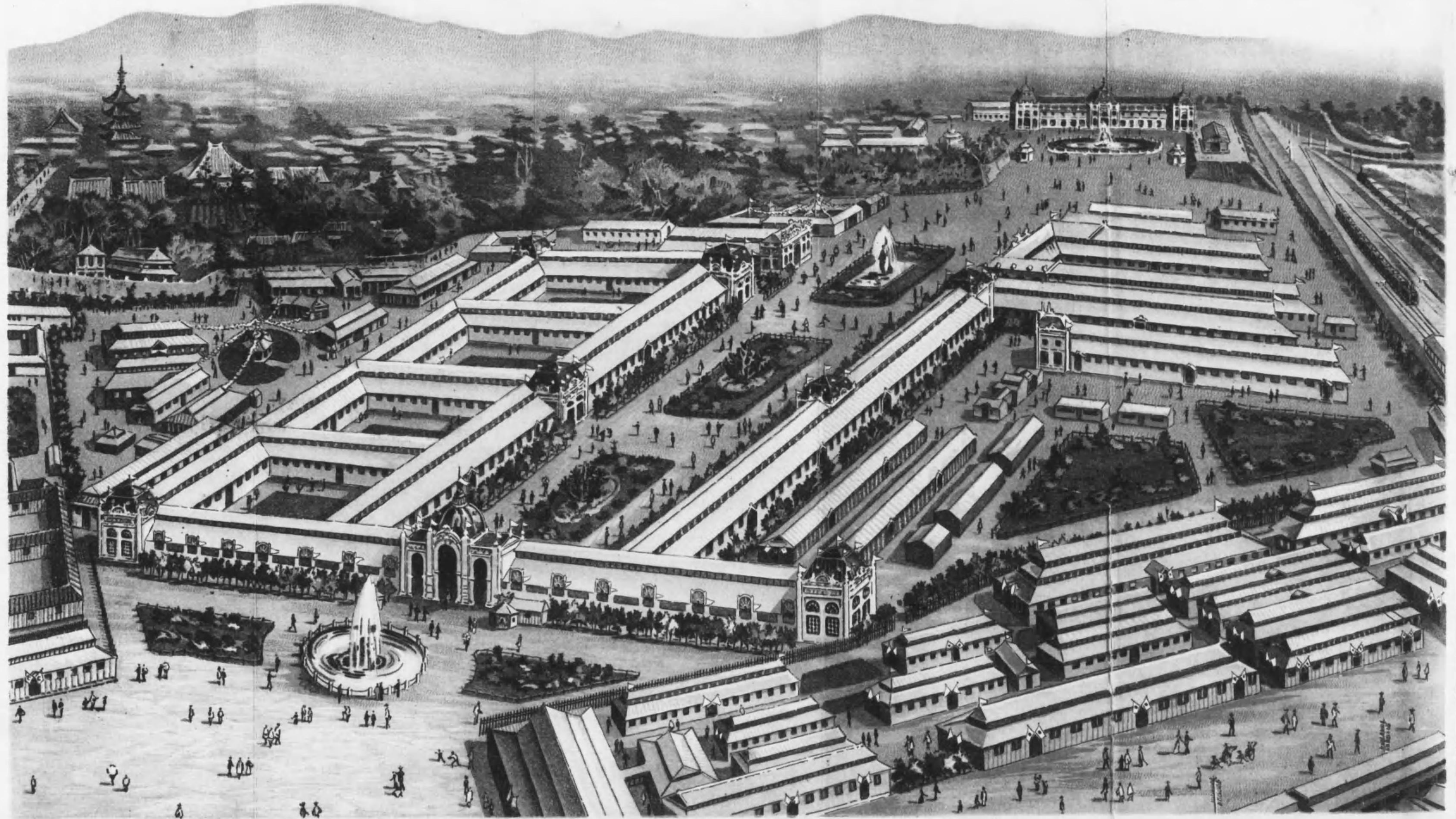
一 內國勸業博覽會畧史	百〇三頁
一 第五回內國勸業博覽會	百〇六頁
事務局、出品觀覽、審査と褒賞、出品の鑑査、出品陳列の方法、出品部類目錄、今宮會場案内、臺灣の出品、各府縣賣店、場内通信運搬機關、堺水族館	
一 博覽會に就ての大阪	百三十四頁
一 各府縣事務所	百三十五頁
一 博覽會協賛會、附公會堂	百三十七頁
一 各種協會の施設	百五十六頁
一 協賛會と諸般の餘興	百五十八頁
一 大阪出品協會	百六十一頁
一 喜寶會大阪支部	百六十二頁
一 商店改良會	百六十三頁

第四編 市中の見物

一 町案内	百六十五頁
一 官衙	百七十五頁
一 大阪の三大工事	百七十八頁
一 大阪城	百八十九頁
一 造幣局	百九十二頁
一 泉布觀	百九十四頁
一 博物場	百九十五頁
一 大阪の三新聞	百九十七頁
一 納涼臺	百九十九頁
一 神社、佛閣、名所、舊蹟	全上
東區	全上
西區	二百五頁
南區	二百八頁
北區	二百廿三頁
一 商賈群集の狀況	二百三十頁

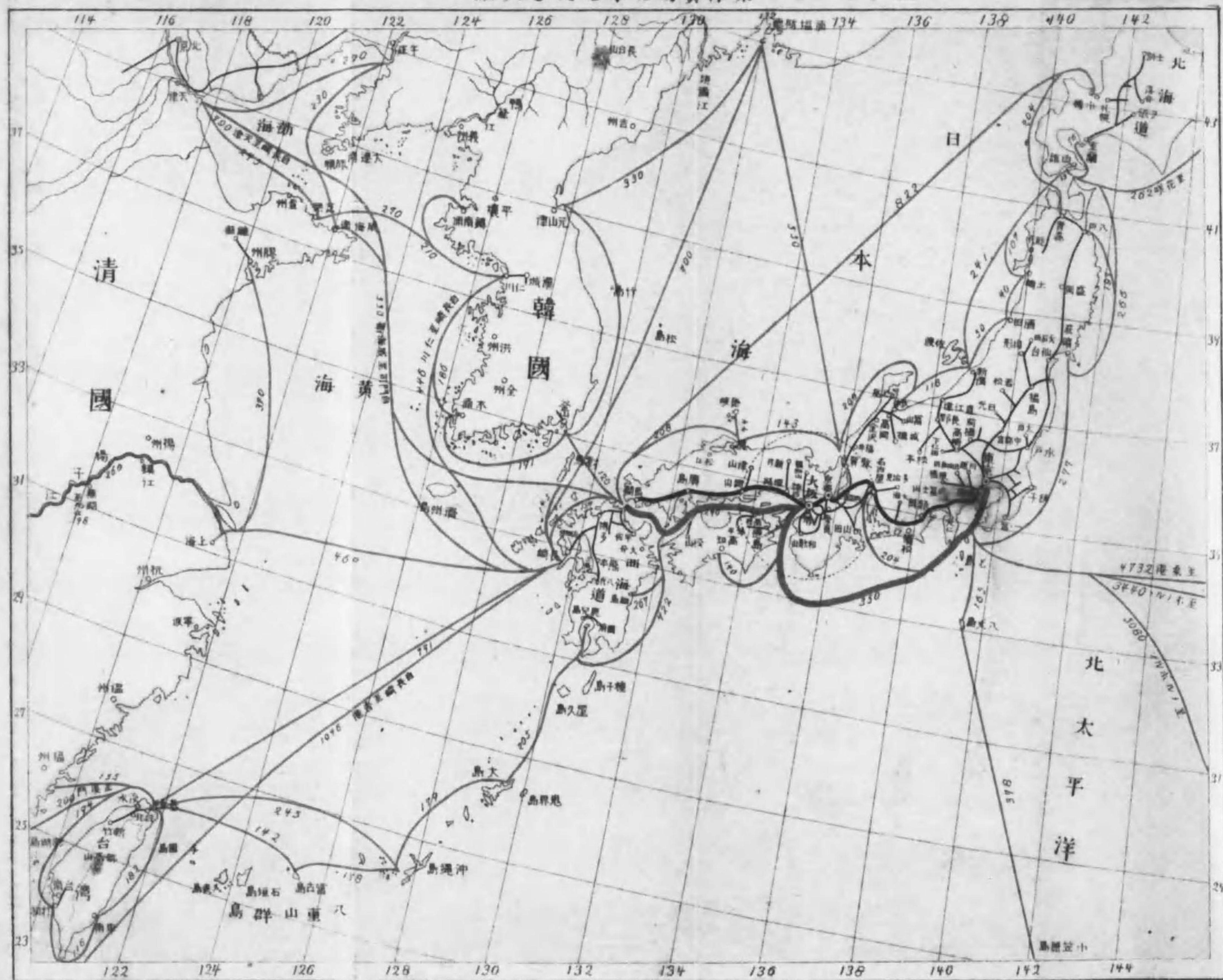
五

第五回國內勸業博覽會俯瞰圖

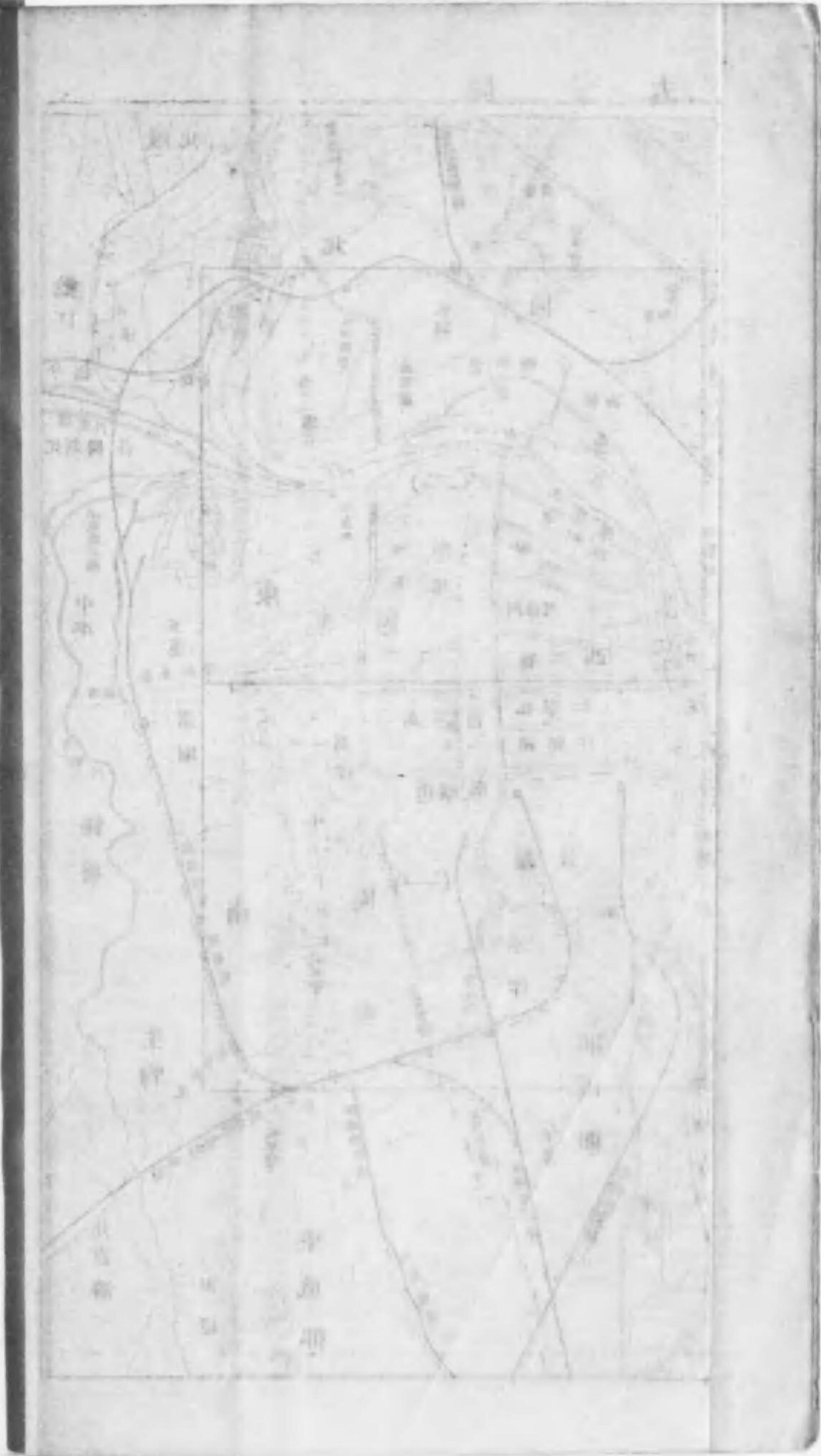


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

坂大3た心中の易貿洋東



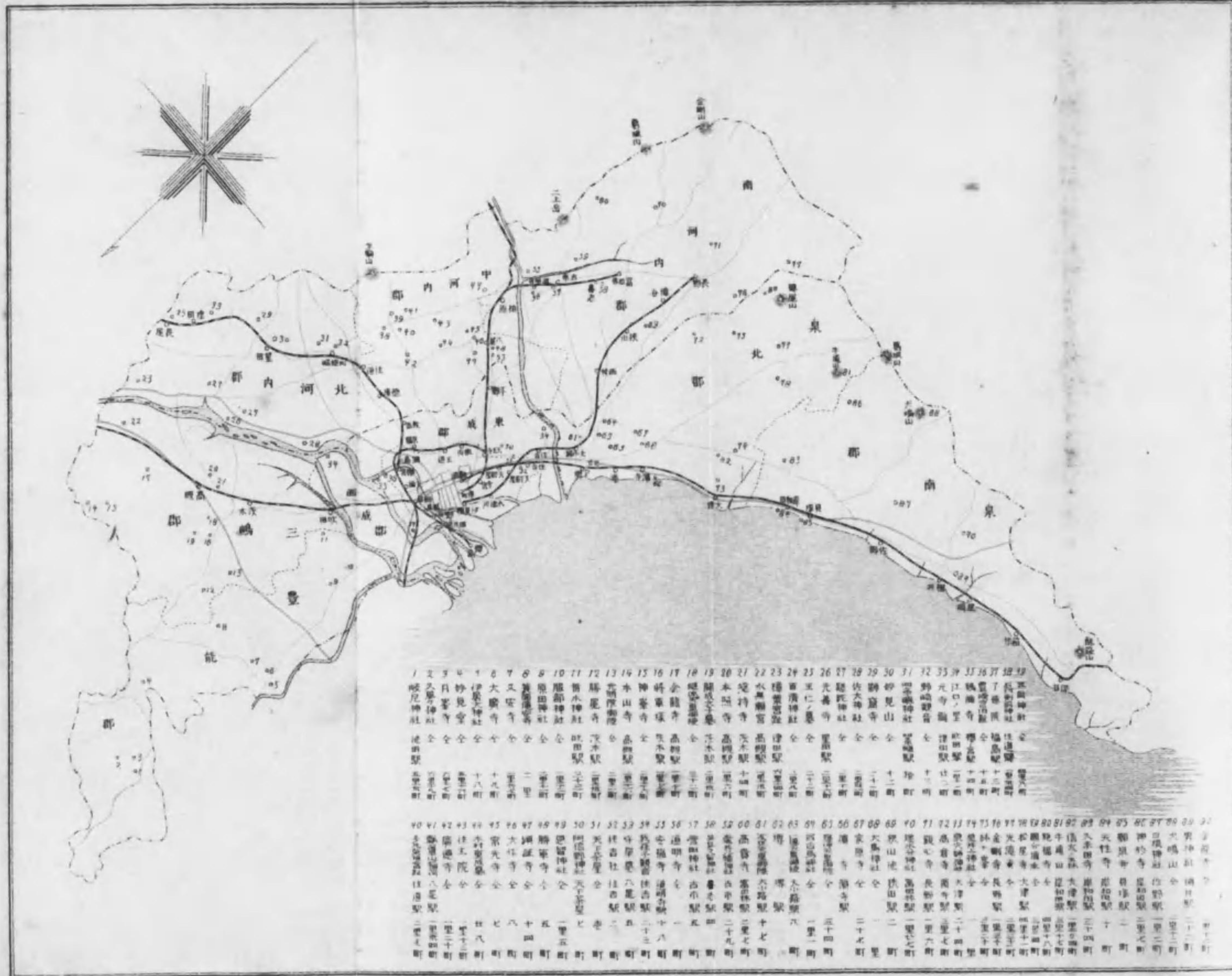
(一) 區 劃 分 阪 大



(二) 區 分 割 圖



大阪府下名勝圖



1	成尼神社	2	文徳神社	3	月宮神社	4	妙見神社	5	大徳寺	6	大徳寺	7	大徳寺	8	大徳寺	9	大徳寺	10	大徳寺	11	大徳寺	12	大徳寺	13	大徳寺	14	大徳寺	15	大徳寺	16	大徳寺	17	大徳寺	18	大徳寺	19	大徳寺	20	大徳寺	21	大徳寺	22	大徳寺	23	大徳寺	24	大徳寺	25	大徳寺	26	大徳寺	27	大徳寺	28	大徳寺	29	大徳寺	30	大徳寺	31	大徳寺	32	大徳寺	33	大徳寺	34	大徳寺	35	大徳寺	36	大徳寺	37	大徳寺	38	大徳寺	39	大徳寺	40	大徳寺	41	大徳寺	42	大徳寺	43	大徳寺	44	大徳寺	45	大徳寺	46	大徳寺	47	大徳寺	48	大徳寺	49	大徳寺	50	大徳寺	51	大徳寺	52	大徳寺	53	大徳寺	54	大徳寺	55	大徳寺	56	大徳寺	57	大徳寺	58	大徳寺	59	大徳寺	60	大徳寺	61	大徳寺	62	大徳寺	63	大徳寺	64	大徳寺	65	大徳寺	66	大徳寺	67	大徳寺	68	大徳寺	69	大徳寺	70	大徳寺	71	大徳寺	72	大徳寺	73	大徳寺	74	大徳寺	75	大徳寺	76	大徳寺	77	大徳寺	78	大徳寺	79	大徳寺	80	大徳寺	81	大徳寺	82	大徳寺	83	大徳寺	84	大徳寺	85	大徳寺	86	大徳寺	87	大徳寺	88	大徳寺	89	大徳寺	90	大徳寺	91	大徳寺	92	大徳寺	93	大徳寺	94	大徳寺	95	大徳寺	96	大徳寺	97	大徳寺	98	大徳寺	99	大徳寺	100	大徳寺
---	------	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----





總裁院宮殿下

武 則 天

武則天 (624-705) was a Chinese politician, military general, and emperor of the Zhou Dynasty (690-705). She was the only female emperor in Chinese history. Her reign was marked by significant military expansion and political reforms. She is often depicted in traditional Chinese attire, and her image has been a subject of historical and cultural study.

豈
商標



懷中良藥
清快丸
製劑所 大阪 高橋盛天堂藥局

販賣所は全國到る所ふあり

大 菅 菴 總 長 介



副 總 助 東 田 義



安 事 務 長 一 郎



大阪東區高麗橋丁九十六番屋敷
大 阪 麥 酒 株 式 會 社
 (大 阪 支 店 販 賣 部)
 電 話 特 二 六 一、四 五 六



大 阪 市 長 關 原 定 吉 君



大 阪 知 府 高 橋 親 章 君



會長住友吉左衛門君



副會長土居通夫君



大 學 目 藥



商
標

堂
商

世の進むに従ひ目薬にも
こんな立派な物が出来ました

(家本祖元丸ンリブへ) 目丁一濱北市阪大

行 設 房 藥 堂 天 參

▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
 星のぼせ 目のぼせ
 トラホーム 目のぼせ
 はやり目 目のぼせ
 打撲 目のぼせ
 血まみれ 目のぼせ
 突き 目のぼせ
 疲労 目のぼせ
 外傷 目のぼせ
 一切に驚くべ
 き確効あり

効能の概略

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



發賣元

東京

大阪

支店

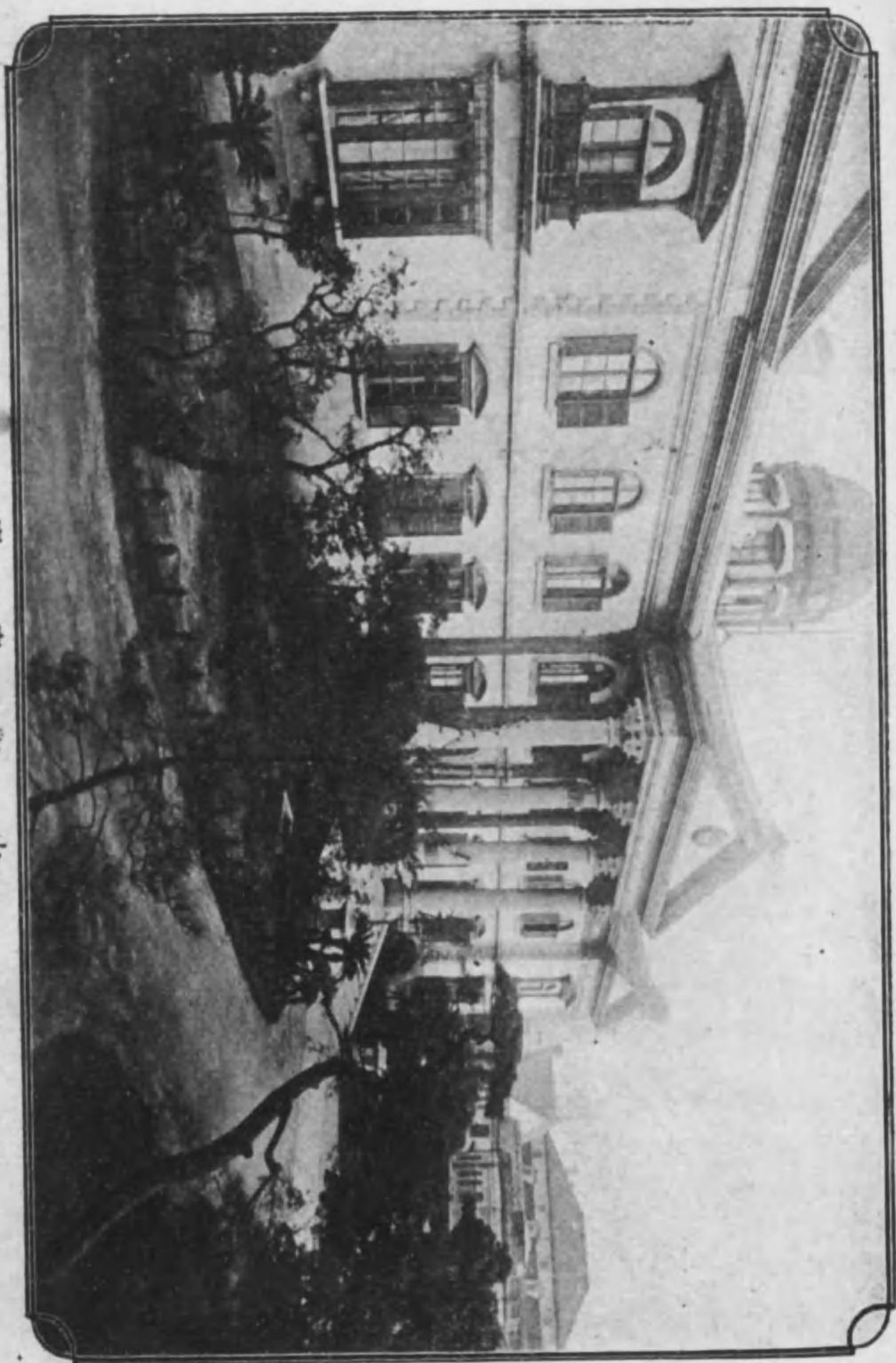
小林富次郎

獅子印

シライロ

磨齒

露光量違いの為重複撮影



大 阪 府 廳

獅子印
ニオイラ
磨齒

高次郎
支店

關西鐵道

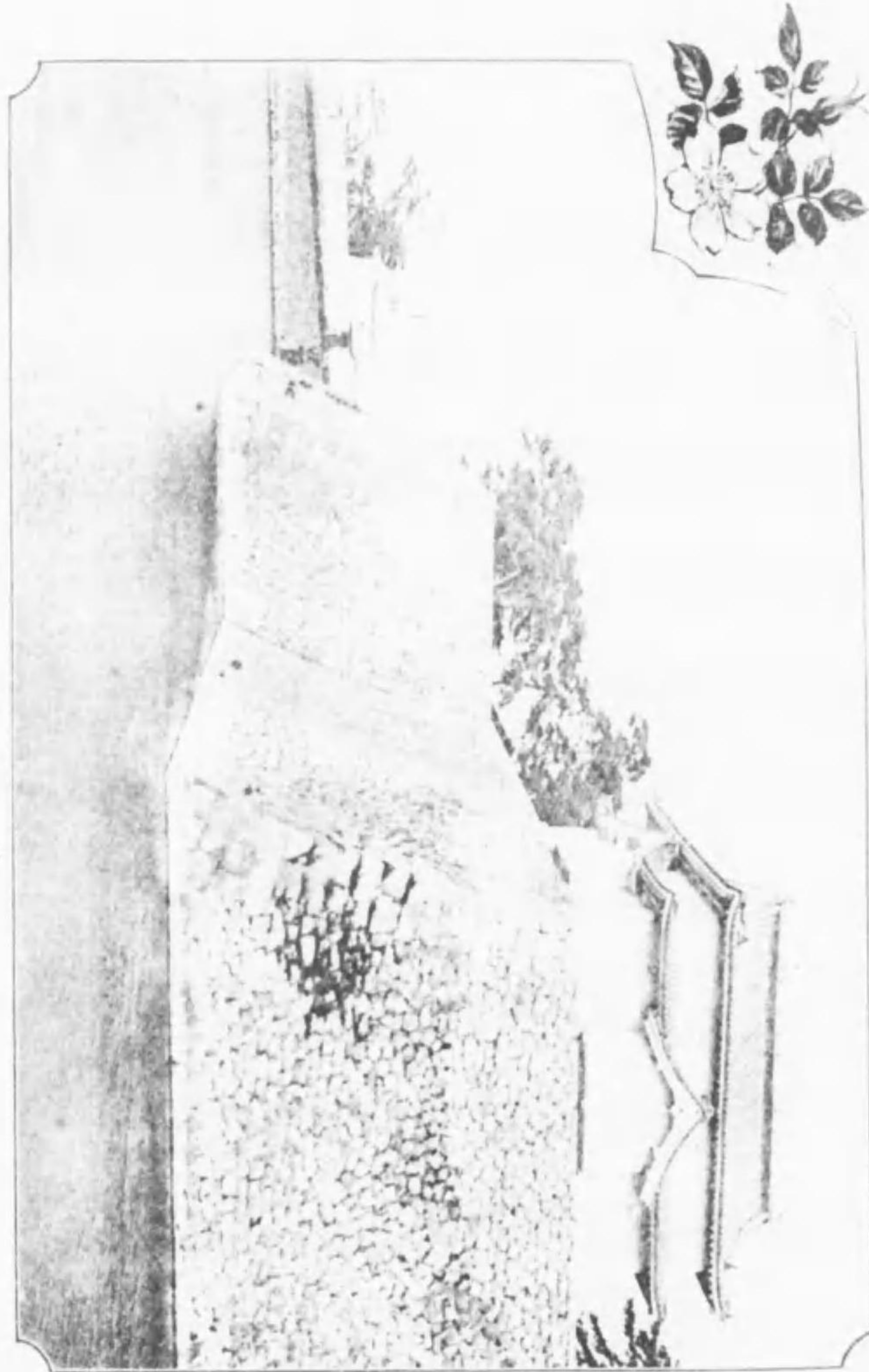
伊勢參宮大和めぐり高野參野便利



大阪名古屋間

直行列車 毎日双方より六回宛差立つ内双方二回の急行列車は僅五時間内に於ける官線との接続宜し
 列車の設備 列車は新式大ギヤ車に於ける官線より、夜間は各車室内に電燈に優る「セント」式瓦斯を點火し給仕行商人 毎列車に給仕を乗込せあり相當の所用を仰付けられたり又行商人を乗込せしめ各種飲食品を販賣せしむ

- 第五回博覽會 是天王寺驛傍なる内國勸業博覽會にも拘はらず尚ほ同驛より場内へ引込線を布き特に停車場を設け博覽會場と稱へ開會中毎列車乗客の乗降荷物の發着を取扱ふ
- 伊勢參宮 大廟參拜の旅客は本線大和驛にて參宮線前行列車に乗換へらるべし
- 大和めぐり 奈良見物、月瀨深置深野の旅客は孰れの方面より本線鐵道に據らるべし
- 高野參詣 西國關東孰れより本線橋本又は名倉驛にて下車する方便宜なり



新
大
六

大阪市東區本町四丁目
株式會社
第二銀行 大阪支店
電話(特)東區五五番
電話(特)東區五五番

預金利息

定期預金 年利 六分五厘

當座預金 日歩 壹錢

別口當座 日歩 壹錢四厘

通知預金 利息ハ其時々御相談可仕候

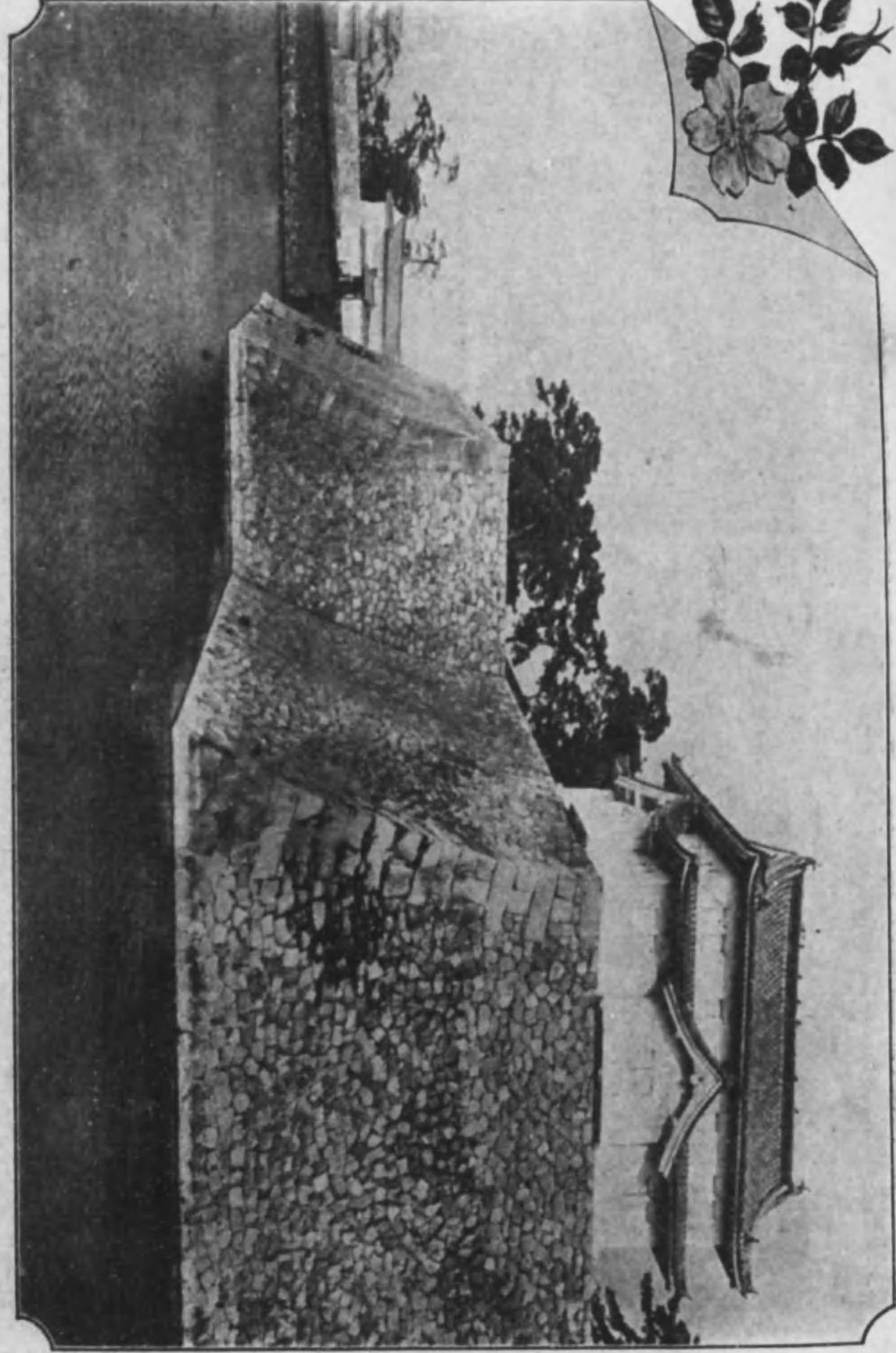
銀行一般ノ業務何事ニ不限御便利ニ取扱可申候

全國取立無手数料

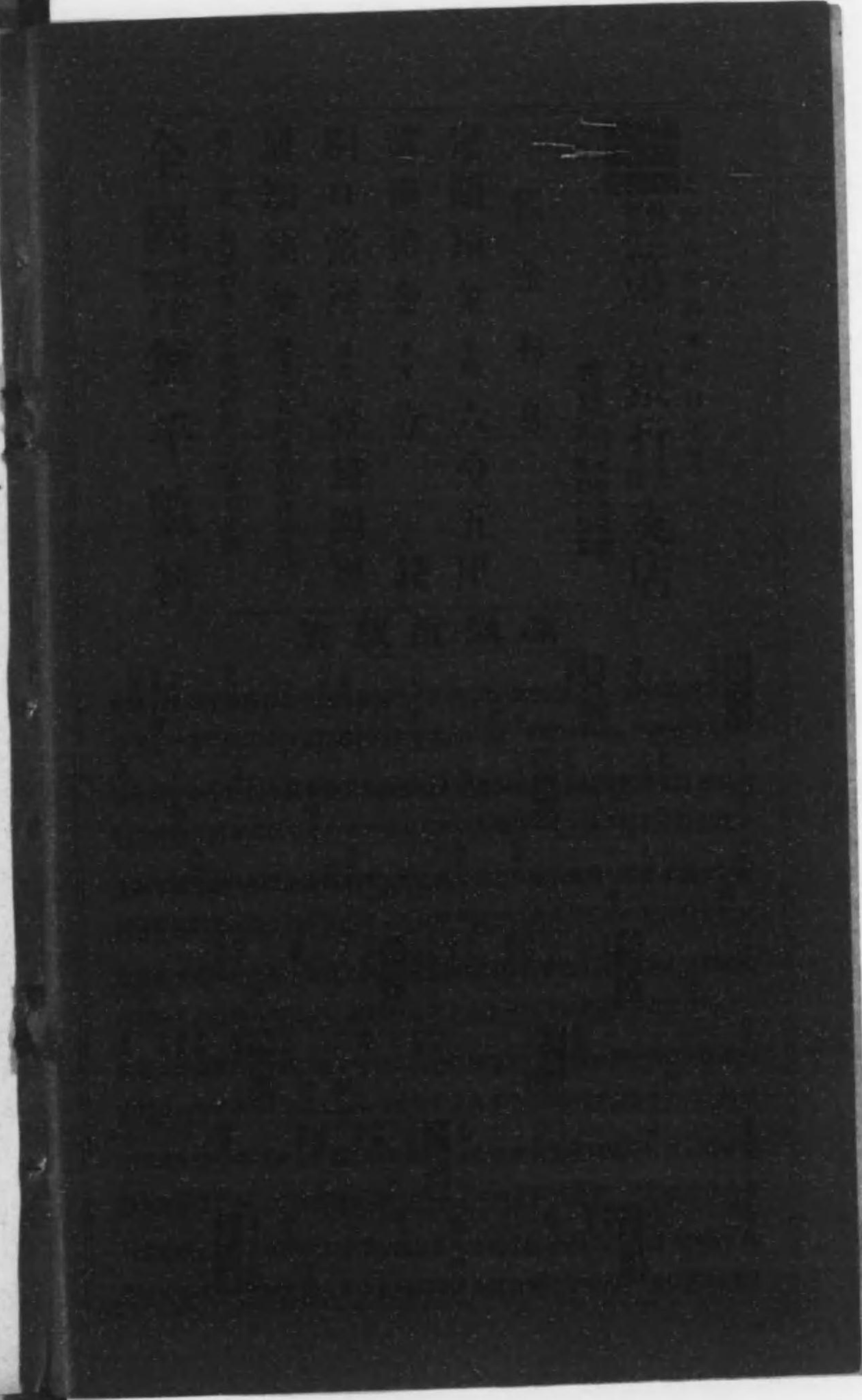
先組取換為

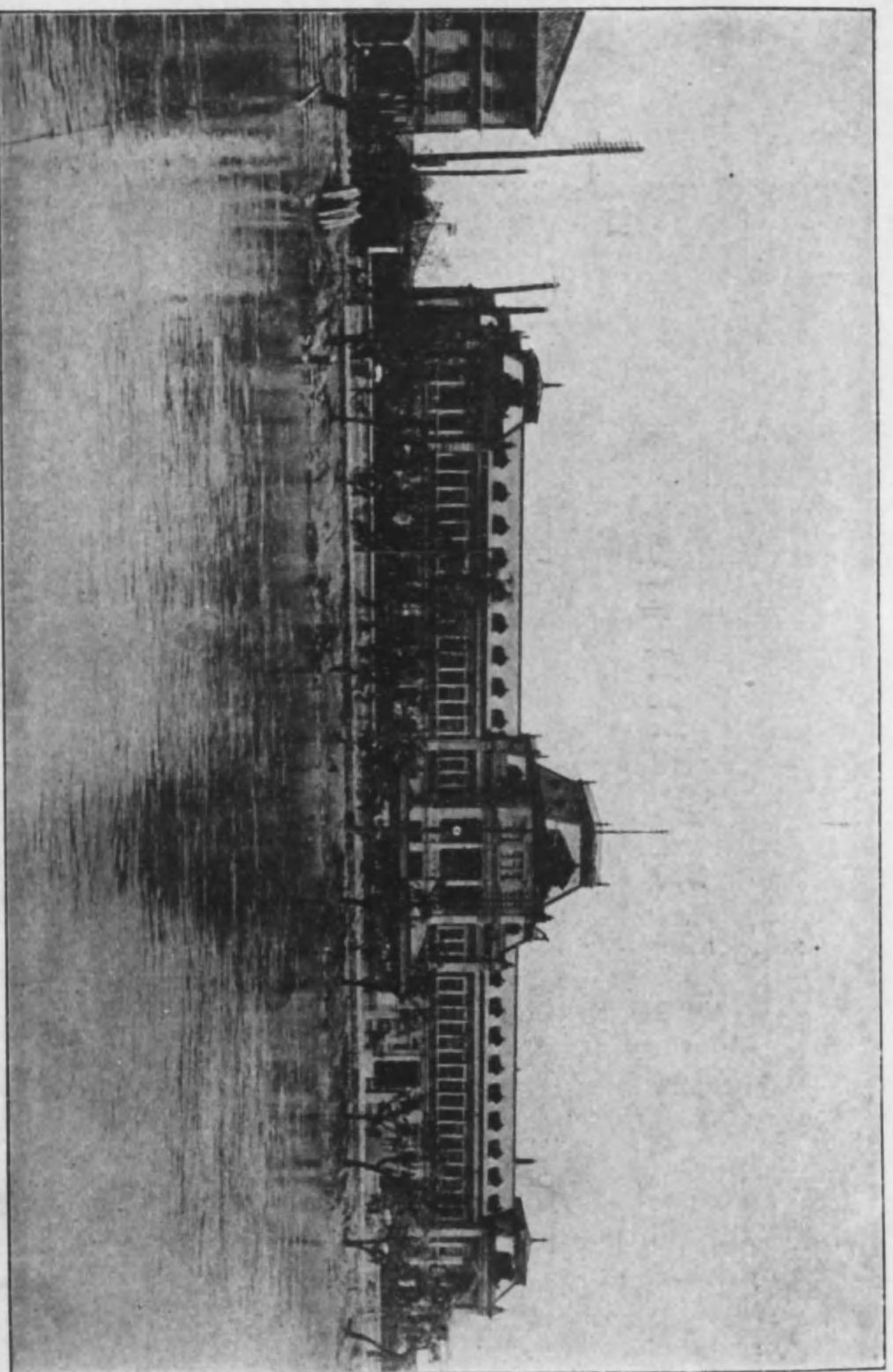
東橋小甲沼江靜	掛旗盛二中	飯豐有尾	尾名長香	室西津	河津松	山	東海	兵神八山西	京
京濱原府津	岡川井	泉松	松田	尾島取	山	坂崎田	庫戶	神崎	陸部
足前高伊中小	松竹今高	多油墨	船相高	岐大重	彦長大	水結	鏡佐千	東飯	熊川
利橋崎野	諸本鼠尾	須見野	俣附	妻田	草垣井	根濱津	戶城子	原	能谷
士秋本酒湯	加福谷	新山	長米	鱒	五所	八	花水	小桑	川
崎田	甘田	澤茂	岡地	庄	形井	澤	石前	森	戸
水東新永	富高七	大金	小福	武三	致	帶浦	綱	厚根	札岩
橋瀨	湊見山	岡屋	寺	澤松	井牛	國寶	廣河	走路	岸
福笠玉	岡倉	姫明	高	三松	字今	坂丸	高德	新田	橋名
山岡島山	飯路	石	知	濱山	島治	出	松島	宮邊	本手
出船木	今松	安	根	境	米倉	島	澤	出	舞
東鷺	永市	江來	明	子吉	取坂	石	山	關	口
打基	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺
和隆	中北	市	島	崎	岡	吉	井	本	鹿

露光量違いの為重複撮影



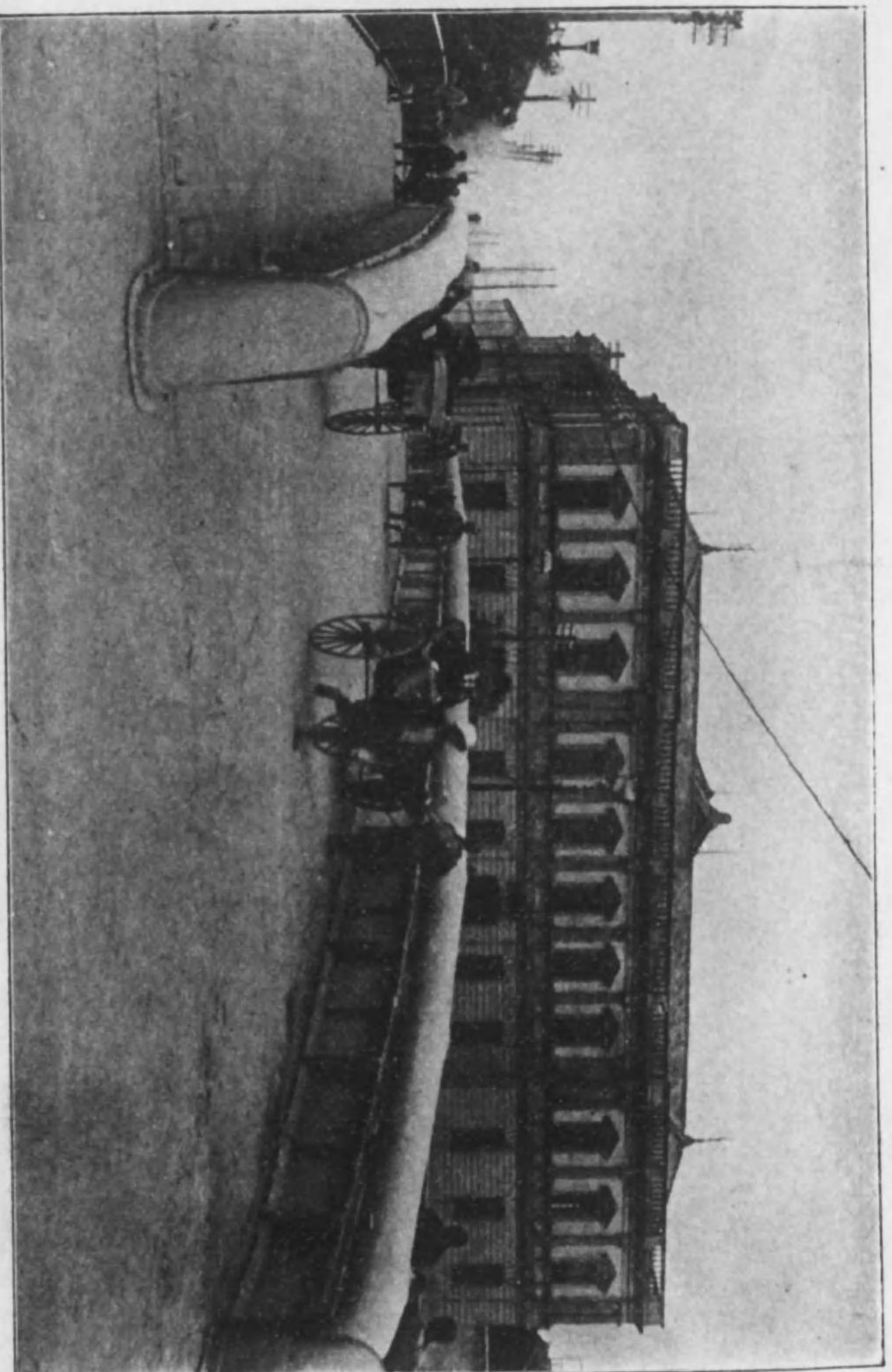
大坂城





大 阪 港 院





大坂郵便電信局





大阪本店

心齋橋壹丁目
十合呉服店

電話 特東七七七番
東二七四三番

京都支店
四茶通室町東
十合呉服店

電話 四二二番

神戸支店
元町五丁目
十合呉服店

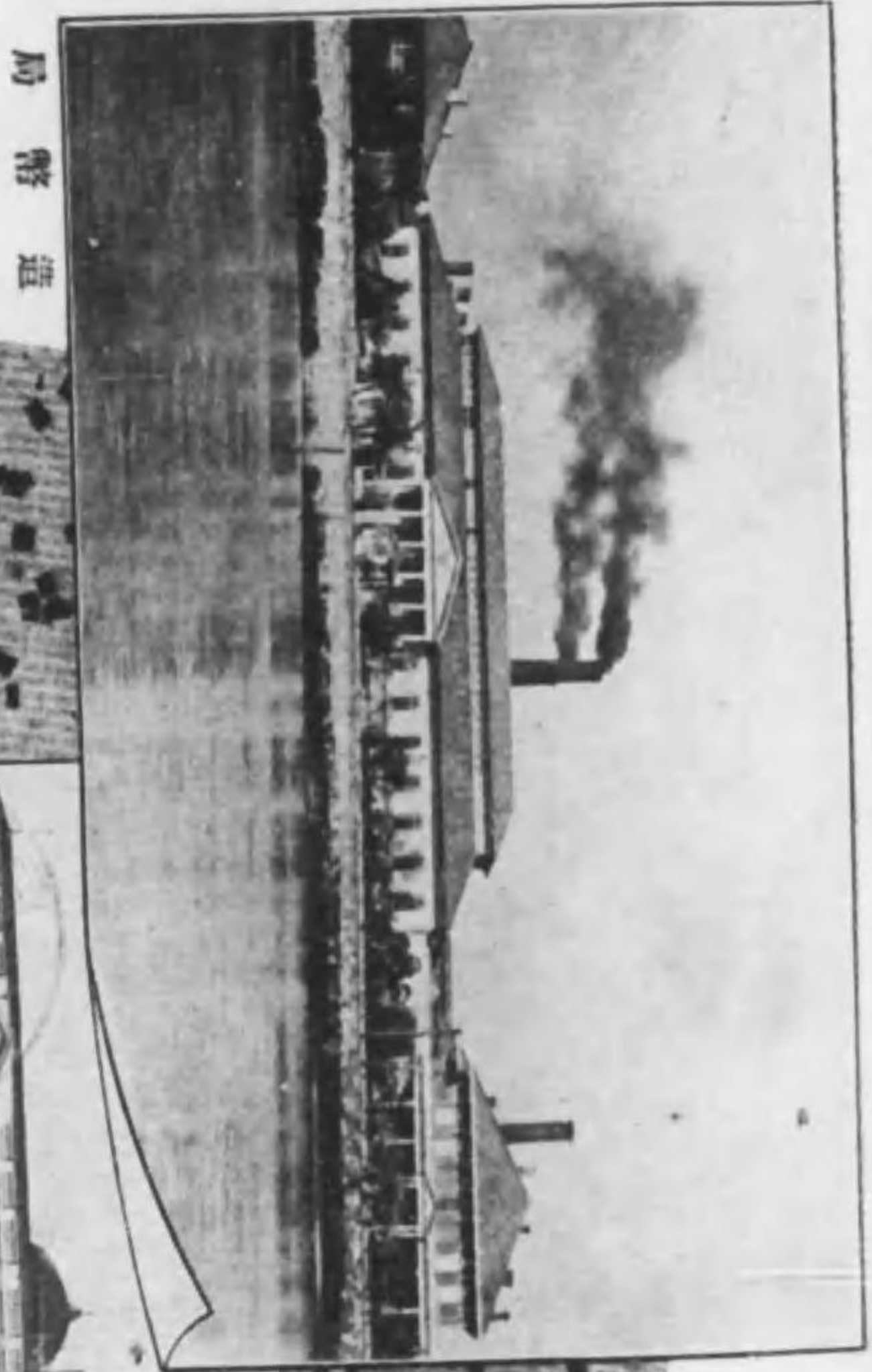
電話 五一〇番

酒 清 粹 純

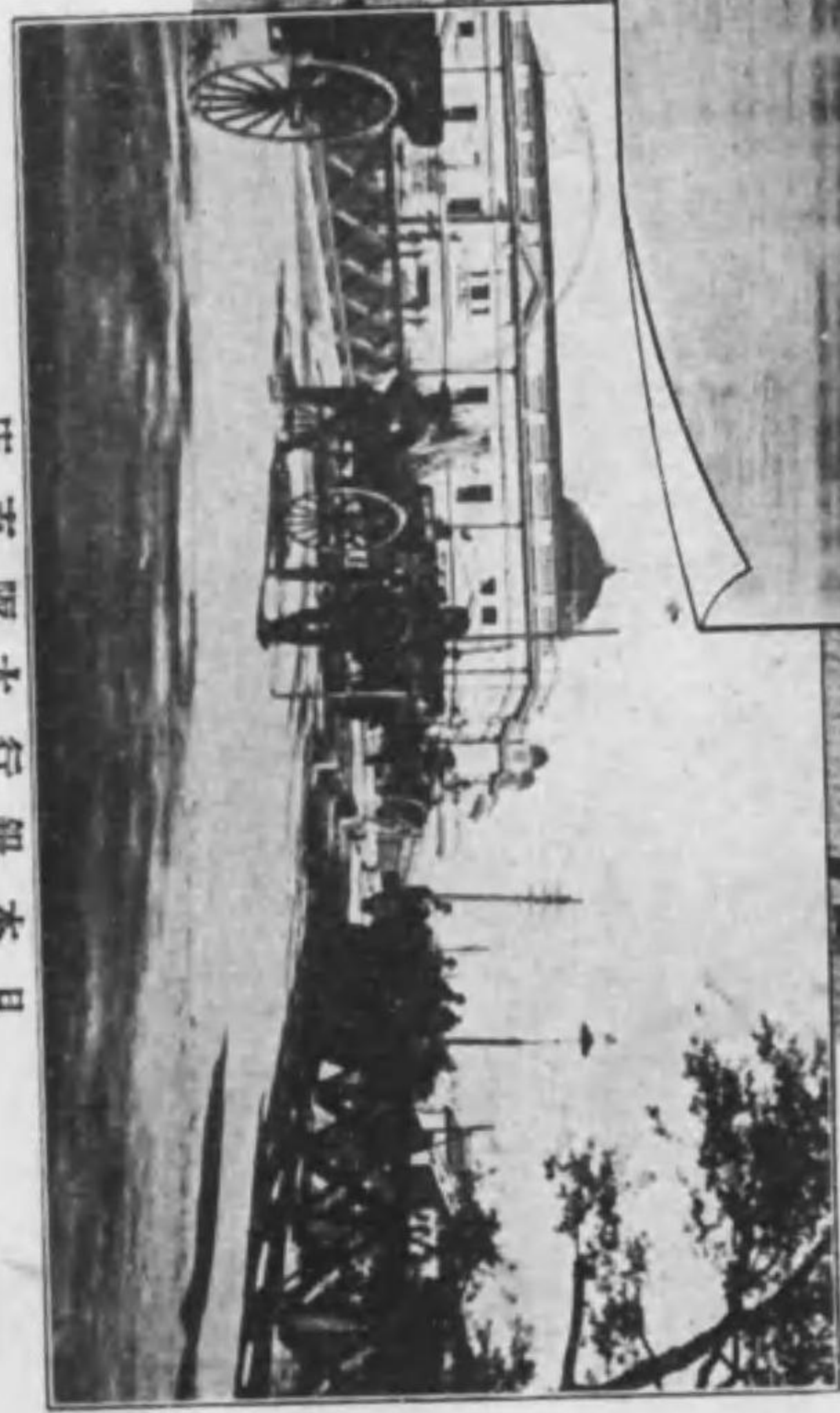


石 崎 合 資 會 社

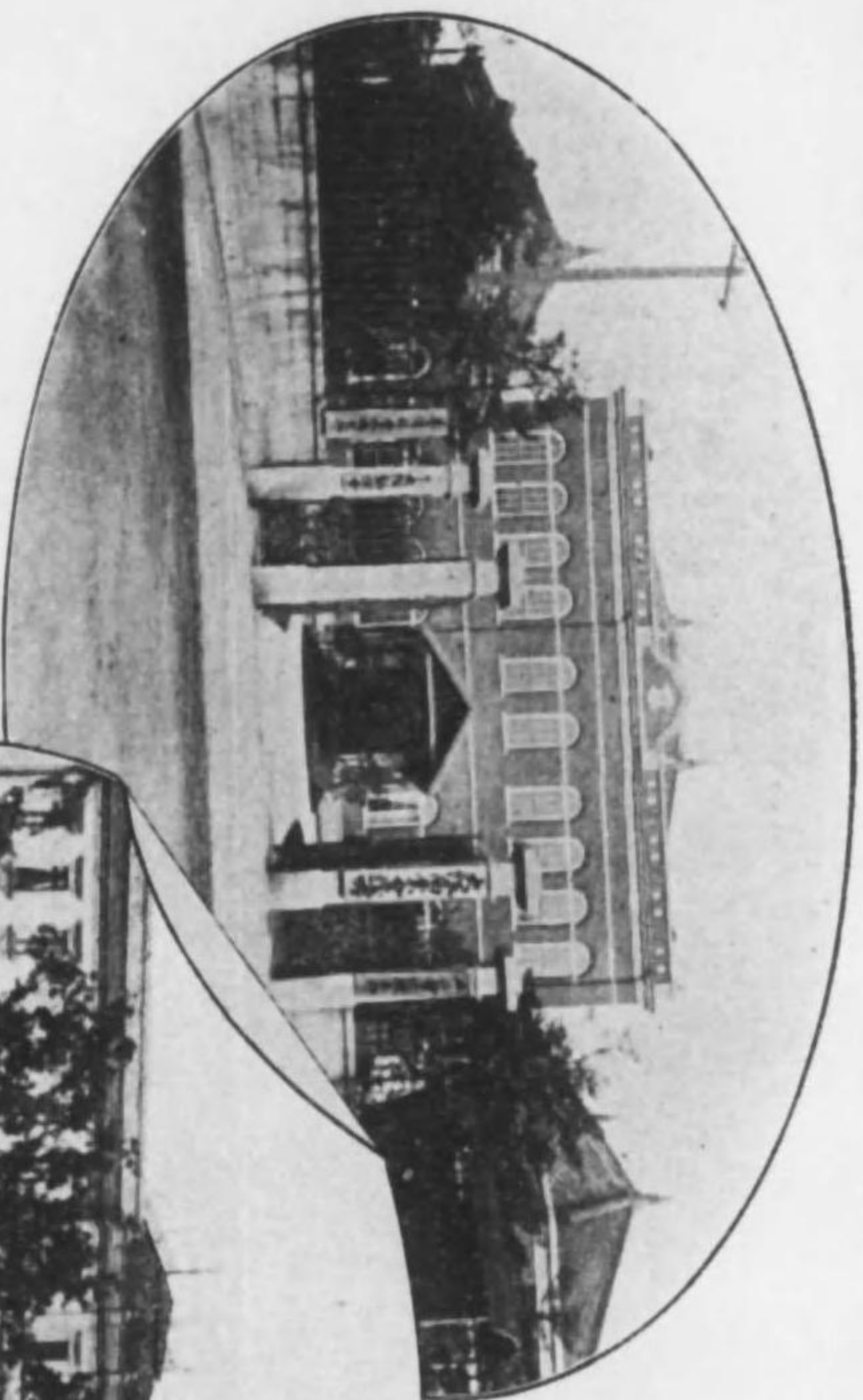
同	同	同	同	同	同	同	同	支	釀	本	
								店	造	店	
									場		
橫濱太田町四丁目	同 京橋區三十間堀二丁目	同 芝區宇田川橫町	同 神田區五軒町	同 麴町區三番町	東京日本橋區元大阪町	同 南區周防町堺筋	同 南區周防町堺筋	同 南區周防町堺筋	大阪市西區玉造橋南詰	攝津灘新在家	大阪市東區平野町二丁目



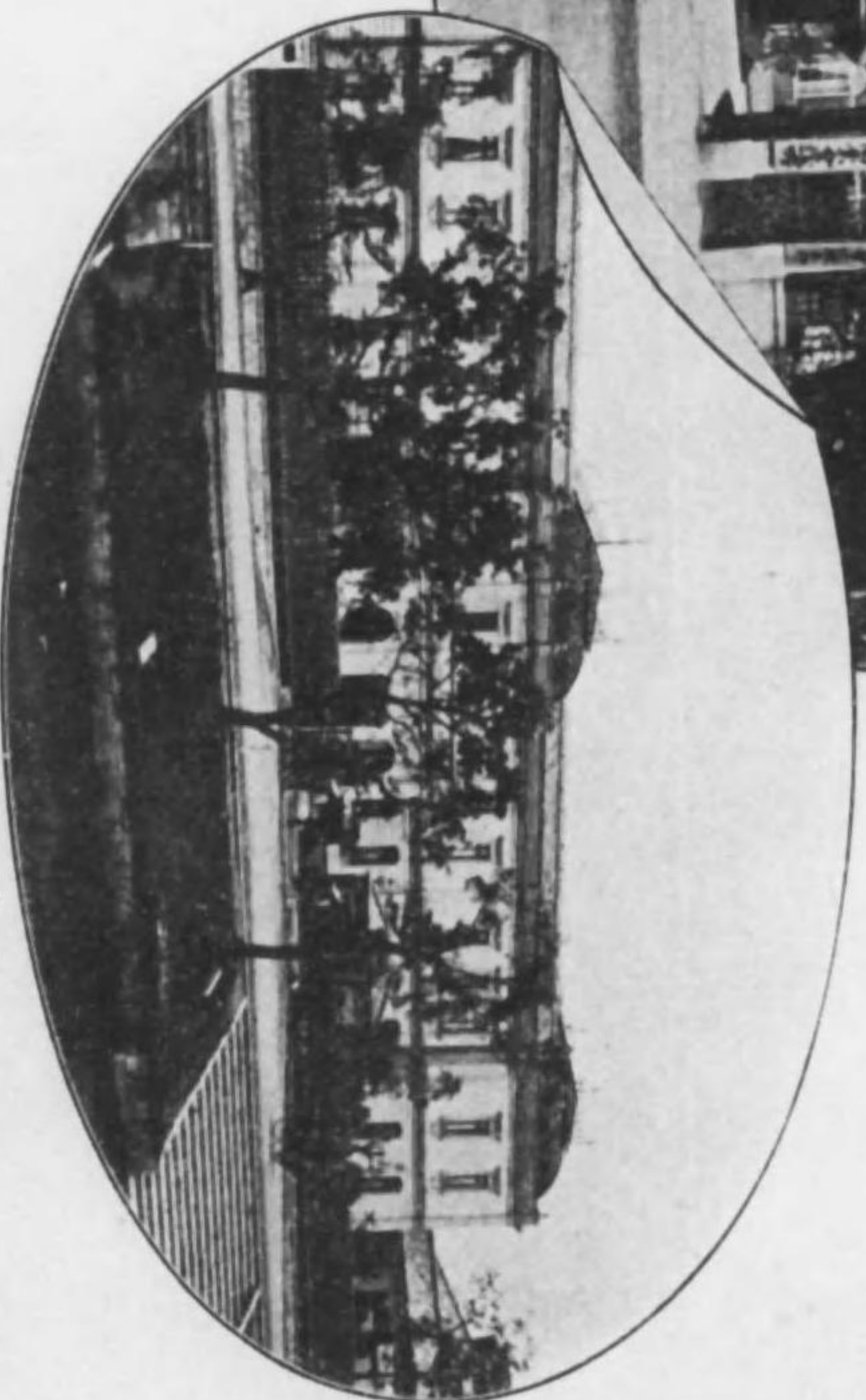
鳥 營 造



日 本 銀 行 大 阪 支 店



大阪商會議所



府立大阪商品陳列所

無限責任
住友銀行

市内 本店 市内

川口支店 北區富島町
船場支店 東區北本町三丁目

大阪市東區
今橋四丁目

中島支店 北區中之島五丁目
道頓堀支店 西區道頓堀通三丁目

各地支店所在地

神戶 廣島
門司 東京
京都 若松
尾道 兵庫
新居濱 吳

行主 住友吉左衛門
支配人 田邊貞吉



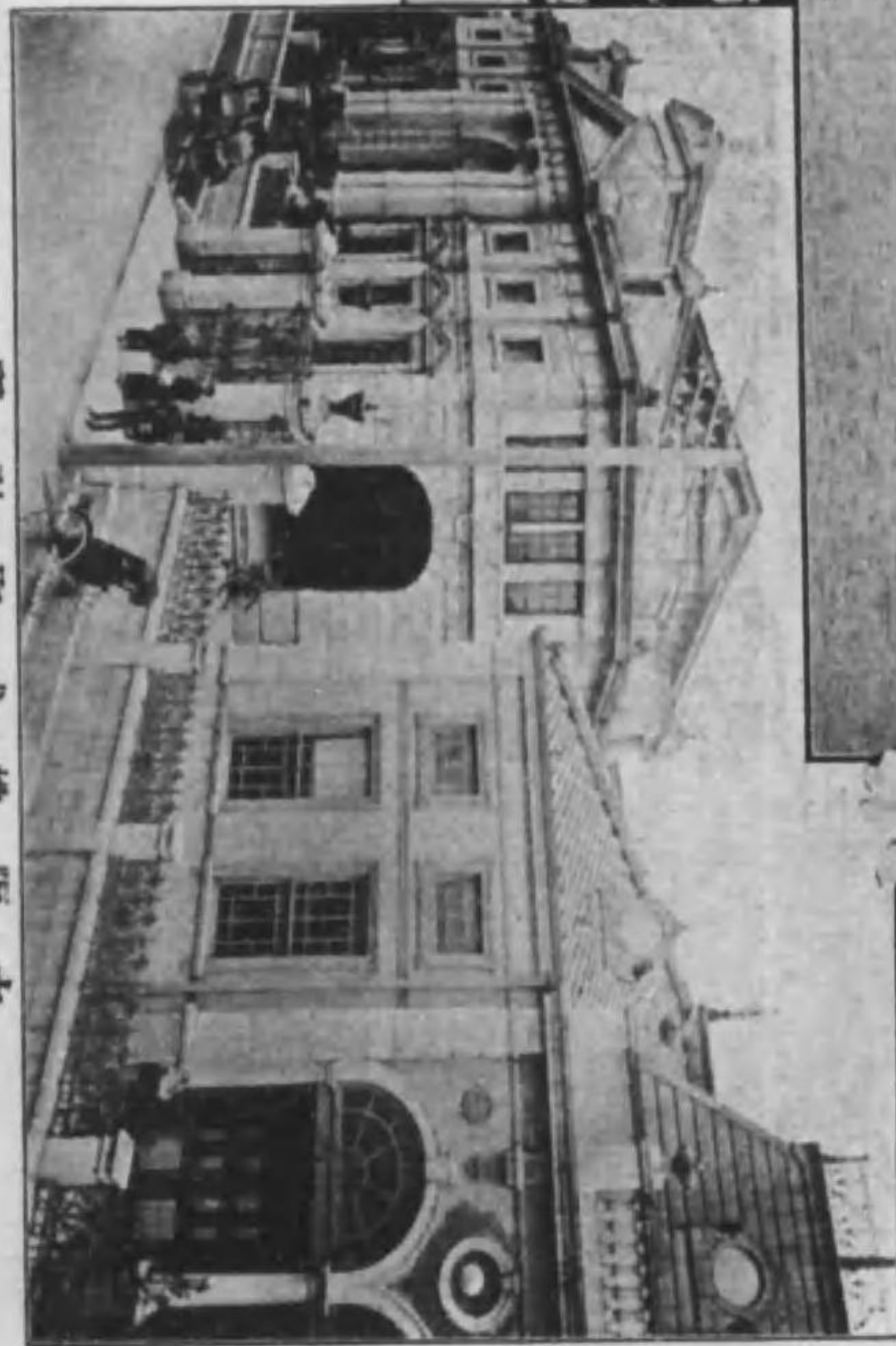
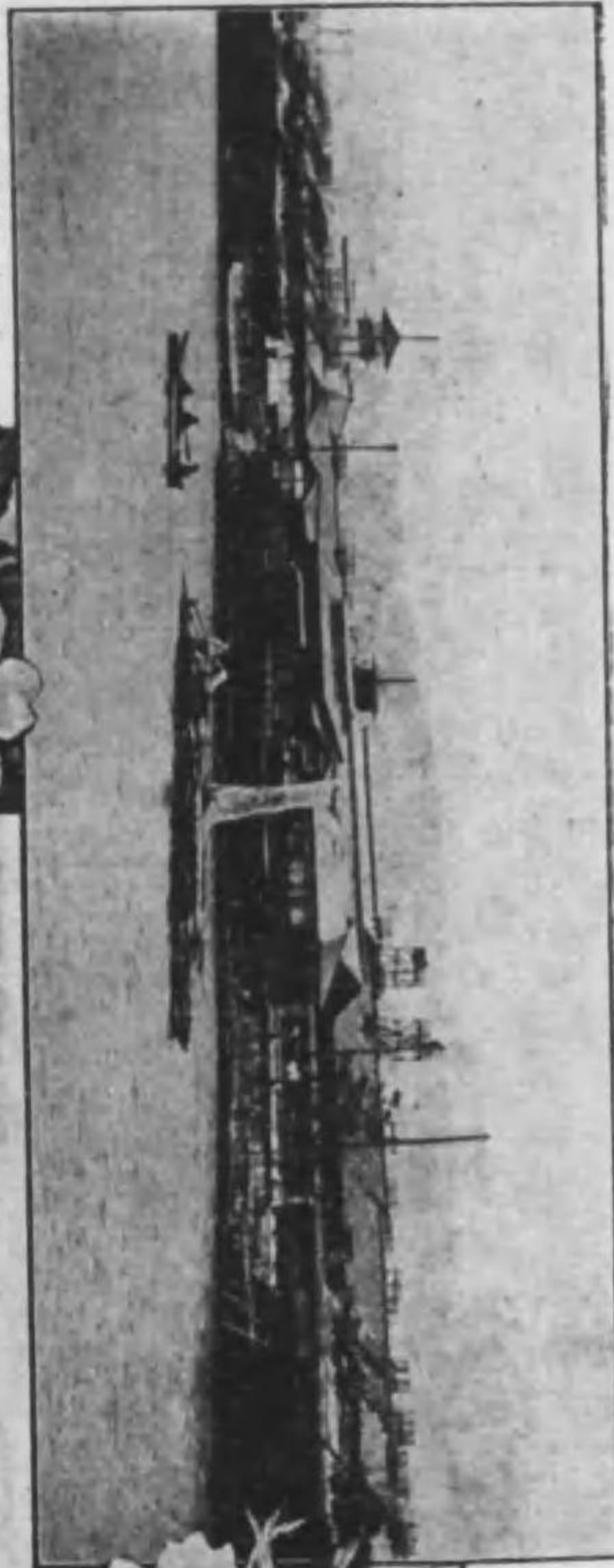
合名社會 鴻池銀行

大坂市東區今橋貳丁目

中之島支店	大坂市中之島秋月橋西詰
上町支店	大坂市内安堂寺町松屋町角
西支店	大坂市西區松島橋東詰
鞆出張所	大坂市西區鞆上通三丁目
東京支店	東京市日本橋區南茅場町
京都支店	京都市四條烏丸西入
神戸支店	神戸市榮町通三丁目
名古屋支店	名古屋市新柳町
金澤支店	金澤市石浦町香林坊
岡山支店	岡山市西中山下
兵庫出張所	神戸市兵庫湊町一丁目

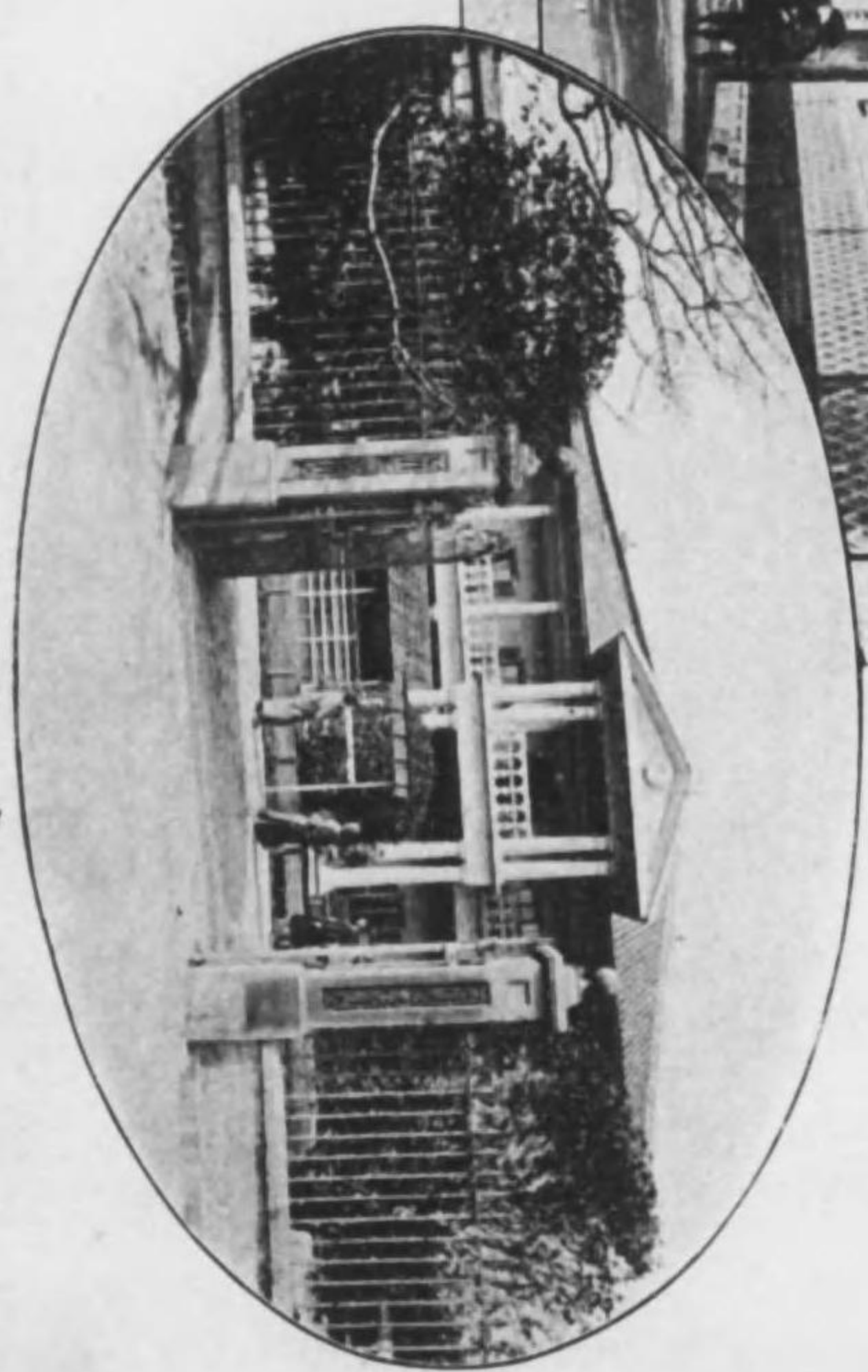
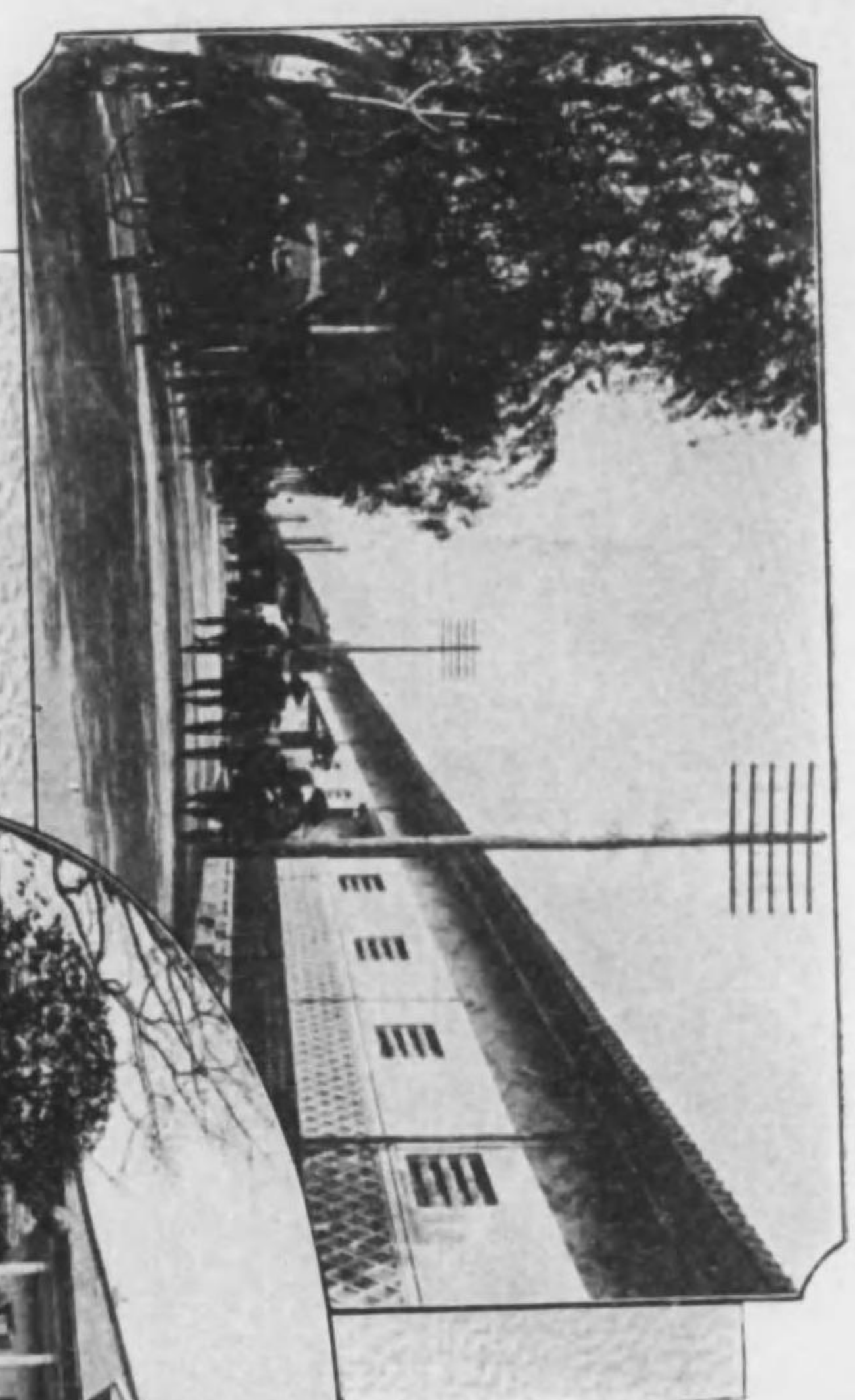
大坂總店營業部印

鹽米島市



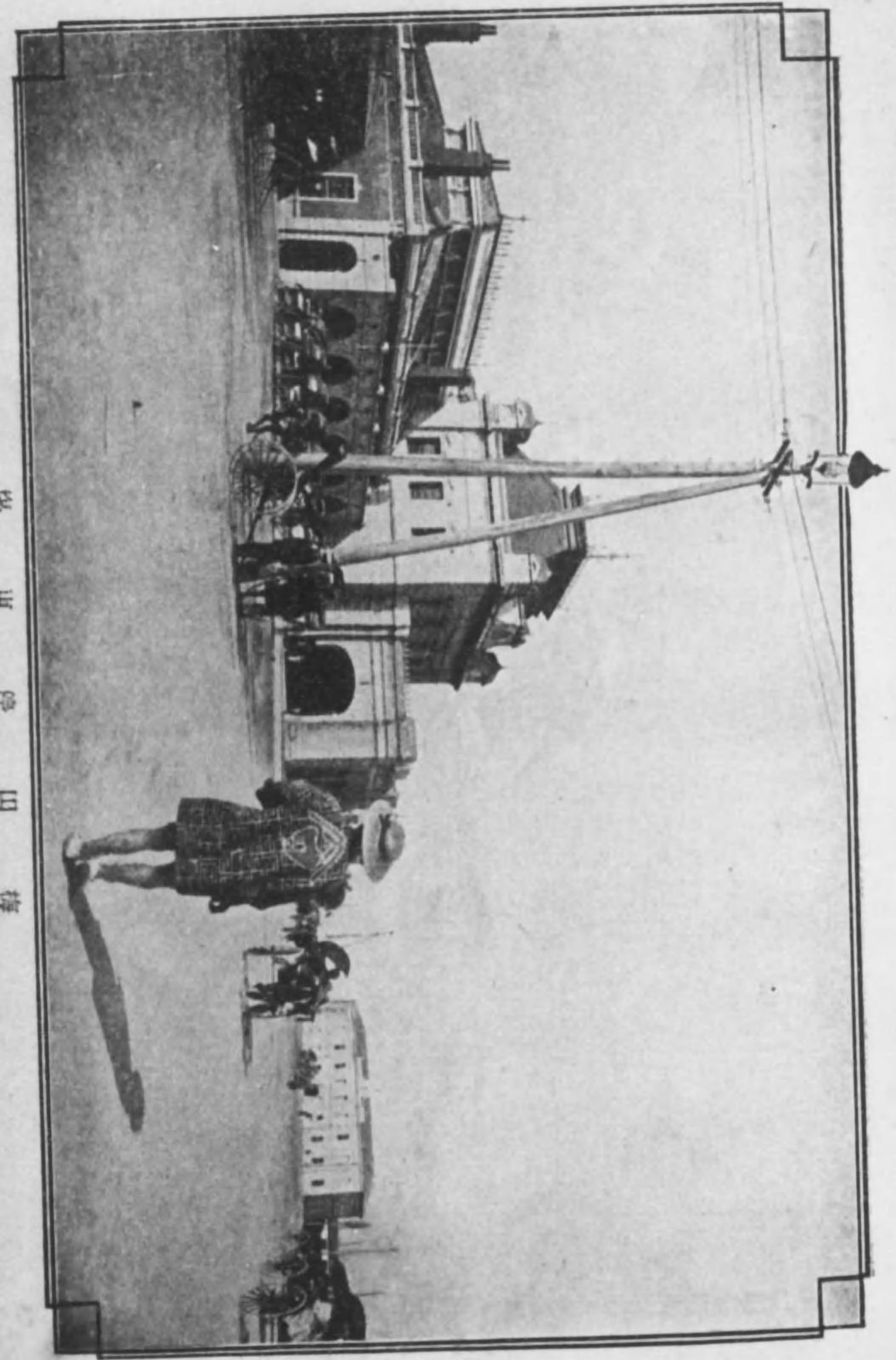
大坂株式會社引所

府立大阪博物館

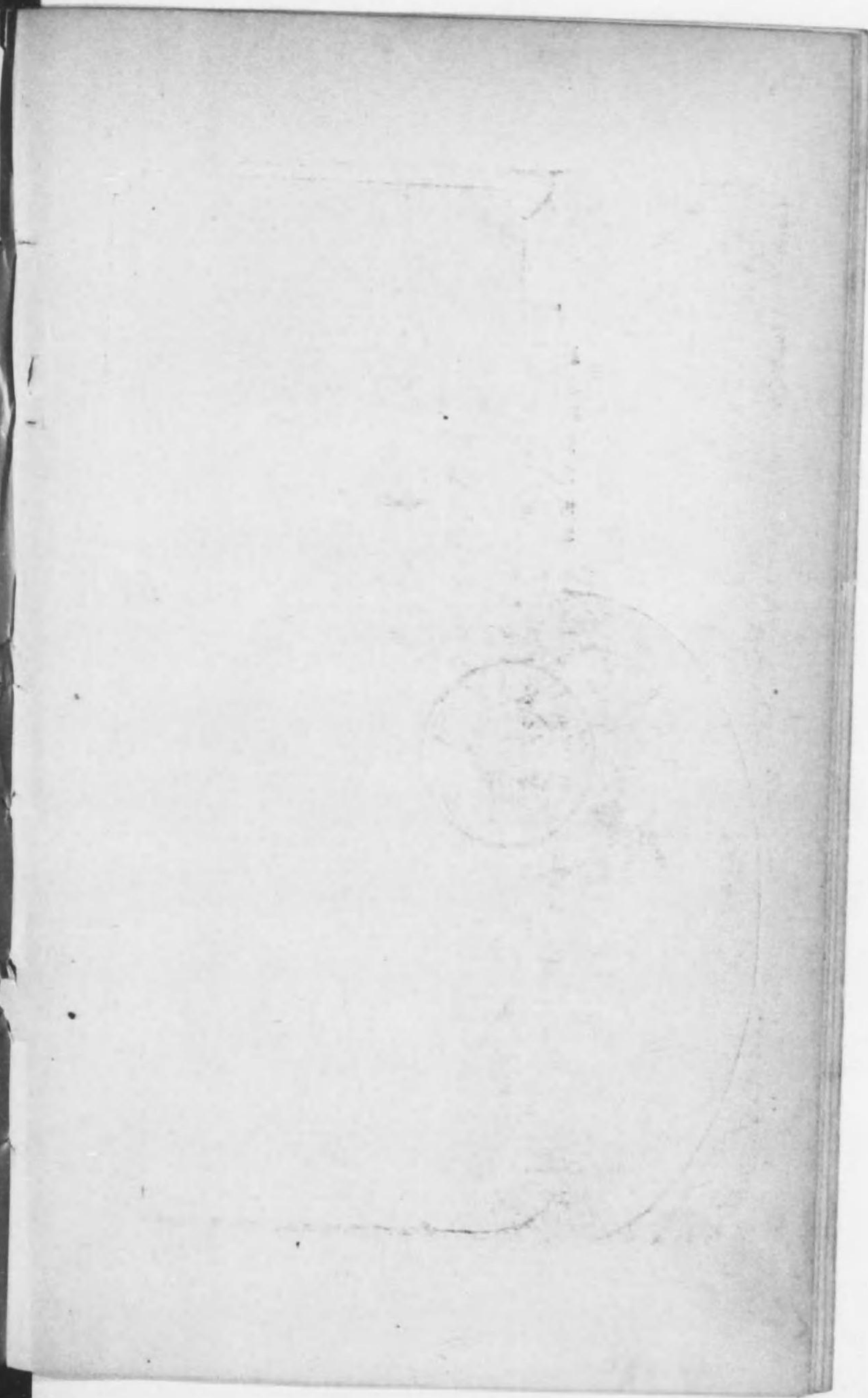


泉布園



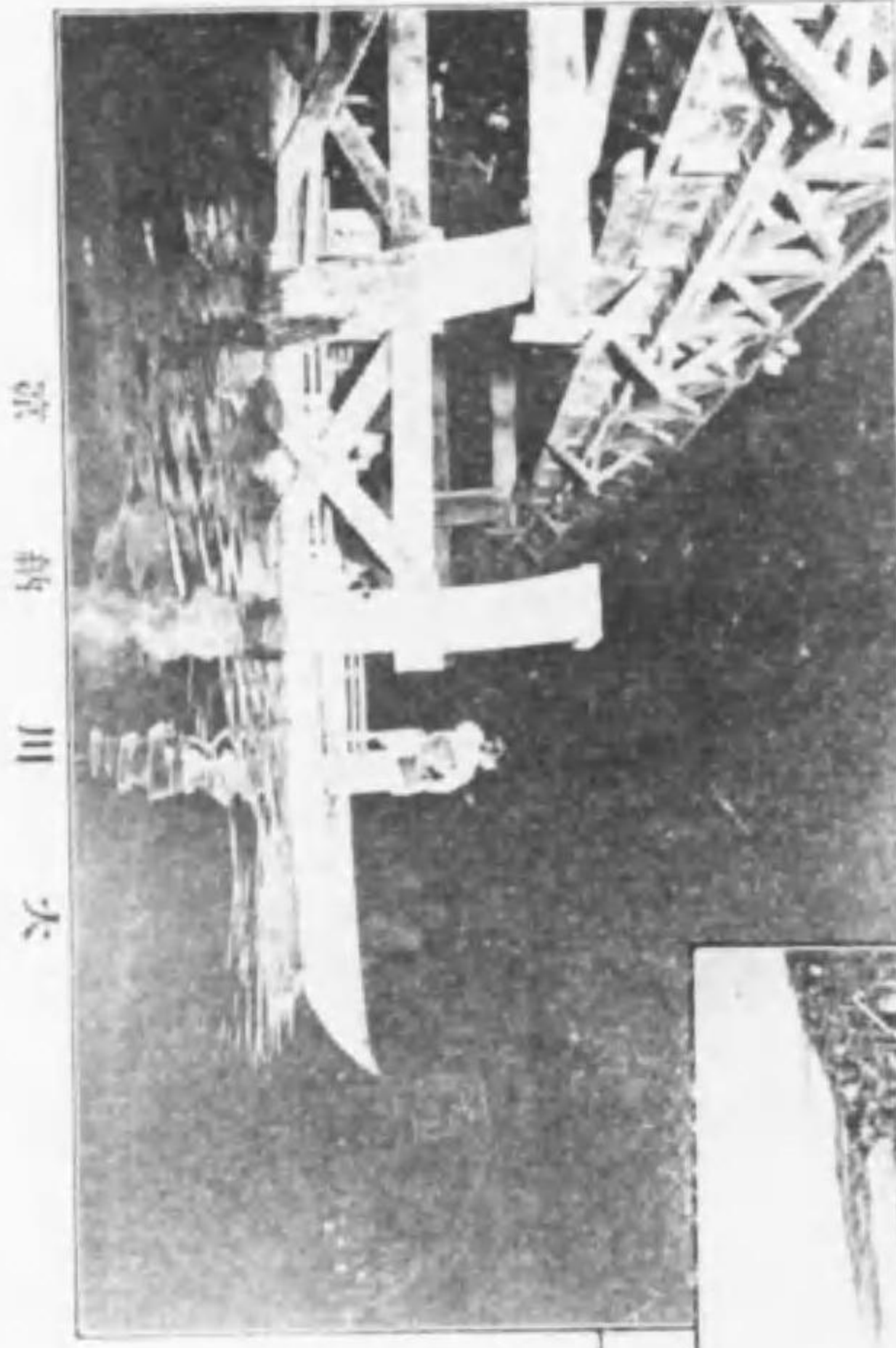


梅田停留所

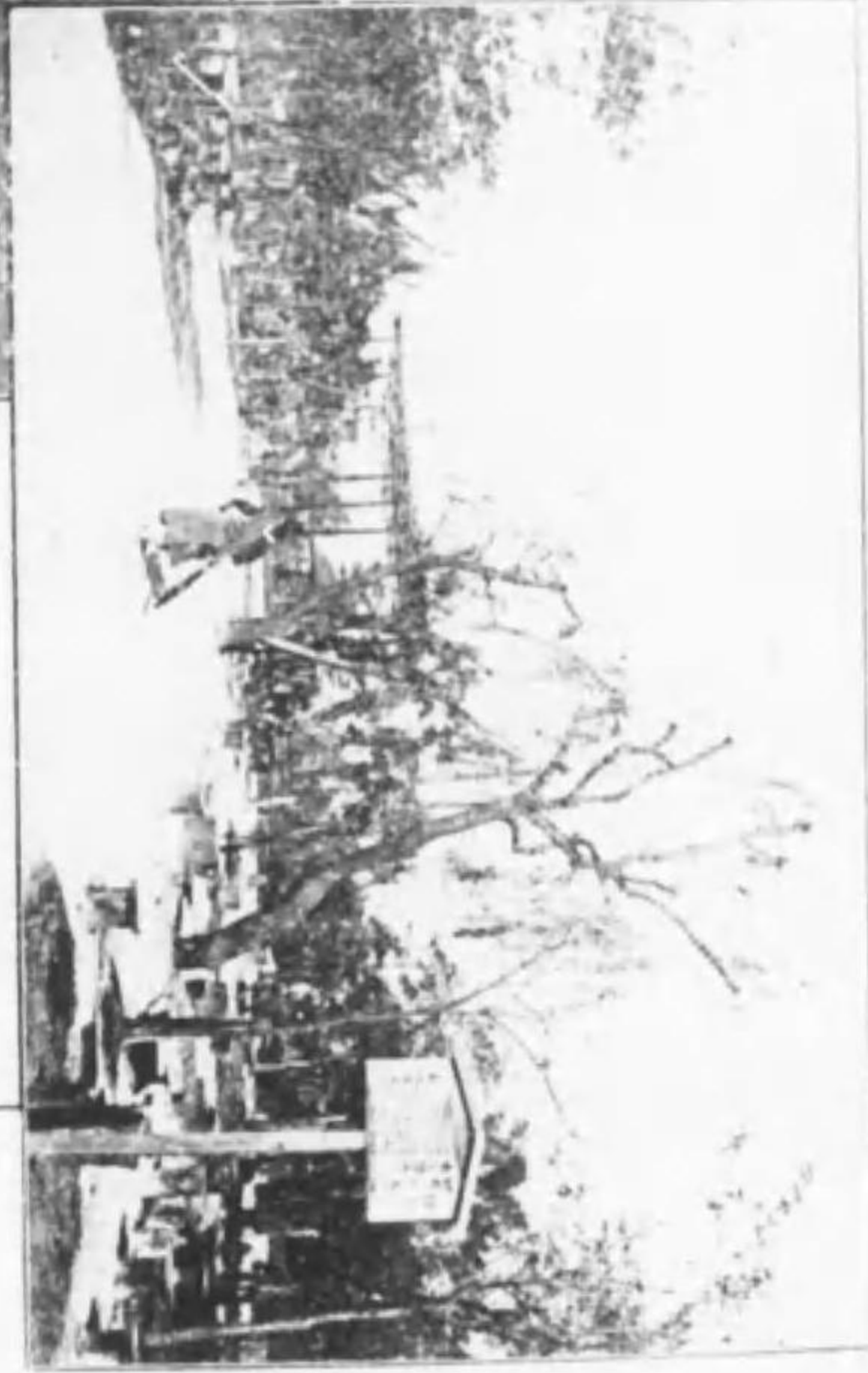




十本入三卷
廿本入六卷
五十本入十五卷
百本入三十卷



大橋川



中島公園



曩キニ佛國巴里大博覽會衛生審查
委員會ニ於テ衛生飲料トシテ無上
ノ名譽アル**金賞牌**ヲ受領シタ
ル我カ**孔雀印平野水**
ハ其販賣高及ビ品質ニ於テモ本邦
第一位ヲ占ムル最良ノ礦泉水ニシ
テ世上ノ紳士淑女諸君ニ最モ適當
ノ好飲料ナルヲハ既ニ内外人ノ了
知セララル、所ナリ

發賣元

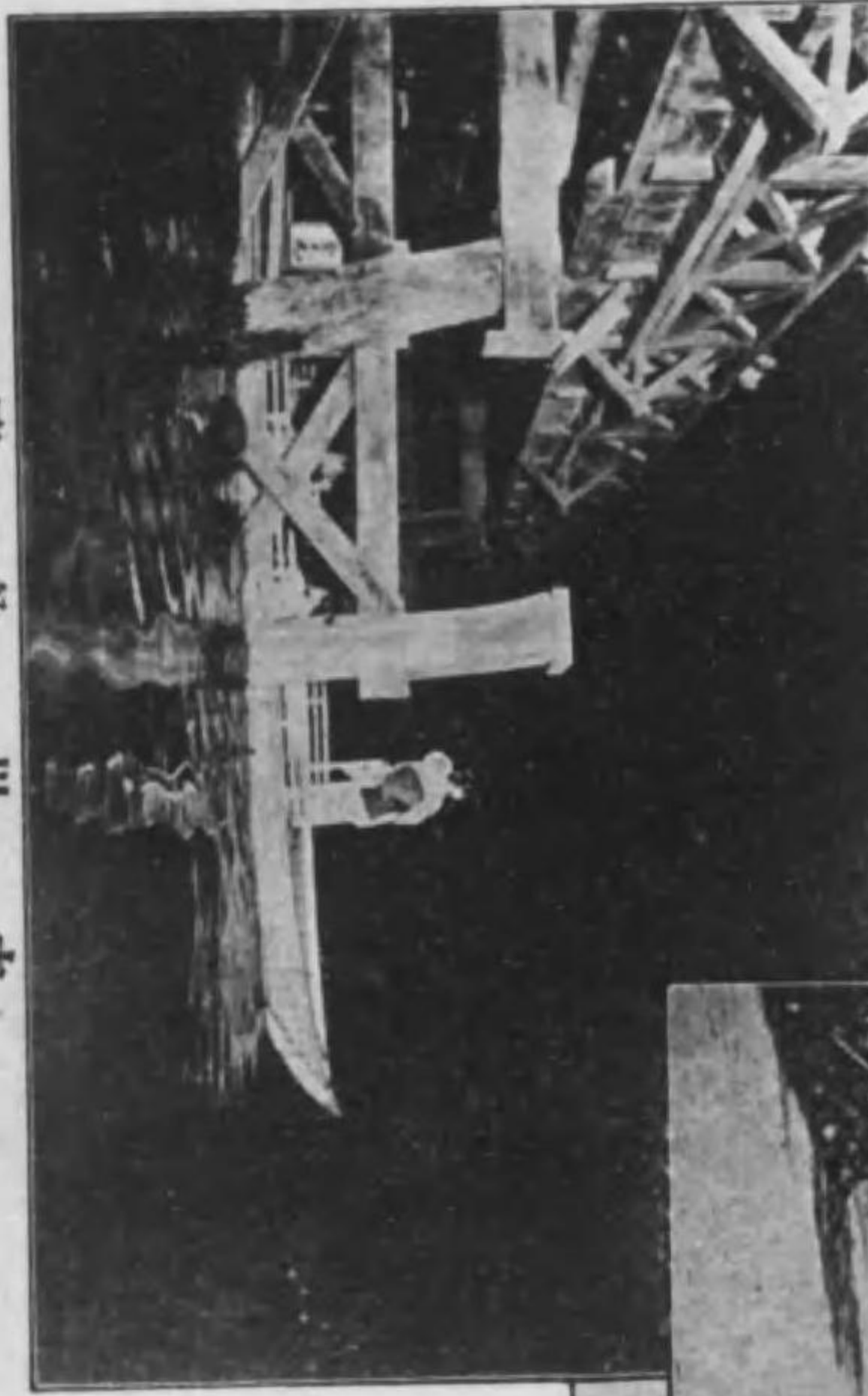
攝津國川邊郡多田村ノ内平野村
合資會社 **孔雀商會**

大阪市北區東梅田町二百九十三番地
大阪出張店

大阪市東區安土町四丁目
特約大販賣店 祭原伊太郎

東京市日本橋區本町二丁目
關東一手販賣店 近藤利兵衛

大川納涼



中島公園



優キニ佛國巴里大博覽會衛生審査
委員會ニ於テ衛生飲料トシテ無上
ノ名譽アル**金賞牌**ヲ受領シタ
ル我カ**孔雀印平野水**
ハ其販賣高及ビ品質ニ於テモ本邦
第一位ヲ占ムル最良ノ礦泉水ニシ
テ世上ノ紳士淑女諸君ニ最モ適當
ノ好飲料ナルコトハ既ニ内外人ノ了
知モラル、所ナリ

發賣元 關東川邊郡多田村ノ内平野村

大坂市北區東梅田町二百九十三番地

大坂市東區安土町四丁目

東京市日本橋區本町二丁目

近藤利兵衛

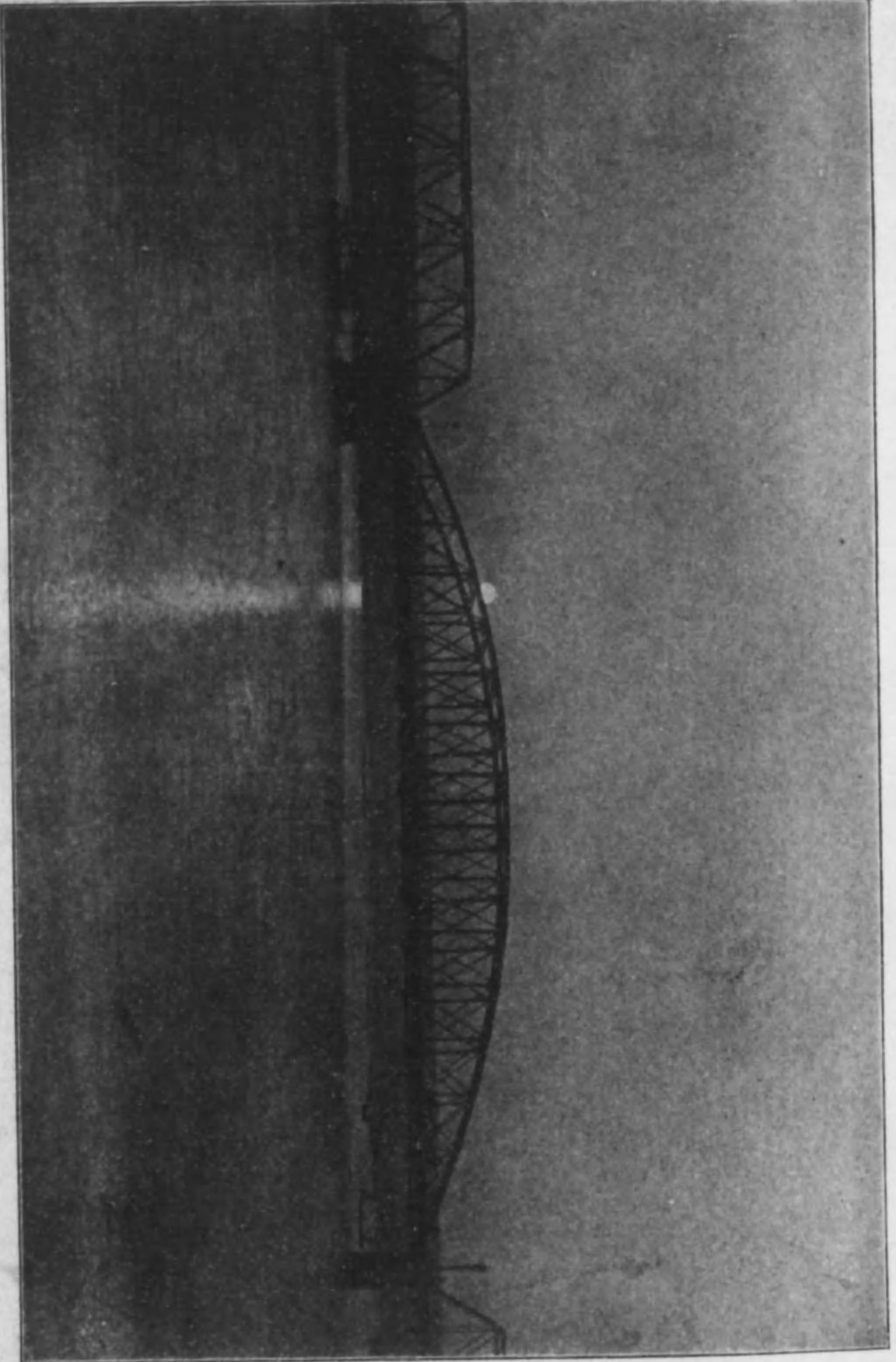
伊太郎

大坂出張店

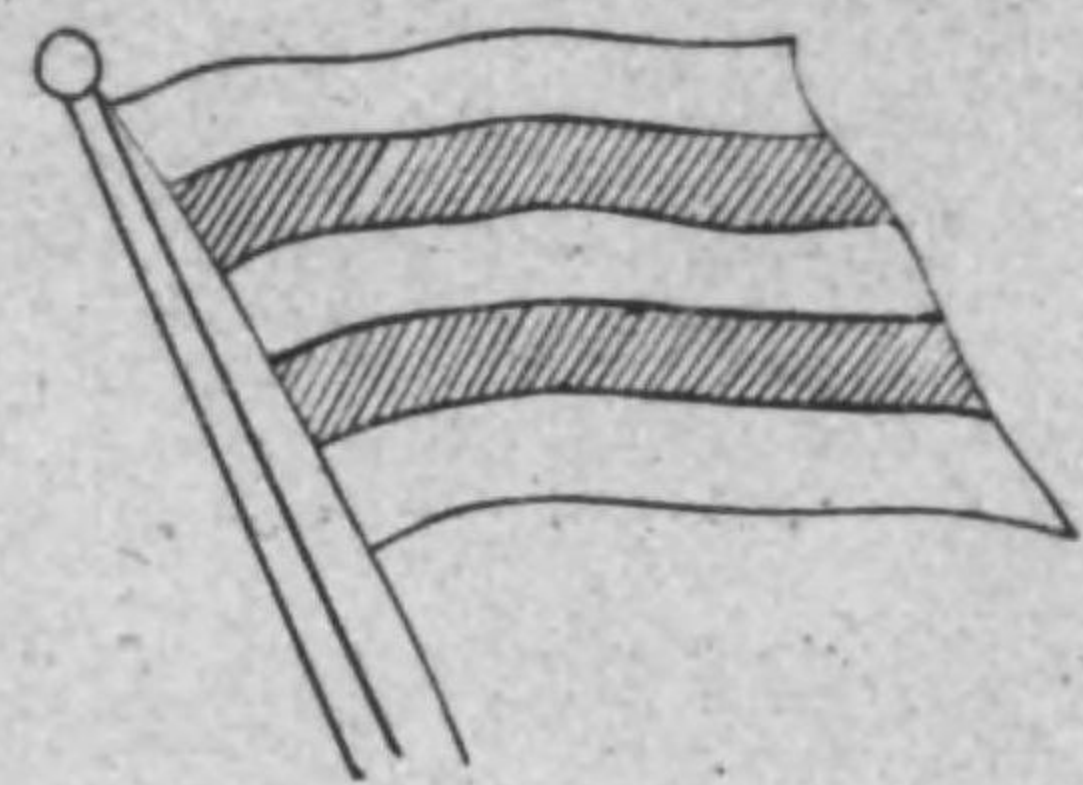
祭原

關東一手販賣店

天 神 橋 夜 景



日本郵船株式會社



本店

東京市麹町區有樂町一丁目番壹地

大阪支店

大阪市北區西梅田町參千四拾貳番屋敷
電話一六四番

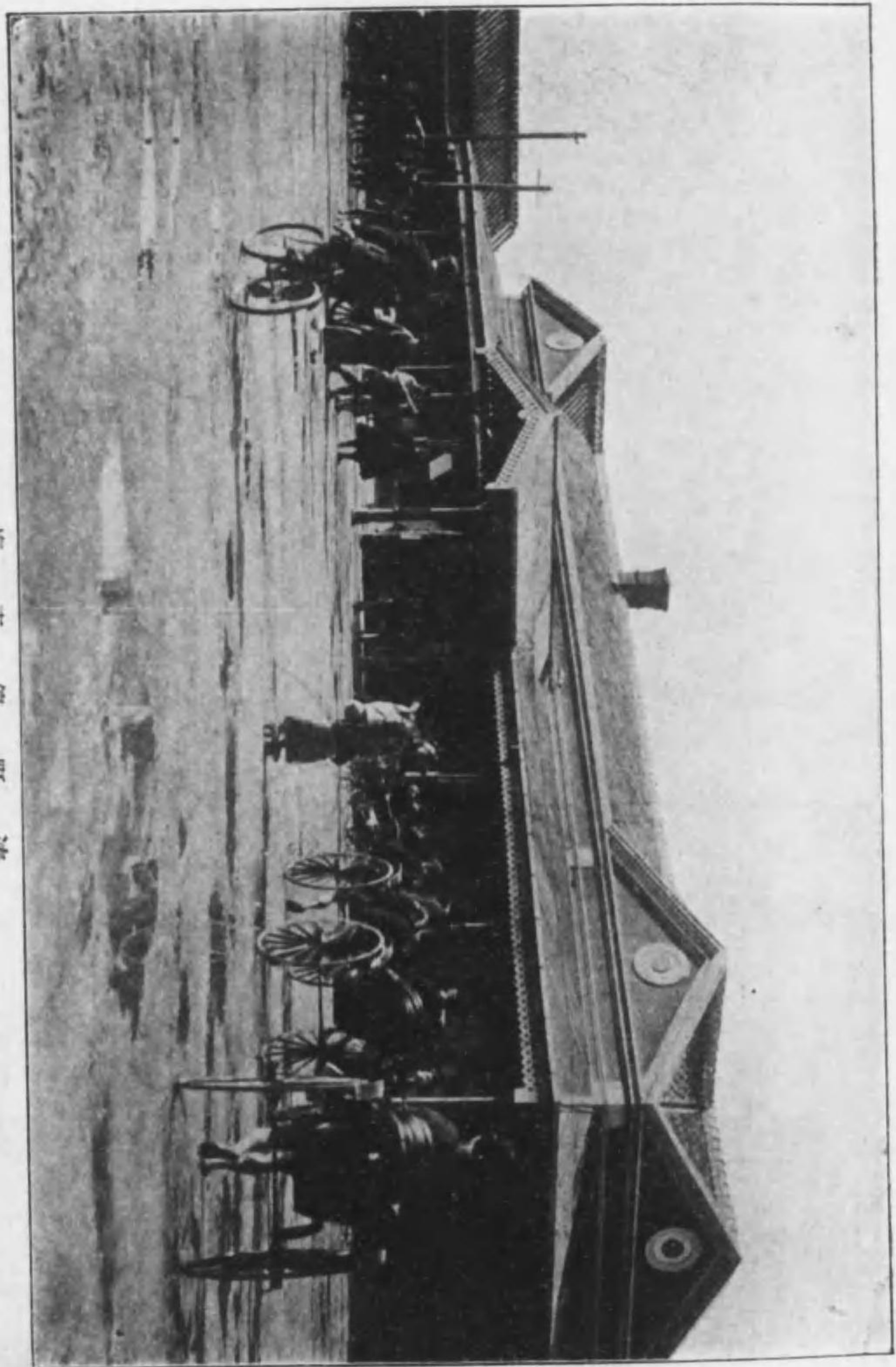
川口出口張所

大阪市北區富島町參拾八番地
電話三三七一、三五六、三三六六番

注意

當分支店主務、事務、川口出口所、於支店長、田原金祐之取扱

- 根室網走線
- 函館小樽線
- 米國線 (二週一回)
- 歐州線 (二週一回)
- 台灣線 (每月四回)
- 橫濱上海線 (每週一回)
- 小笠原島線 (每月一回)
- 青森函館線 (臨時夜航)
- 神戶、青森、北清線 (二週一回)
- 神戶、神戶、天津線 (二週一回)
- 北清、神戶、牛莊線 (二週一回)
- 橫濱、神戶、小樽、西廻線 (每週一回)
- 橫濱、四日市線 (每日四回)
- 神戶、小樽、東廻線 (每月十回)
- 青森、室蘭線 (每日一回)
- 函館、根室線 (每月六回)
- 神戶、浦邊線 (二週一回)
- 孟買線 (四週一回)
- 孟買線 (每月一回)
- 雅內、羅走線
- 小樽、雅內線
- 根室、紗那線



坂町停留車

國 國 國 國

標商錄登

優等 樽 精酒

キエクヨ

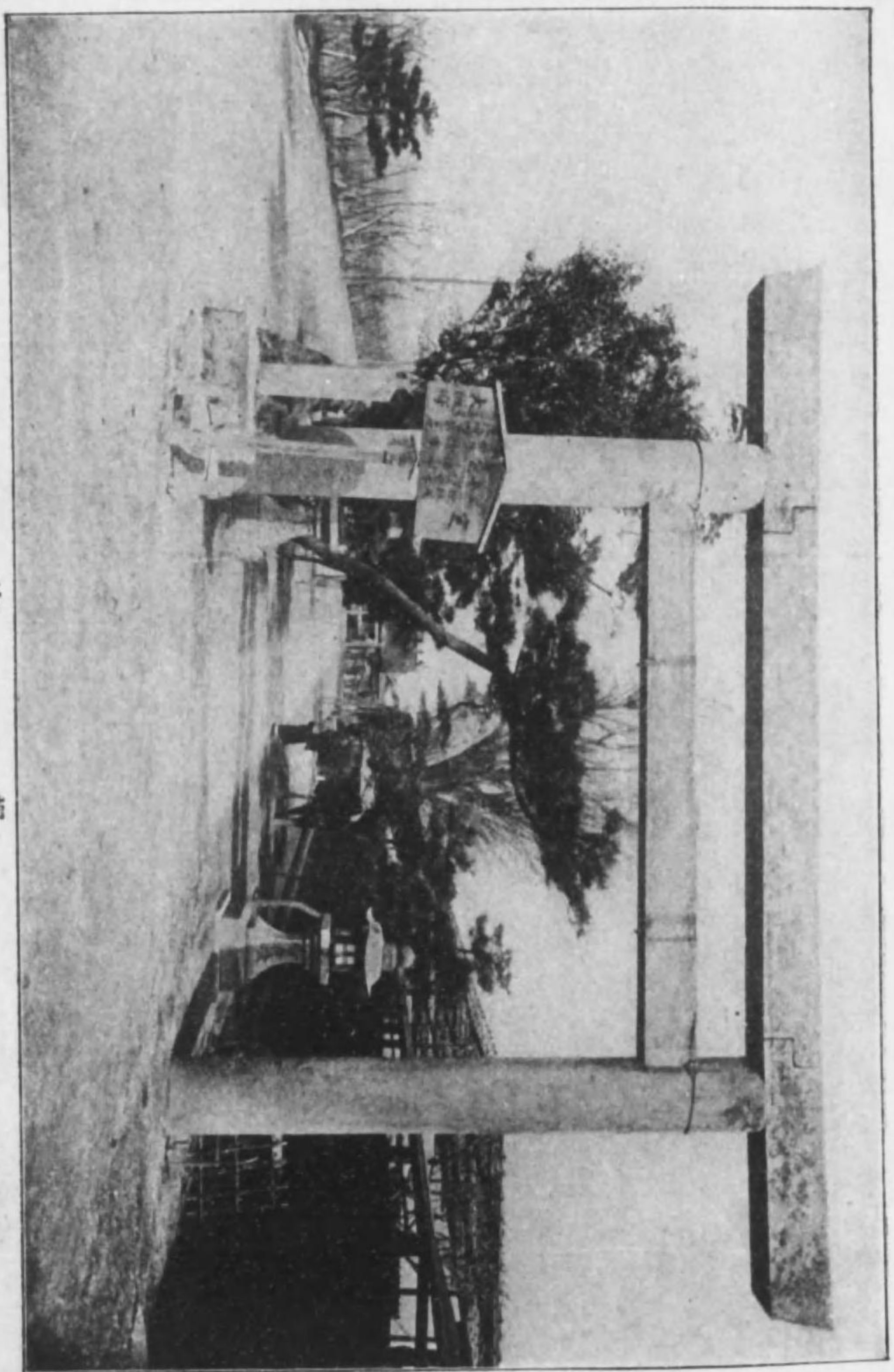
本店 大坂 本町

支店 東區今橋四丁目 電話東二八九七番

支店 神戶元町五丁目 電話架設中

藤井竹次郎

特電 話 番九二五一西



宮 櫛





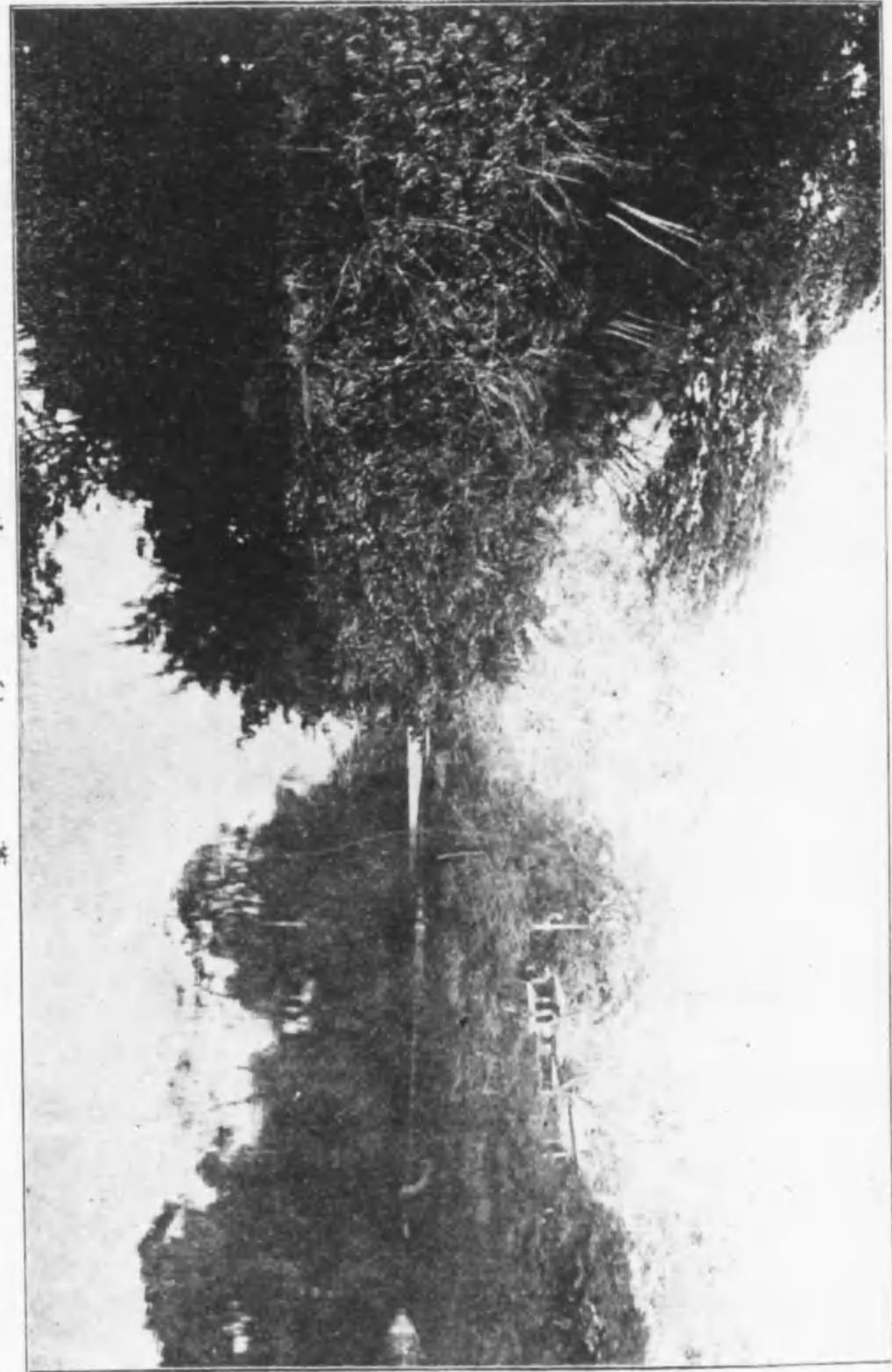
栗おこし福

大阪何みだ池裏門
製造元

大黒



小林林之助
電話西四貳八



五二五

貯蓄 預金 專創 年拾貳 明告

金壹錢以上は何程なり
とも手續を簡便に御預
り由候



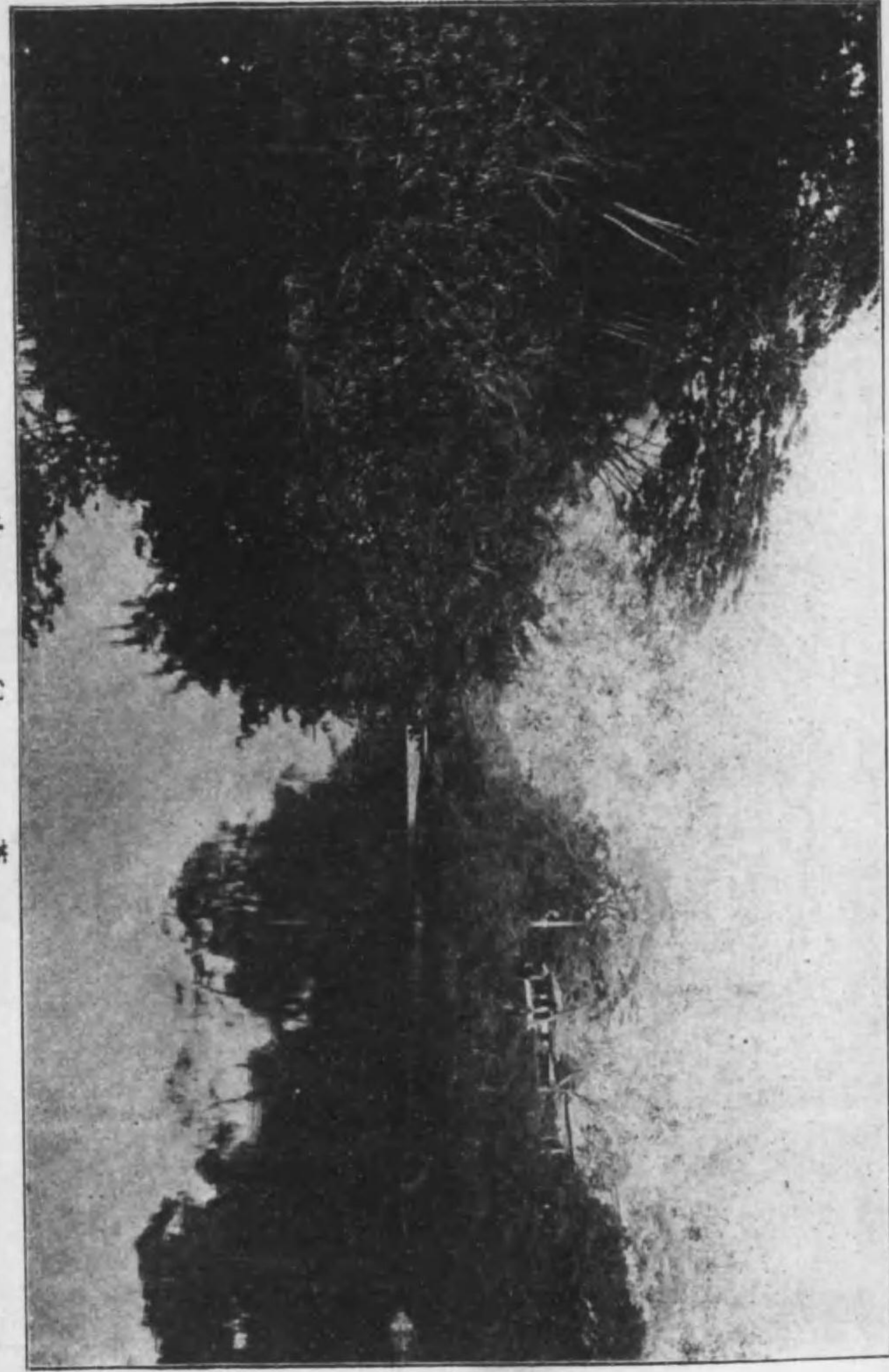
株式 大坂貯蓄銀行

大坂市東區伏見町三丁目井池筋角

(電話 特東 五七〇五九號)

預り金利息は毎年開
度に計算して元金に加
は利に利をつけ申候

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 南出張所 | 大坂市南區太左衛門橋筋八幡筋角
(電話東區五五五號) |
| 西出張所 | 大坂市西區間屋橋筋新町南入
(電話西區四六四號) |
| 北出張所 | 大坂市北區天神橋北詰東丁北ノ辻角
(電話東區四四四號) |
| 本田出張所 | 大坂市西區本田三番町妙見前角
(電話西區六六六號) |
| 京都支店 | 京都市下京區秋屋町通四條上ル
(電話八四參號) |
| 西陣出張所 | 京都市上京區大宮通今出川角
(電話八五四號) |
| 松原出張所 | 京都市下京區東洞院通松原角
(電話八五五號) |
| 堺支店 | 堺市大町大進角
(電話參號) |



正
正
正

貯蓄預金
明細帳

金庫以上は何れなり
とも年利を儲けに預け
る由候



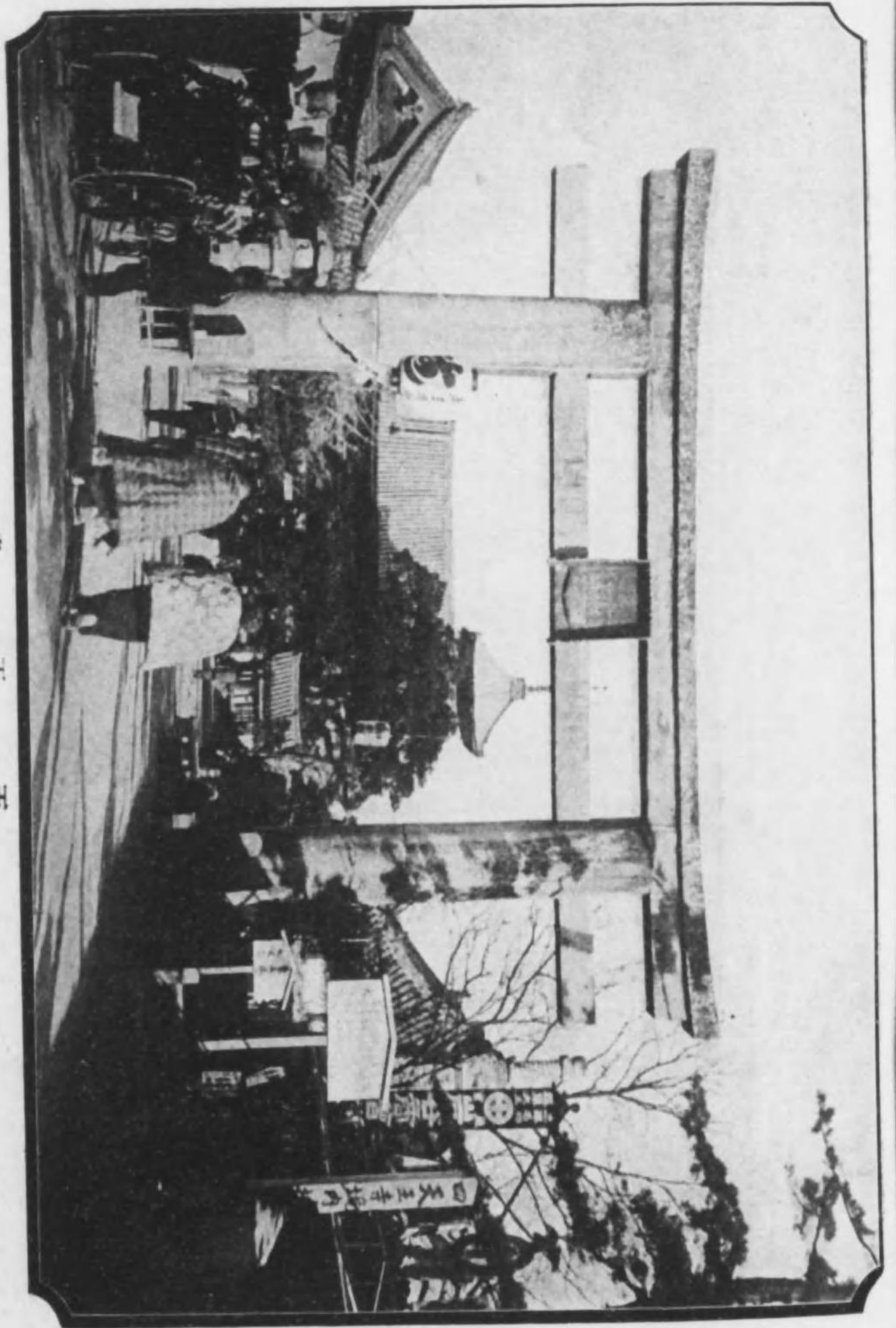
株式
大坂貯蓄銀行

大坂市東區伏見町三丁目并池筋角

(電話) 東 五七〇號
特 〇五九號

南出張所	大坂市南區大左門橋町八幡筋角 (電話) 東五〇五號
西出張所	大坂市西區南船場新町南入 (電話) 東四九七號
北出張所	大坂市北區天神橋北詰下丁北ノ出河 (電話) 東四四〇號
本田出張所	大坂市西區本田三番町池見角 (電話) 西六六〇號
京都支店	京都市下京區伏見町通船場上ノ (電話) 西四〇〇號
西陣出張所	京都市上京區大宮區今出川橋 (電話) 大五四〇號
松原出張所	京都市下京區東船場通船場角 (電話) 大五〇〇號
堺支店	堺市大町大橋 (電話) 大五〇〇號

天王寺



印刷業
 大阪市東區本町壹丁目
 株式會社 大阪國文社

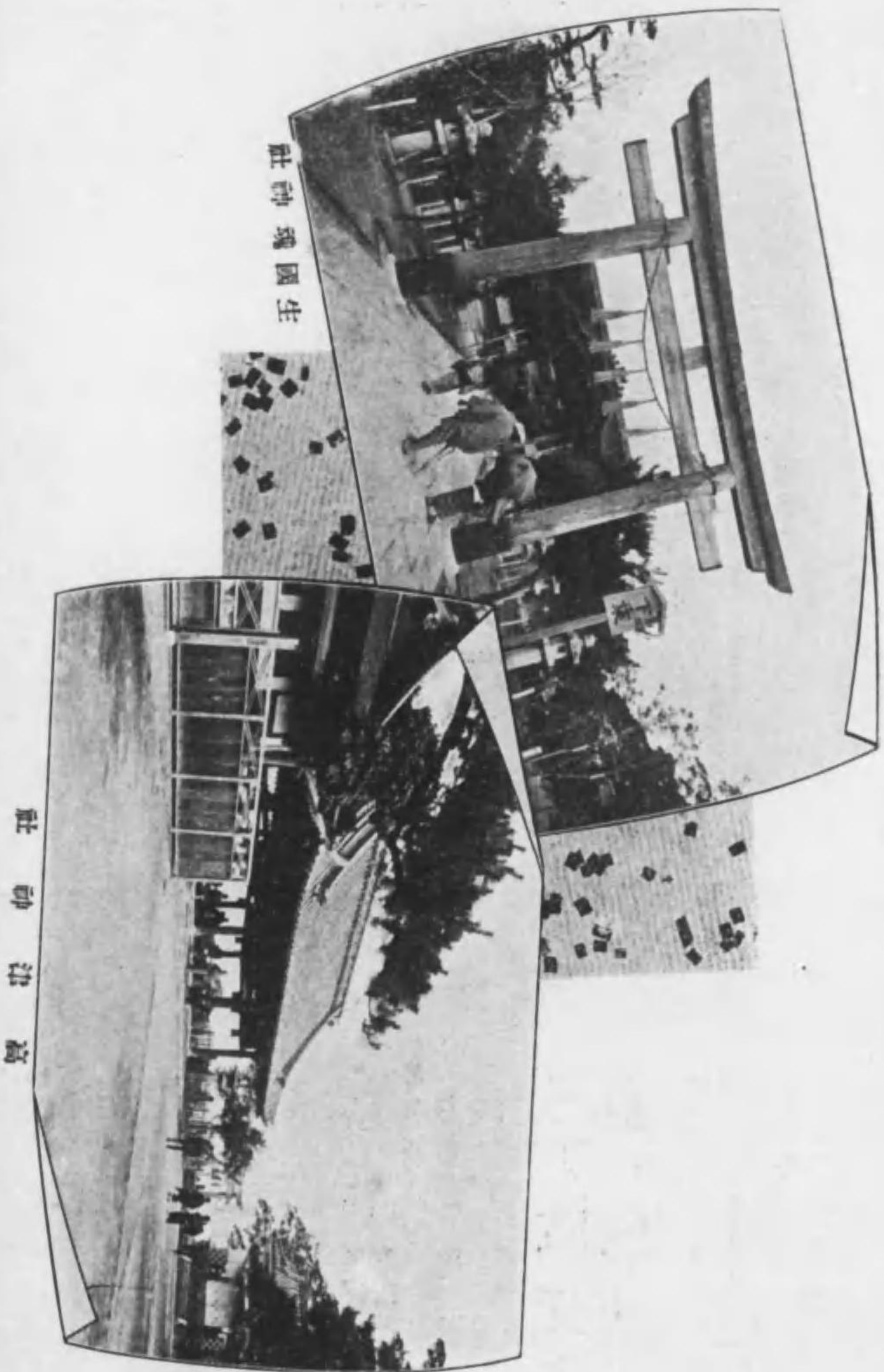
創立明治十二年十二月東京國文社大阪支店
 改稱今 十六年十月株式會社大阪國文社
 前年度之於諸官衙銀行會社各商店、法高

帳簿 冊數 三百二十九萬六千六百〇二枚
 一切符類 冊數 四萬七千五百五十八冊
 一書精類 冊數 三十一萬二千四百六十六冊
 一諸有價證券等 冊數 七十六萬五千三百六十四枚
 一諸有價證券等 冊數 二百六十七萬八千八百〇六枚

廢賞定額 册内國幣實收會社帳簿、對
 有功賞券帳、向、東北、津、對、

役員
 長尾 藤三 廣岡信五郎
 平井五郎 坂井省三 大江善助

Printing & Book-Binding Office.
OSAKA KOKUBUNSHA Ltd.
 30 Honmachi Itchome Osaka.
 Telephone NO. 240 (HIGASHI.)
株式會社大阪國文社
 大阪市東區本町壹丁目番拾壹號
 電話特東二百四十四番



生國機

理印社



國內各外國
製紙大賣場
海外直輸出入商

東京市日本橋區本石町十軒店

合名會社 **中井商店**
特電話本局貳百五拾七番
特電話貳千參百九拾六番

京都市三條通東洞院西へ入

合名會社 **中井商店** 京都 洋紙部
特電話九百貳拾四番
特電話參拾壹番

大阪市東區瓦町二丁目

合名會社 **中井商店** 大阪 支店
特電話東貳拾七番
電話東八百〇壹番

名古屋市傳馬町七丁目

合名會社 **中井商店** 名古屋 支店
特電話百五拾貳番

清國上海英租界江西路

合名會社 **中井商店** 上海 洋行



日本火災保險株式會社

東京支店
京都支店
神戸支店
名古屋支店
廣島支店
熊本支店

日本橋區本町三丁目十番地
下京區三條通柳馬場東六
元町通四丁目九十七番地
傳馬町七丁目十番地
塚本町七十三番屋敷
上銀治屋町廿六番屋敷

社長 藤本 一二
副社長 渡邊 洵一郎
取締役 松方 幸次郎
松本 重太郎
平野 平兵衛
金澤 種次郎

監査役 田中市兵衛
外山 脩造
藤田 平太郎



代辦店 樞要の各地に設けあり

大阪市西區京町堀上通丁目番地

電話 特西 一〇一三番
西 一〇一〇番

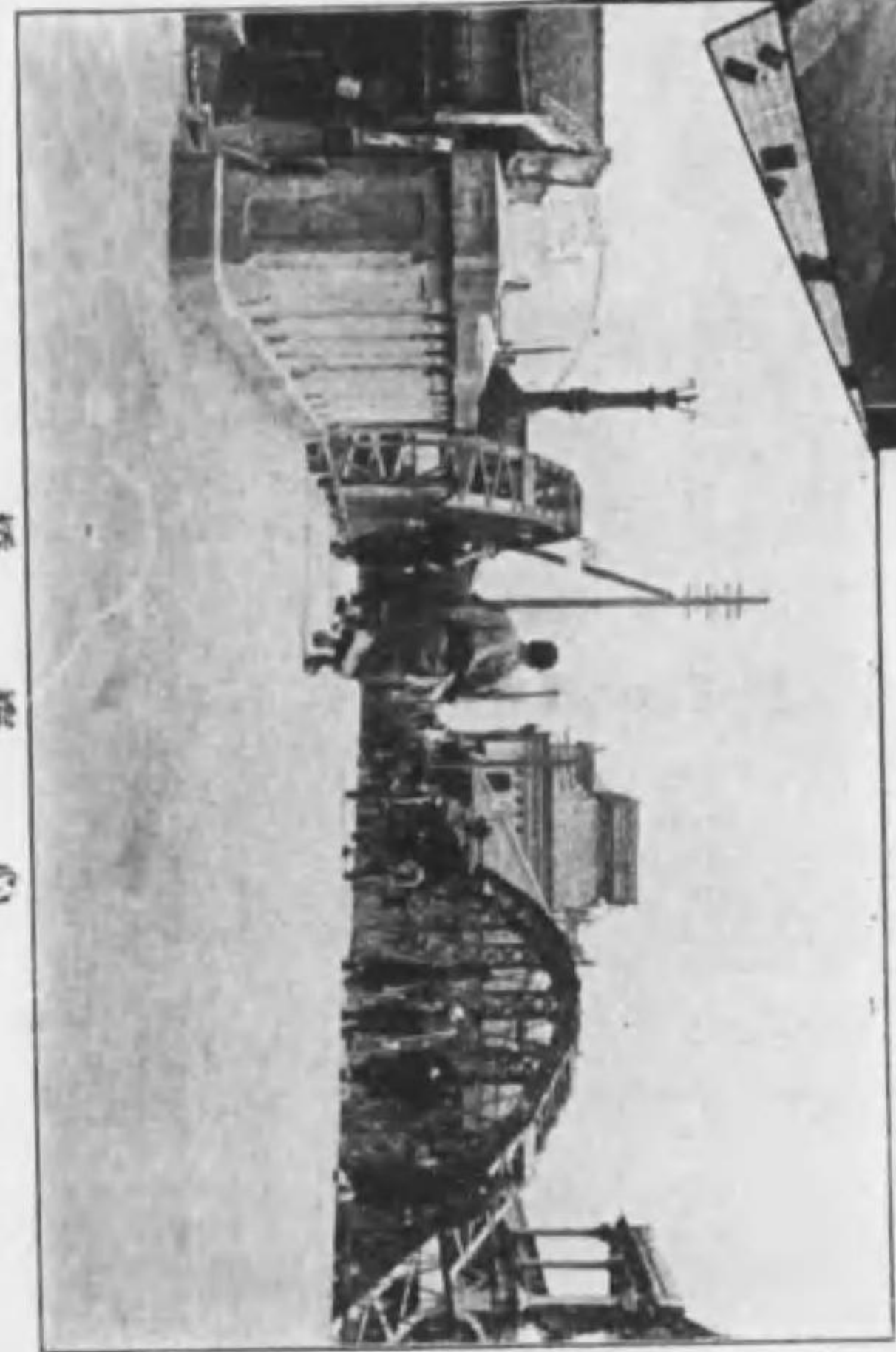
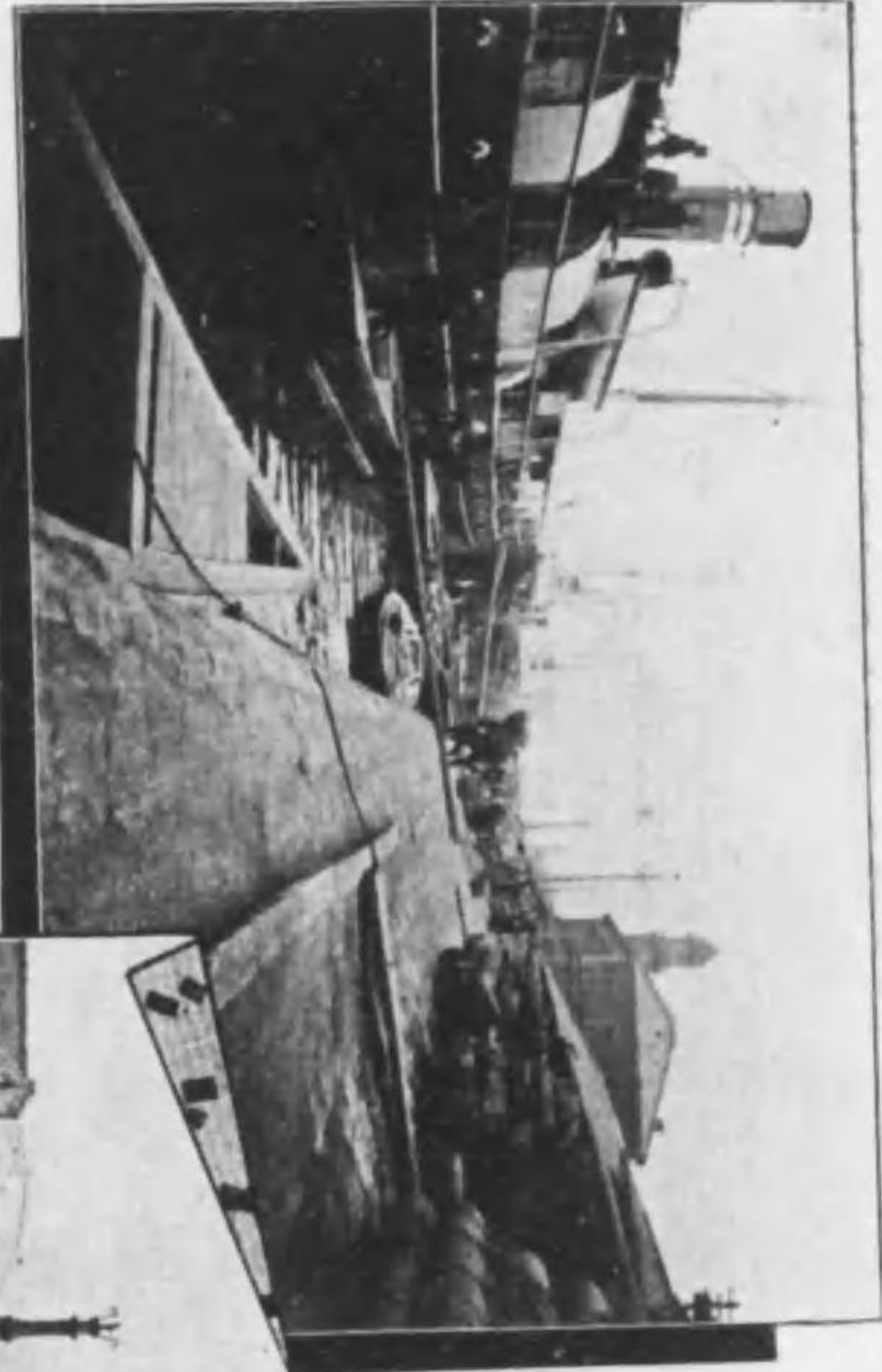
大阪火災保險株式會社

天下第一大吳味店



大阪心齋橋筋町

電話 東特
 番 叁 八 叁 東
 番 叁 壹 叁 壹 東 特



口三川

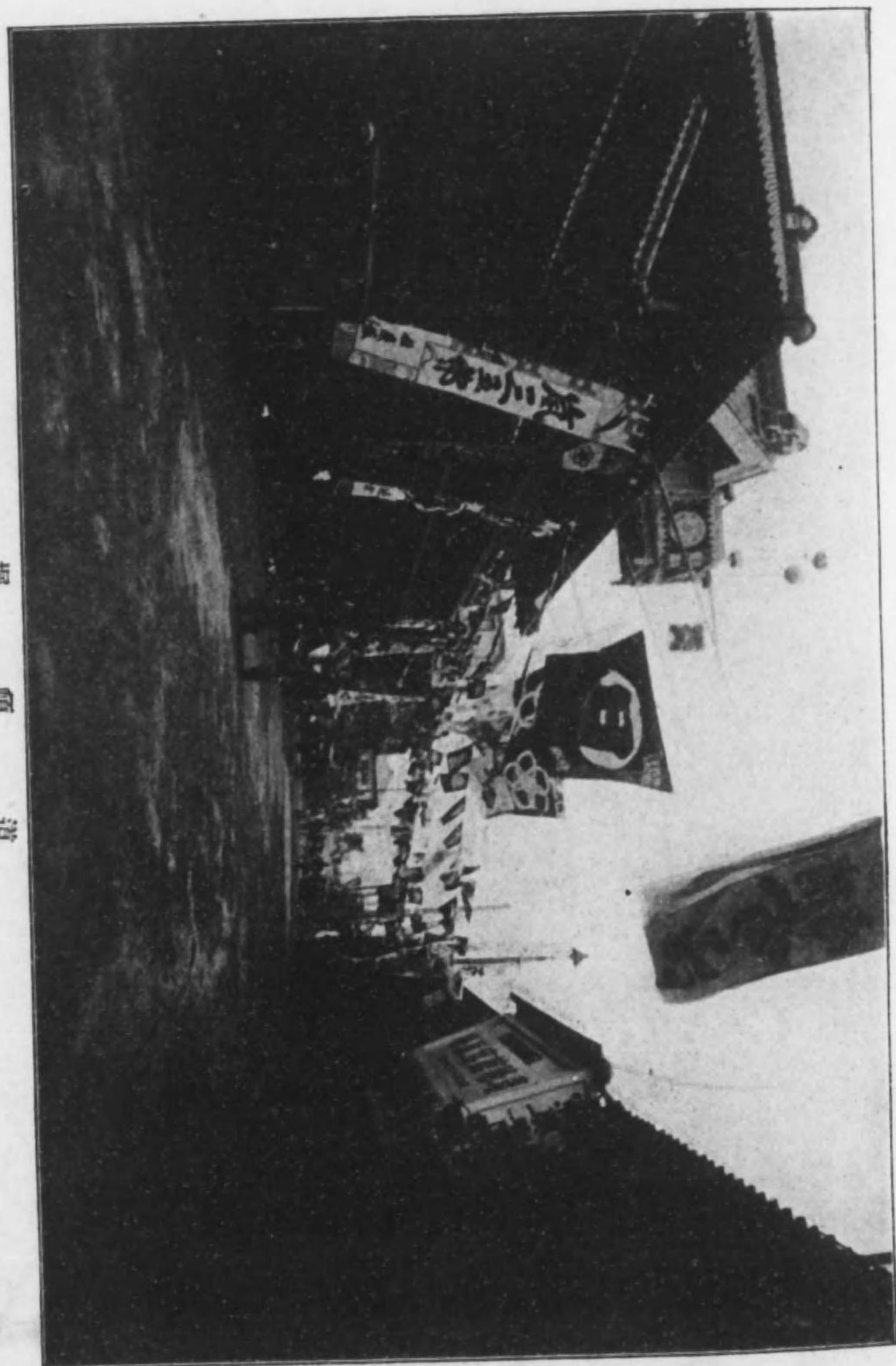
心齋橋

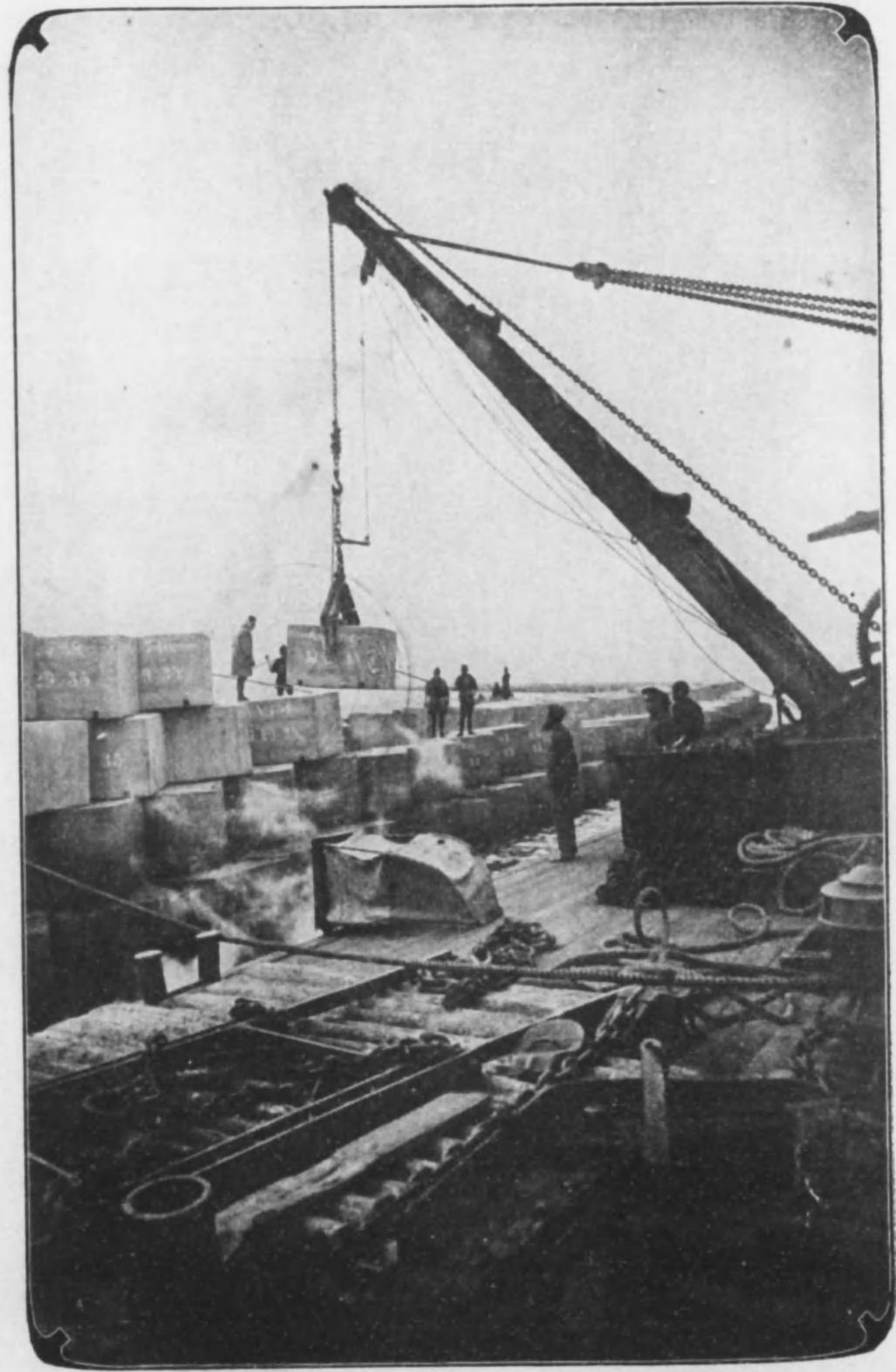


地 留 居 資

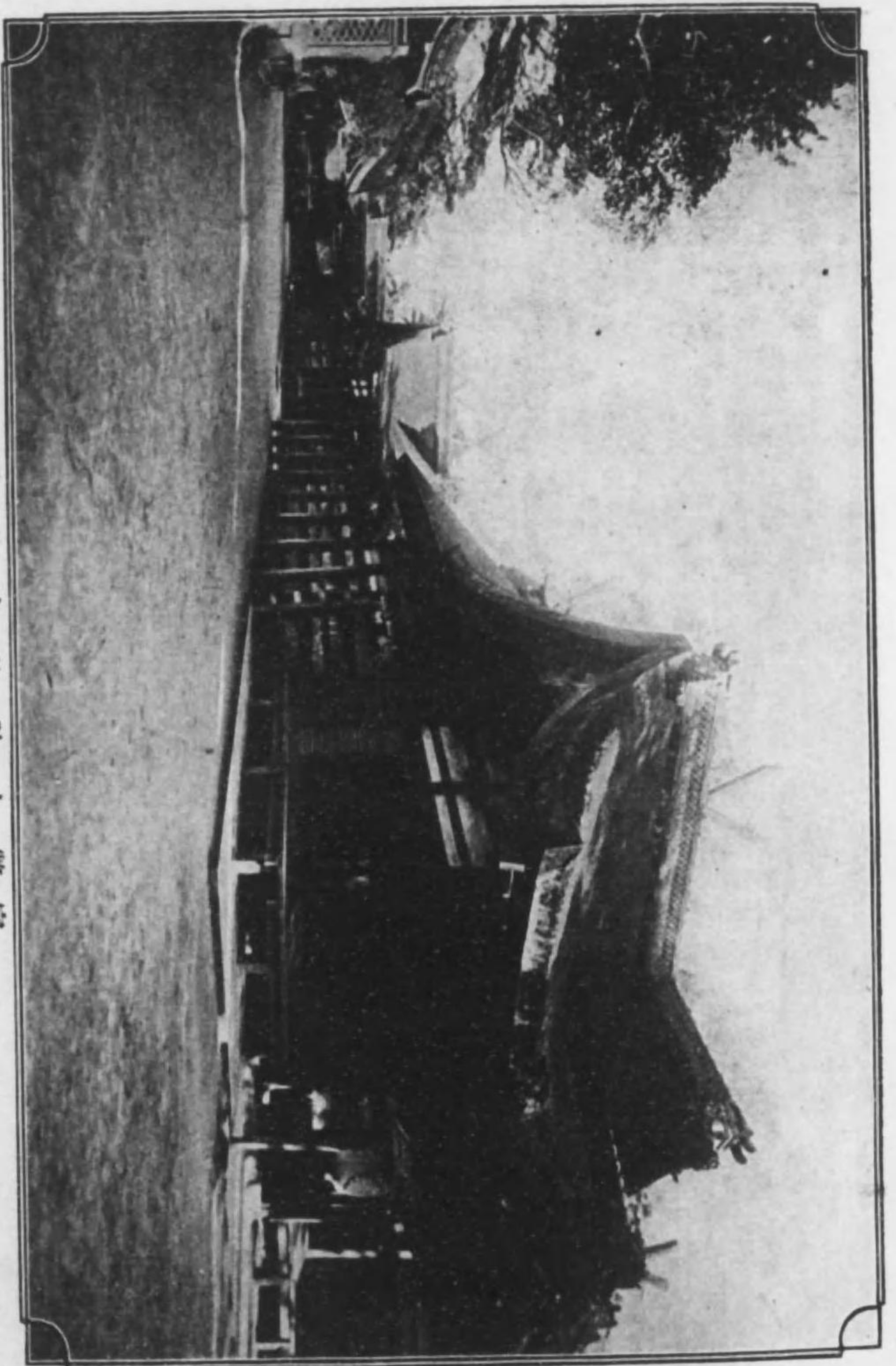


攝 領 道



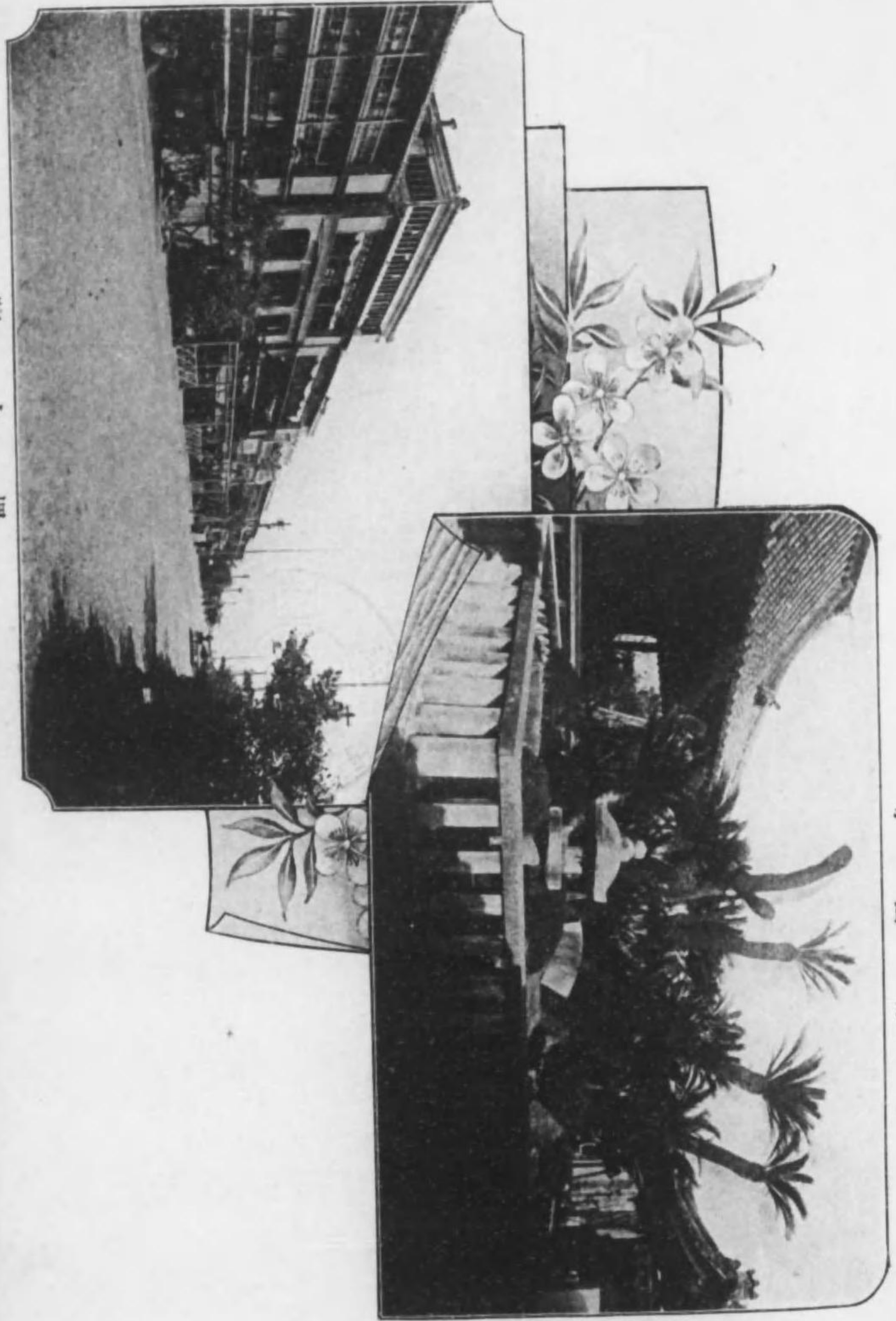


大 阪 築 港 工 事



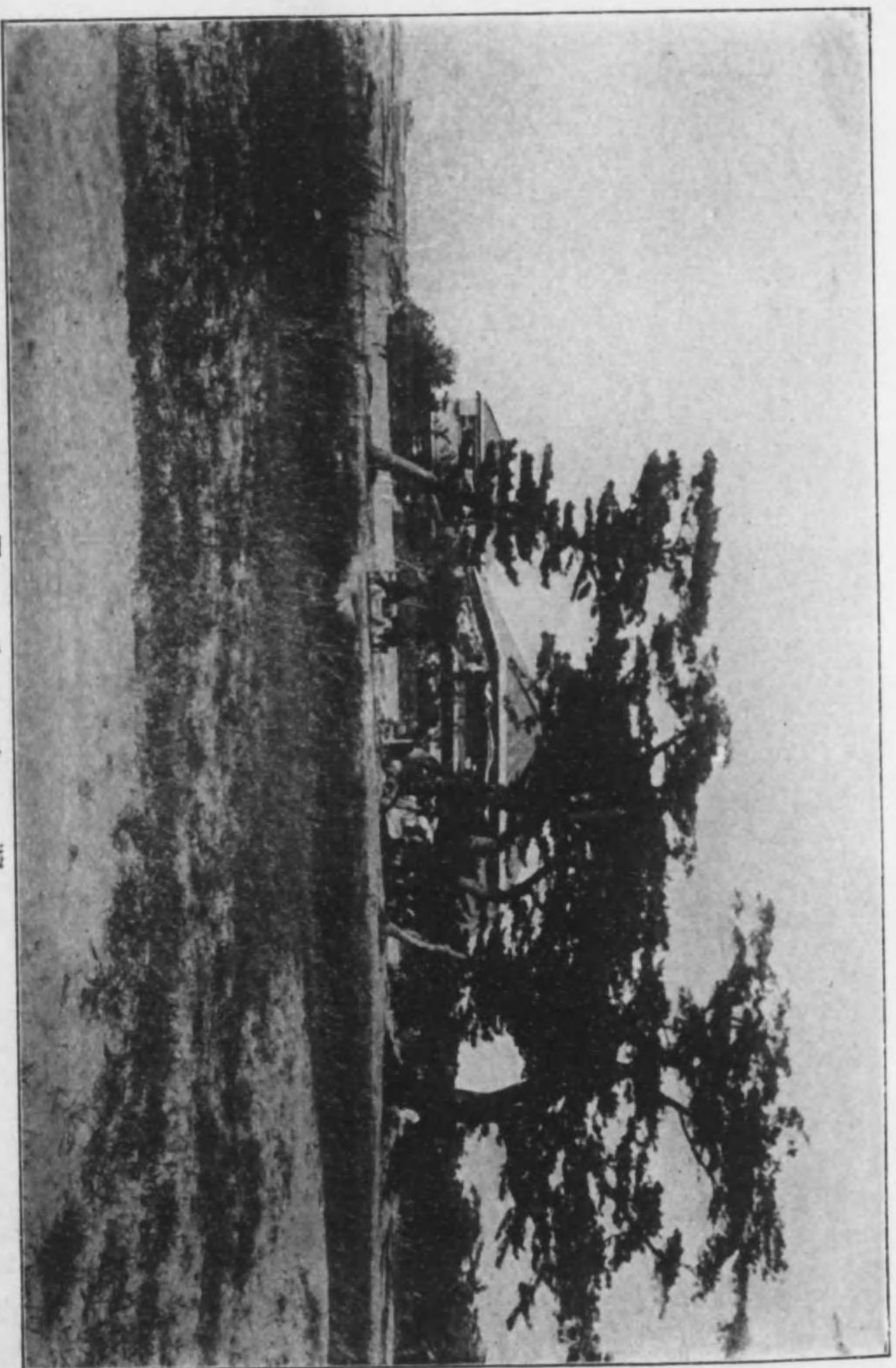
官幣大社住吉神社





海 六 界

宇 國 抄



園 公 寺 景





箕面公園圖



緒言

本書題して「大阪と博覧會」といふ、その内容は主として平時の大阪市内に於ける諸般の事情と名所舊跡とを記し、傍ら府下一般の事を叙すると同時に、明年開かるゝ第五回内國勸業博覧會に關する諸般の事項を網羅したるものあり、而して之か編纂は、本會の囑託によりて「三十六年」主幹土屋元作氏専ら從事し、大阪史編纂長幸田文學士之に加筆して、成稿するに至れるが、尙大阪府臨時勸業調査會の長谷川文學士、大阪市商工課長川地法學士博覧會事務局員諸氏其他より材料を寄與さ

れたること少からず、又市内名勝の寫眞は寫眞師ならぬ丸井廣吉氏が市民の一員として本會に對する好意を以て、自ら撮影せるものに係れり、因て茲に一言以上諸氏の勞を謝せんと欲す、終に臨んで一言するは印刷後、外界の事情變更せる爲、博覽會開期に至らは、事實の書中と齟齬することあるべき一事あり、而も是世事の已むを得ざる常例なれば讀者乞ふ之を諒せよ

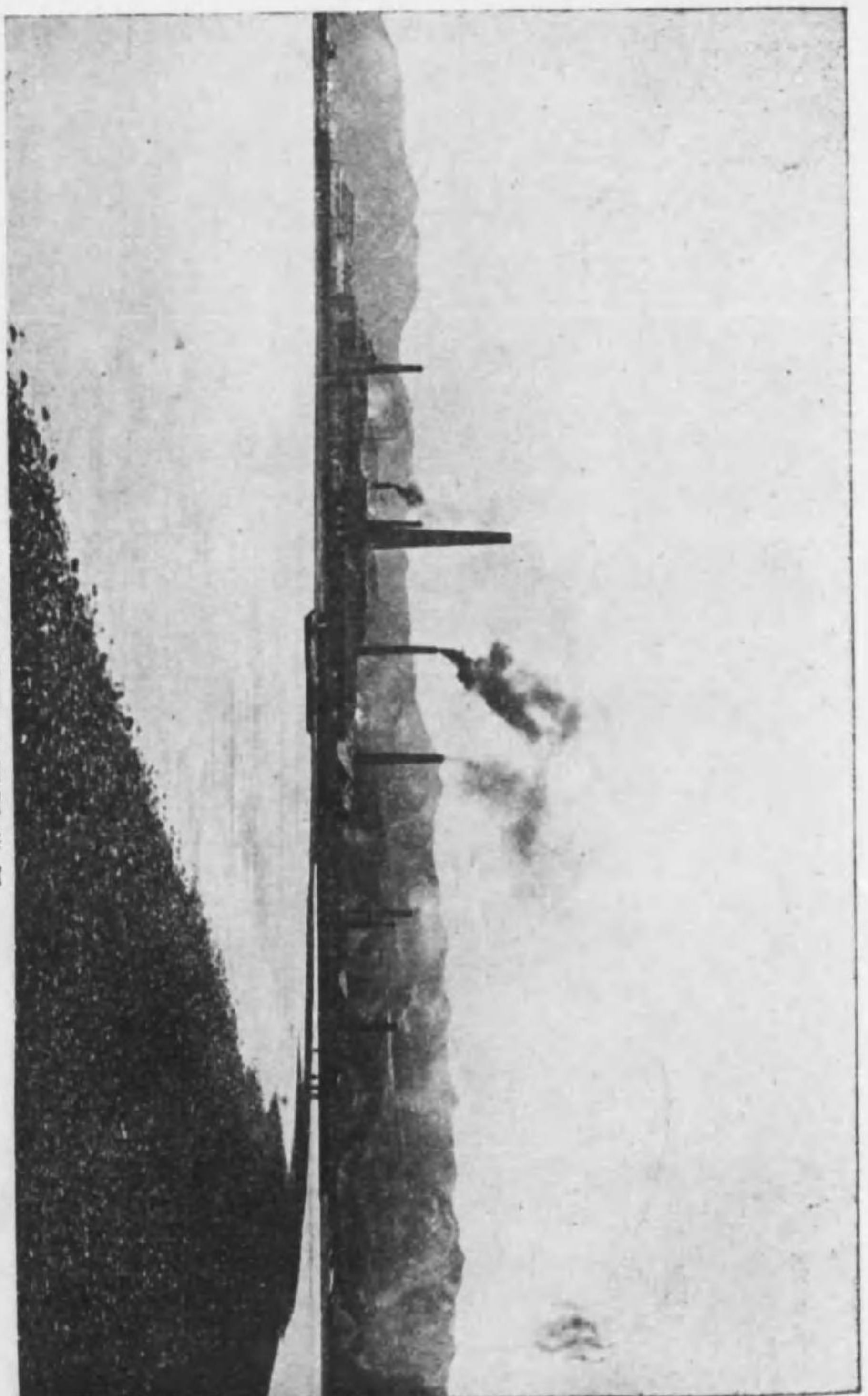
明治三十五年十二月上院

發行者識

凡例

- 一、本書記事中に掲げたる統計の數字は主として明治三十三年の市役所統計書に據る
- 一、博覽會に對する各方面の設備は第三編中に記すこと、といたれど都合により他編中に記したる事もあり併せ見るべし
- 一、地圖の見様左の如し
- 一、大阪市街全圖の中央部に長方形の黒線を畫きたるは次に出せる分割圖の範圍を示せる者にして長方形の中央横線は各分割圖の境界線に當れり
- 一、又全圖中に記したる地名は市街各部の俗稱なり委しくは第一編大阪の町を參看すべし

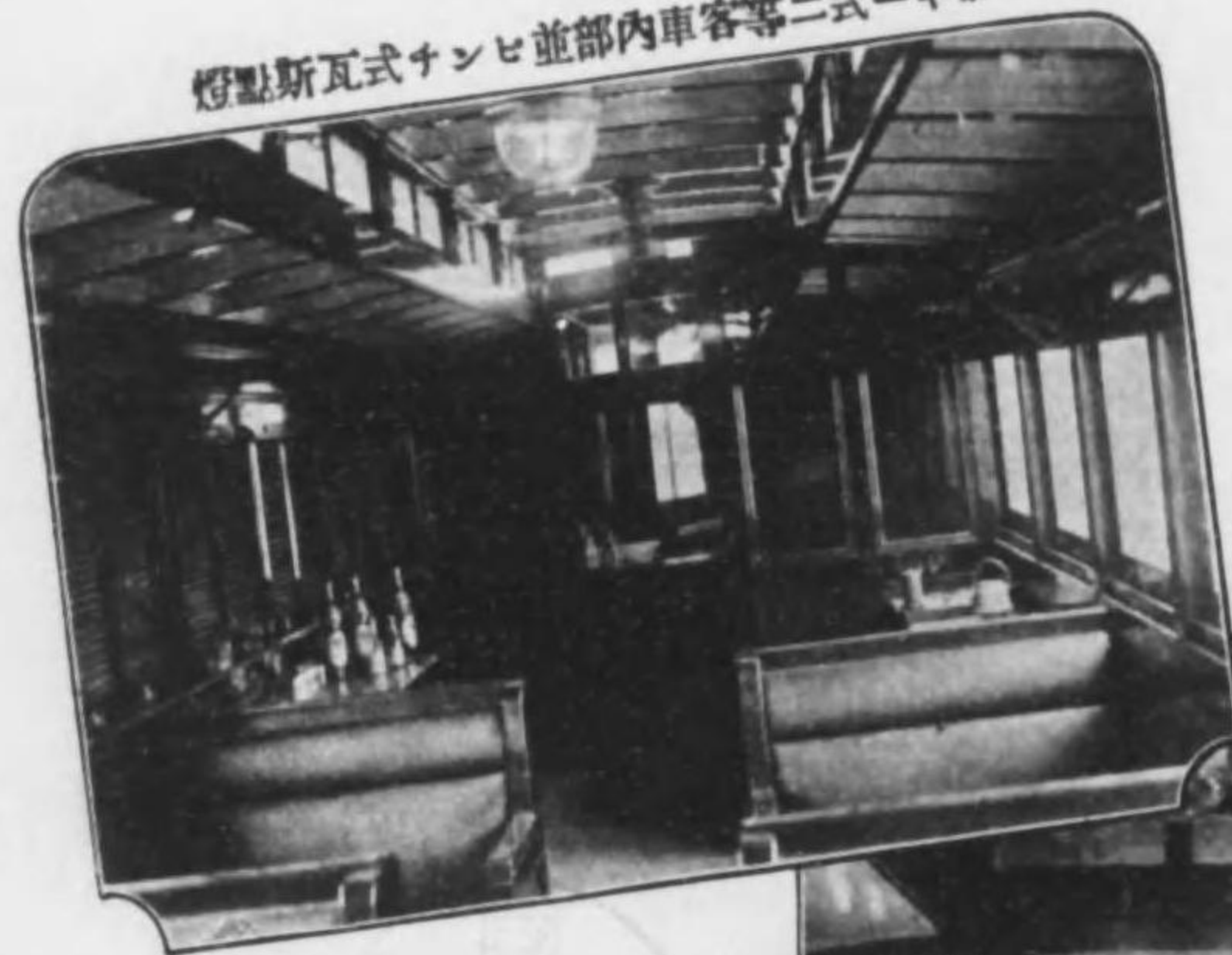
- 一、分割圖は大阪市街中繁昌の部を特に大きく示し
たる者にして重なる町名は漏さず記載せり
- 一、分割圖上縦横の朱線は博覽會場の西北角を起點
として毎六町の距離を示したる者にて車賃の算
出に便せり
- 一、分割圖中左の符合あり
 卍佛閣 卍神社 文學校 ●銀行
- 一、俯瞰圖は諸館の割當未定の爲め想像によりて描
けるが故に多少實際と相違すべし
- 一、表紙の模様は上部に博覽會場の正門を現はし下
部に難波の芦と浮標とを描きて古今の變を對照
せるあり



伊豫國新居新居村
伊豫國新居新居村
伊豫國新居新居村
伊豫國新居新居村

關西鐵道株式會社車輛

一等客車內部並瓦點燈



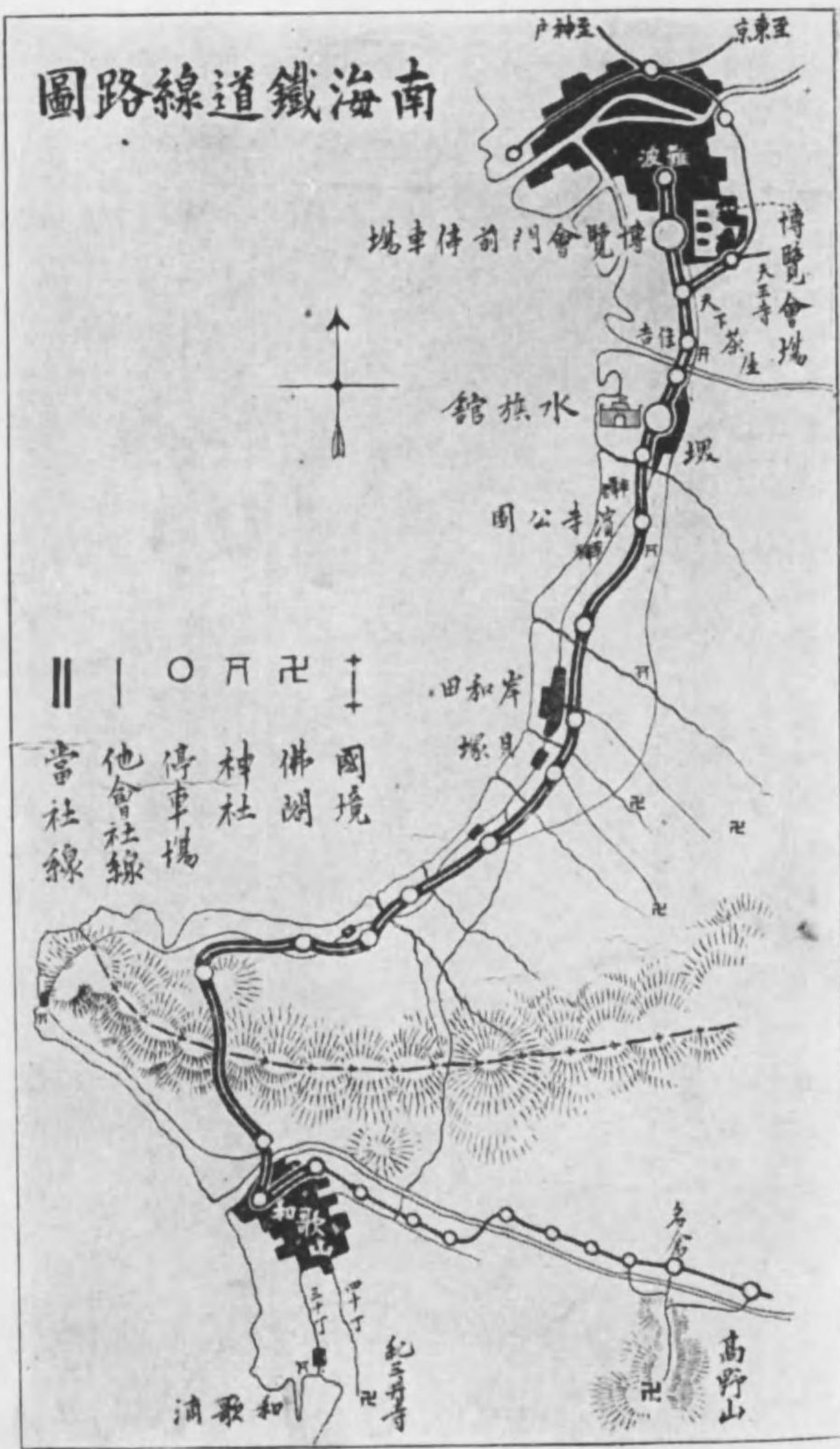
一等客車喫煙室並瓦點燈

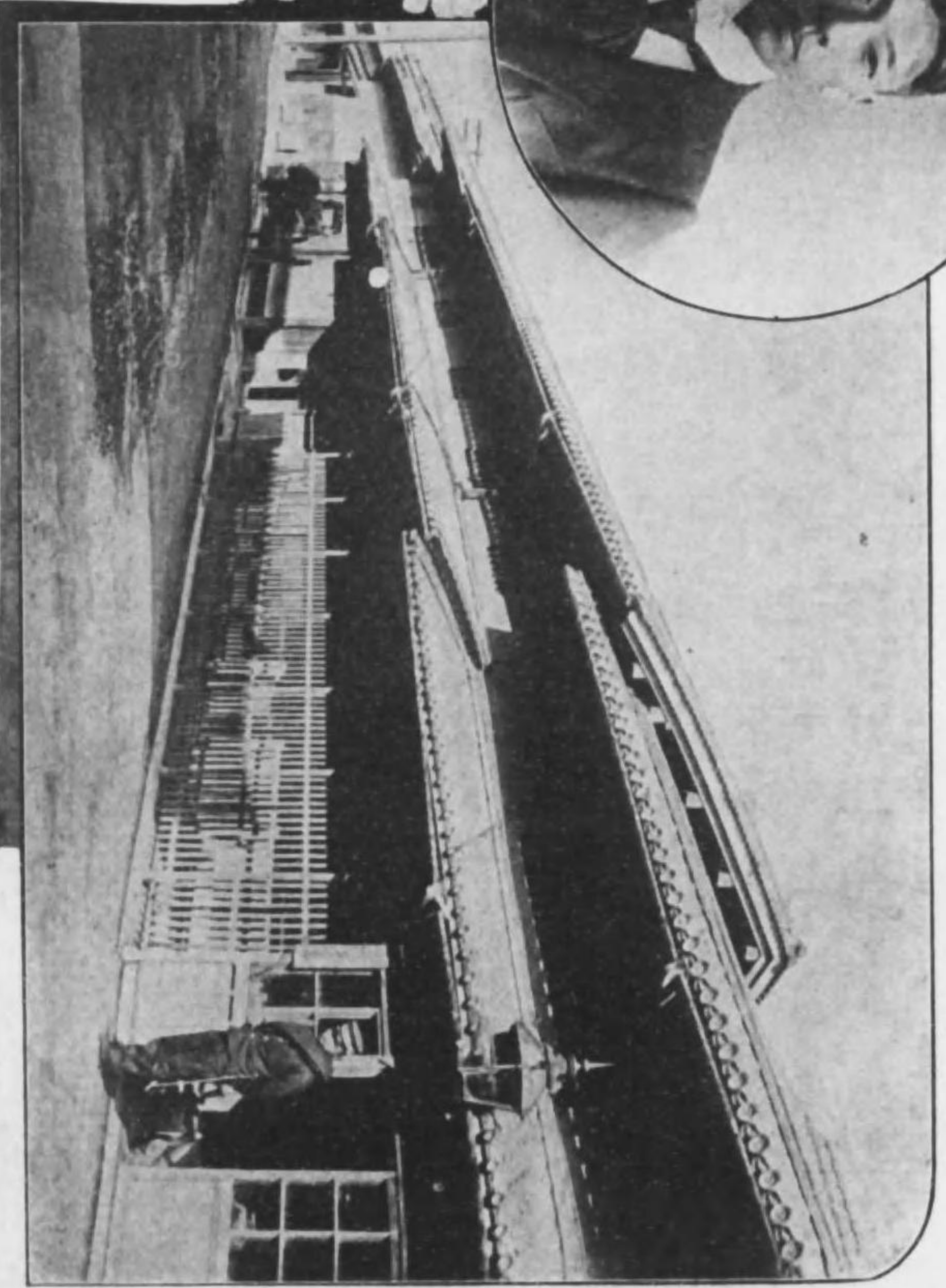


三等合造一車外部



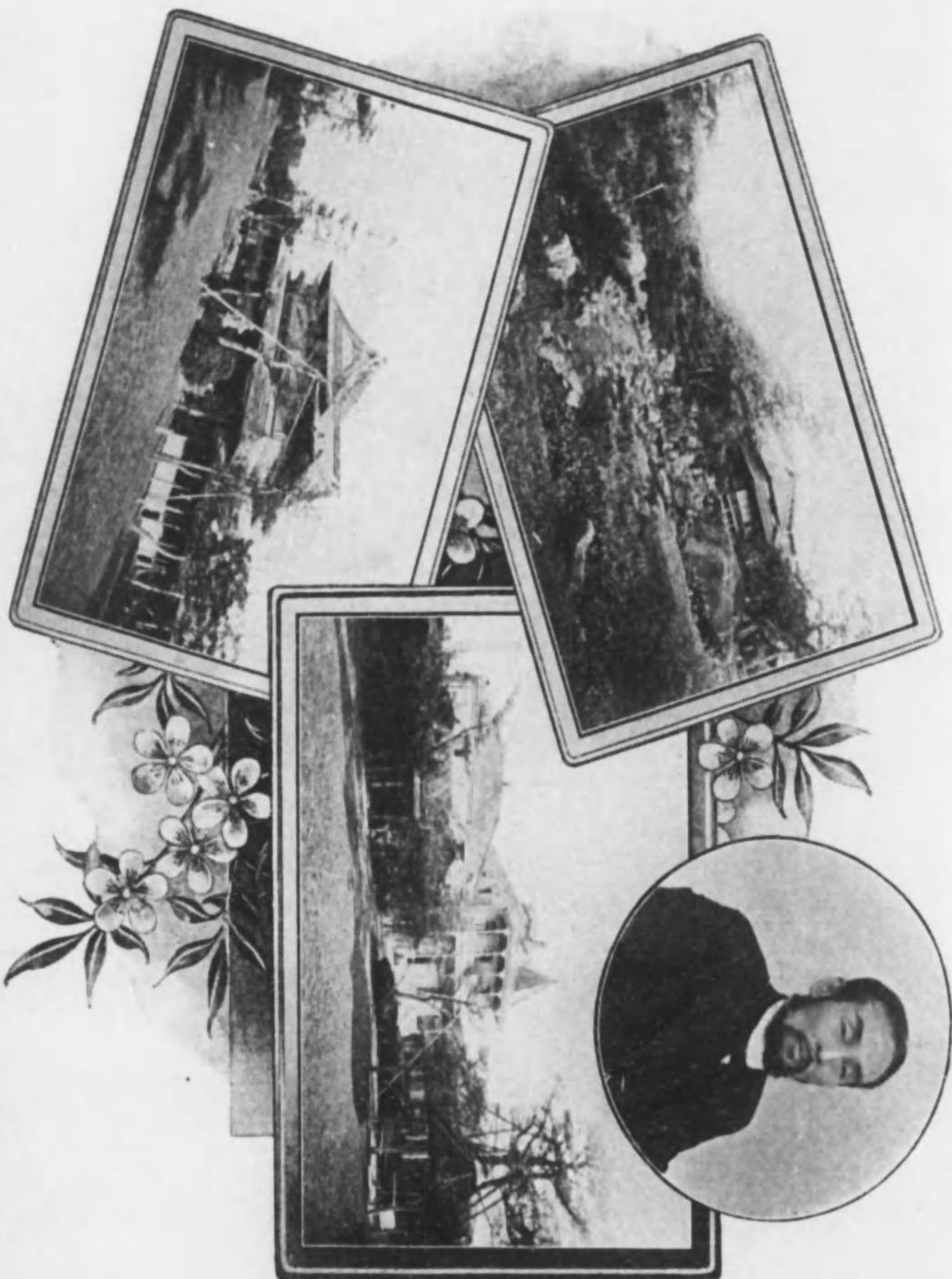
圖路線道鐵海南

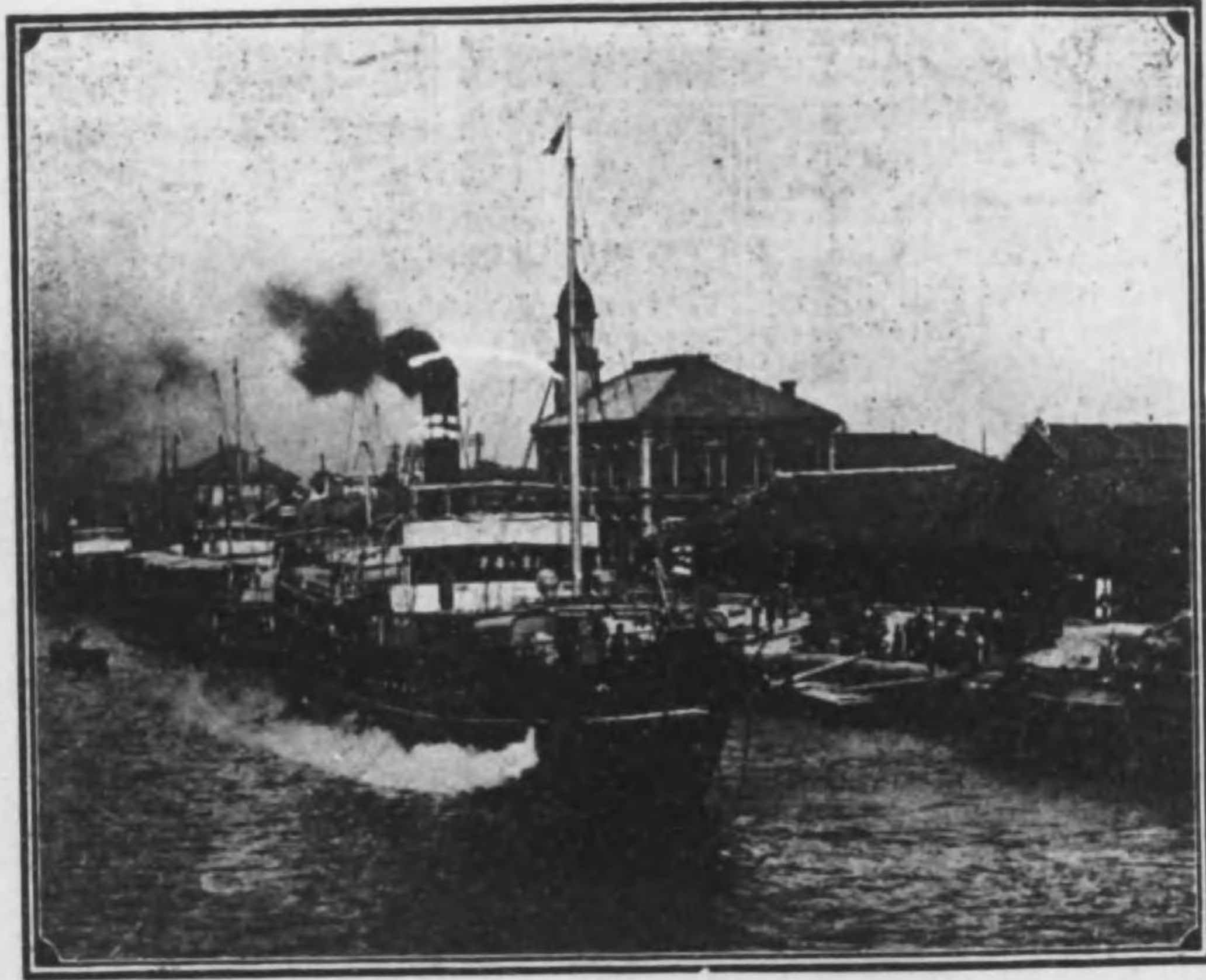




（氏門新右善池瀧）邸池瀧

藤田三郎氏(藤田)





大阪安治川口

大阪商船株式會社

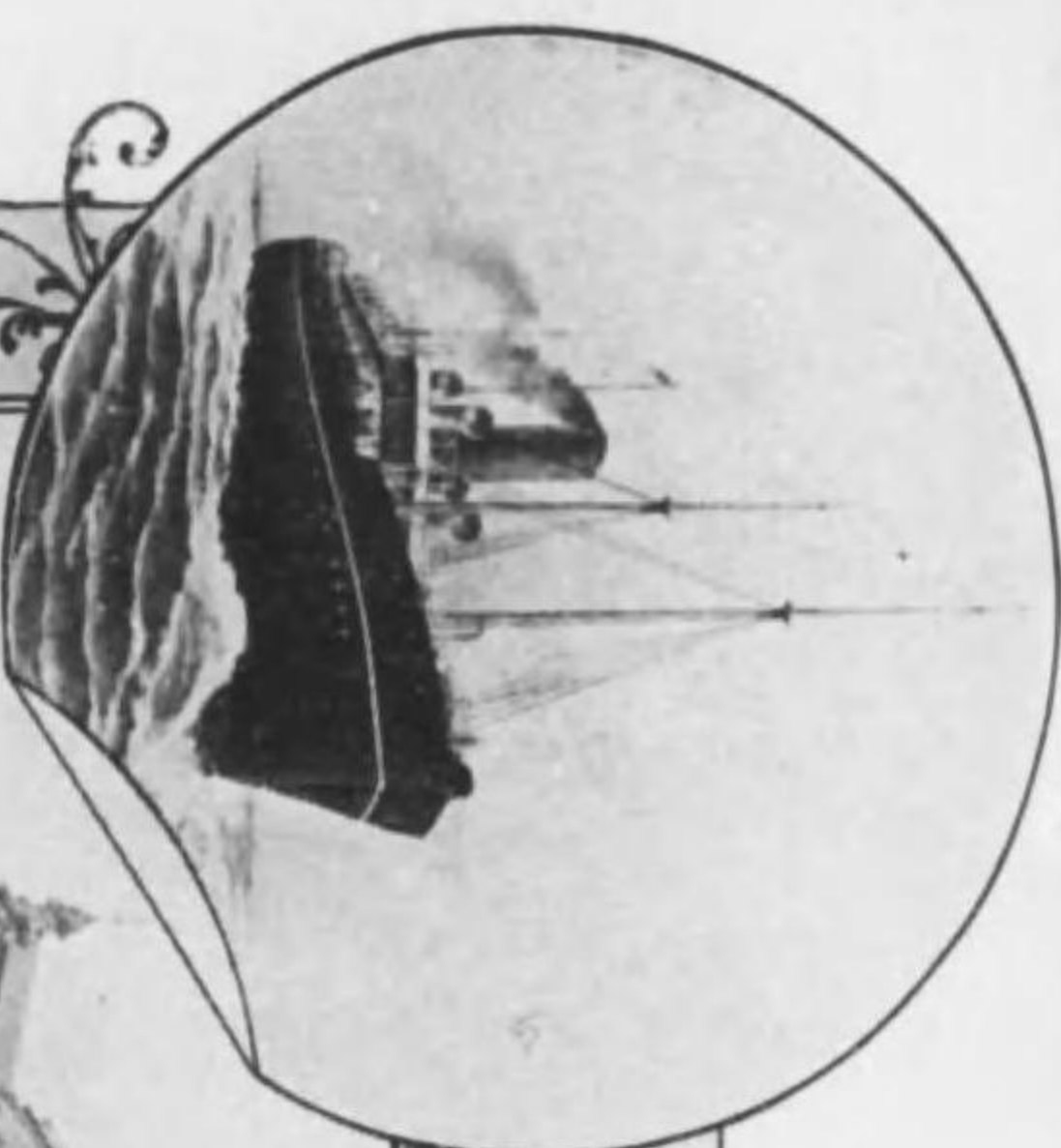
大阪支店ト利根川丸

一 望樓ノ高ク管ユルハ大阪支店事務所ナリ
 一 汽船ノ黒煙ヲ吐テ出帆セントスルモノハ大阪商
 船株式會社汽船下ノ關行利根川丸ナリ
 一 目下大阪支店右隣ニ事務所ヲ其前面ニ四十二間
 ノ鐵骨ブラットホームヲ新築中工事落成ノ上ハ
 大阪支店ヲ一大船客待合所トナス（本年十一月
 中工事落成ノ筈）

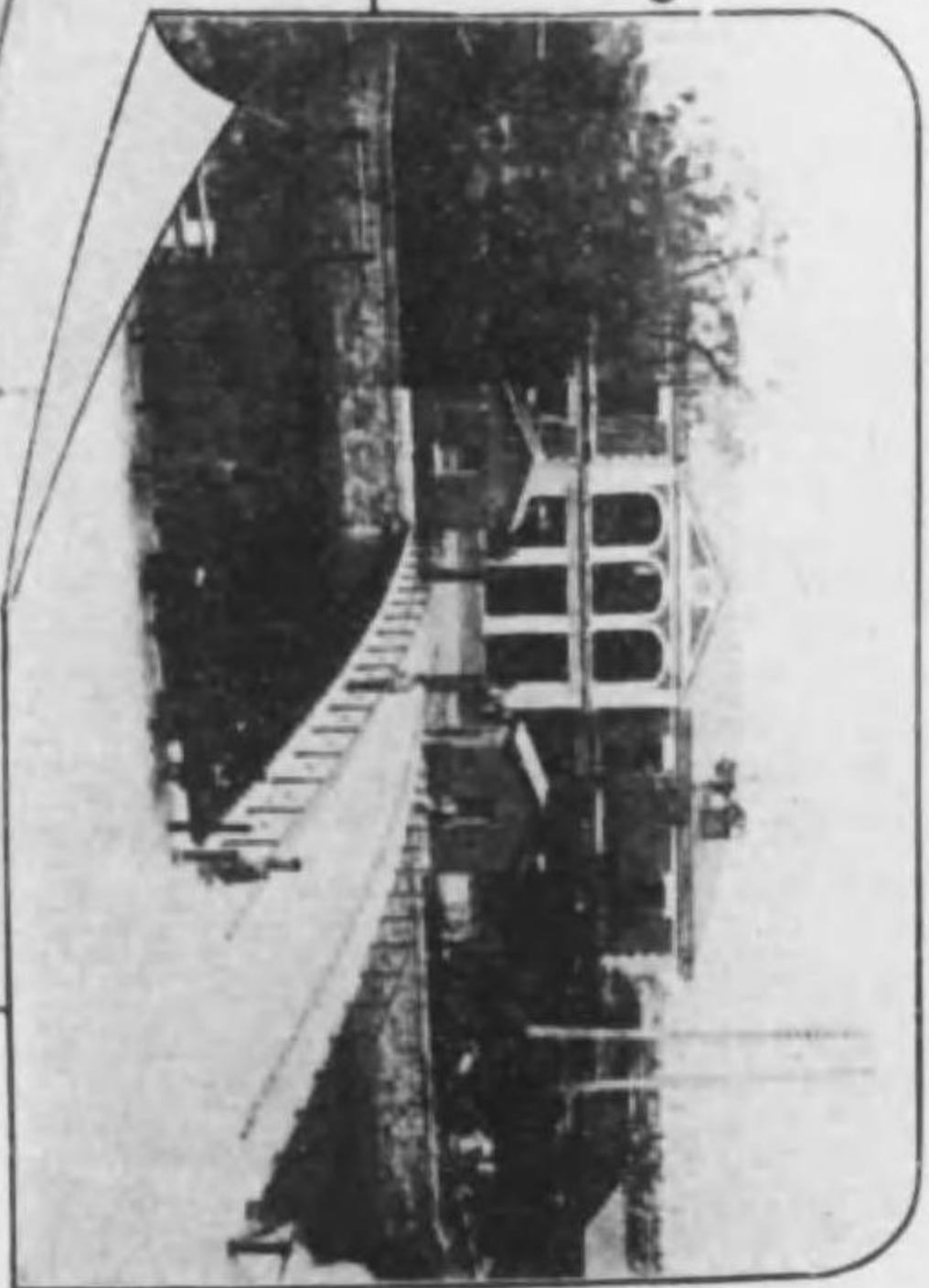
大阪商船株式會社ハ現今九十餘隻ノ大小汽船ヲ以
 テ内外國三十八線路ノ定期航海ヲ實行ス其航路區
 域ハ内地各港ヲ初メ清韓兩國沿岸ノ各港ニ涉レリ
 韓國航路ヲ初メ關西地方ノ内地航路ニ於ケル各船
 ハ皆大阪支店前ヲ以テ留留場トシ其前ニハ一大船
 客待合所及ビブラットホームノ設アリテ荷客ノ昇
 降ニハ大ニ便利ナリ



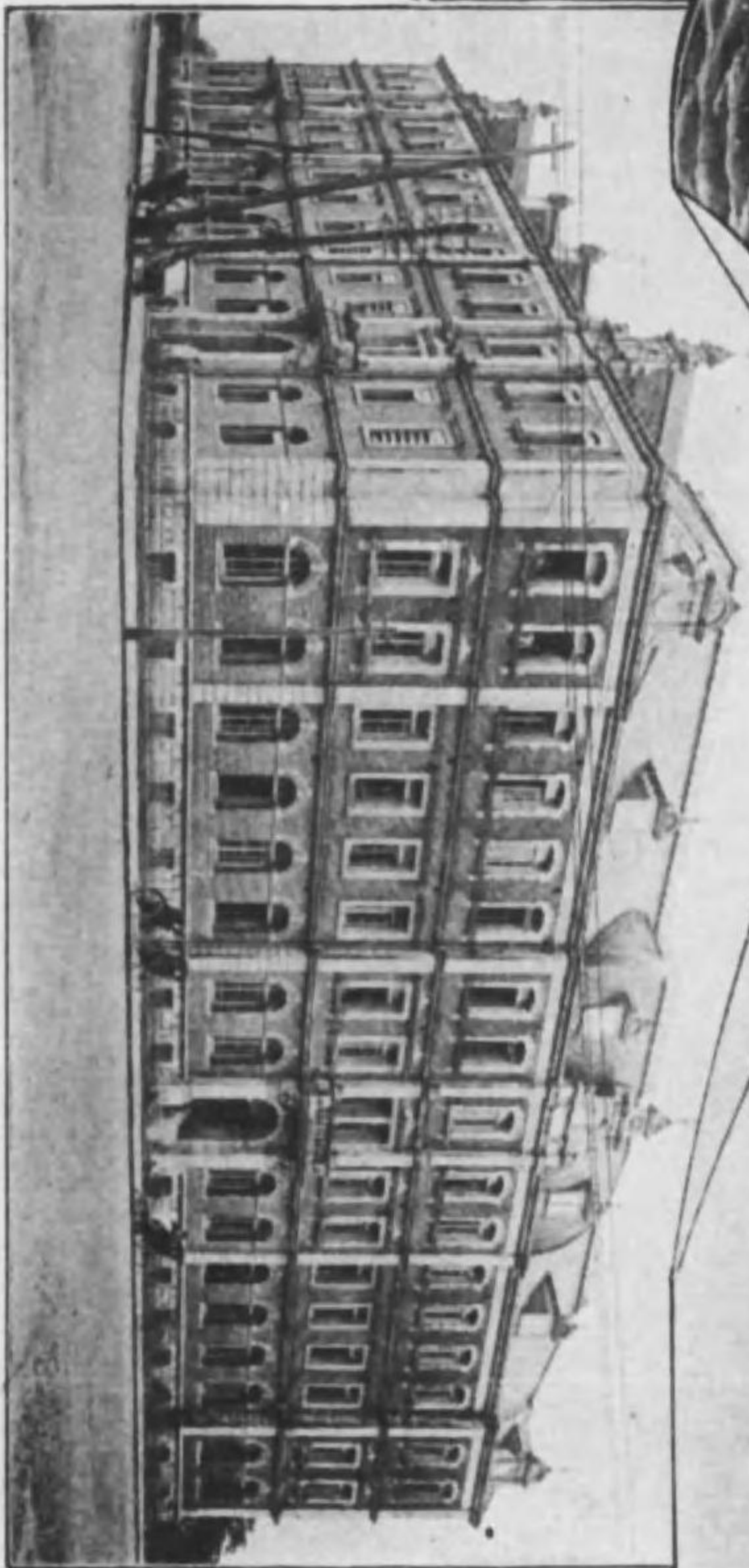
歐航船

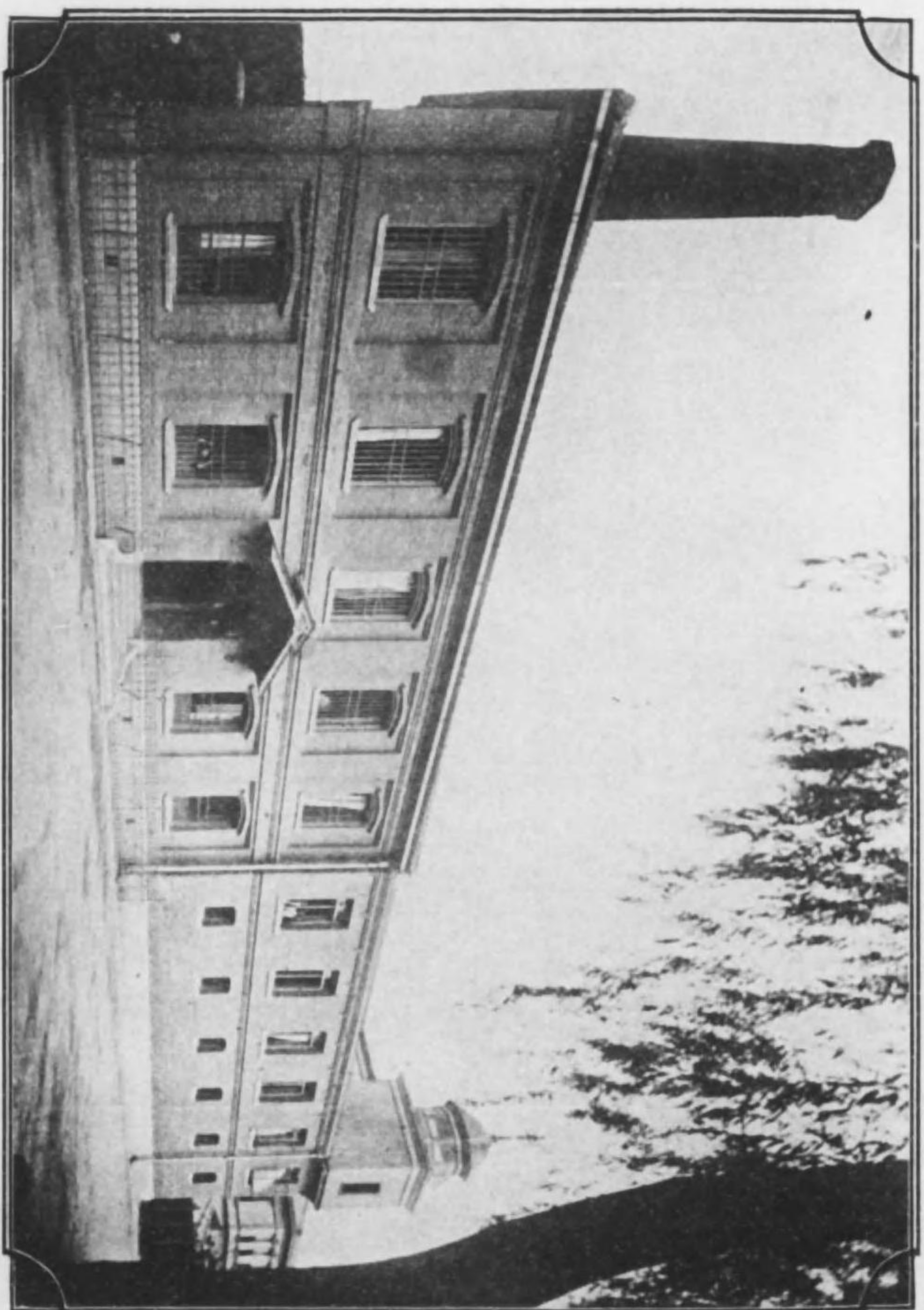


大阪支店



日本郵船株式會社



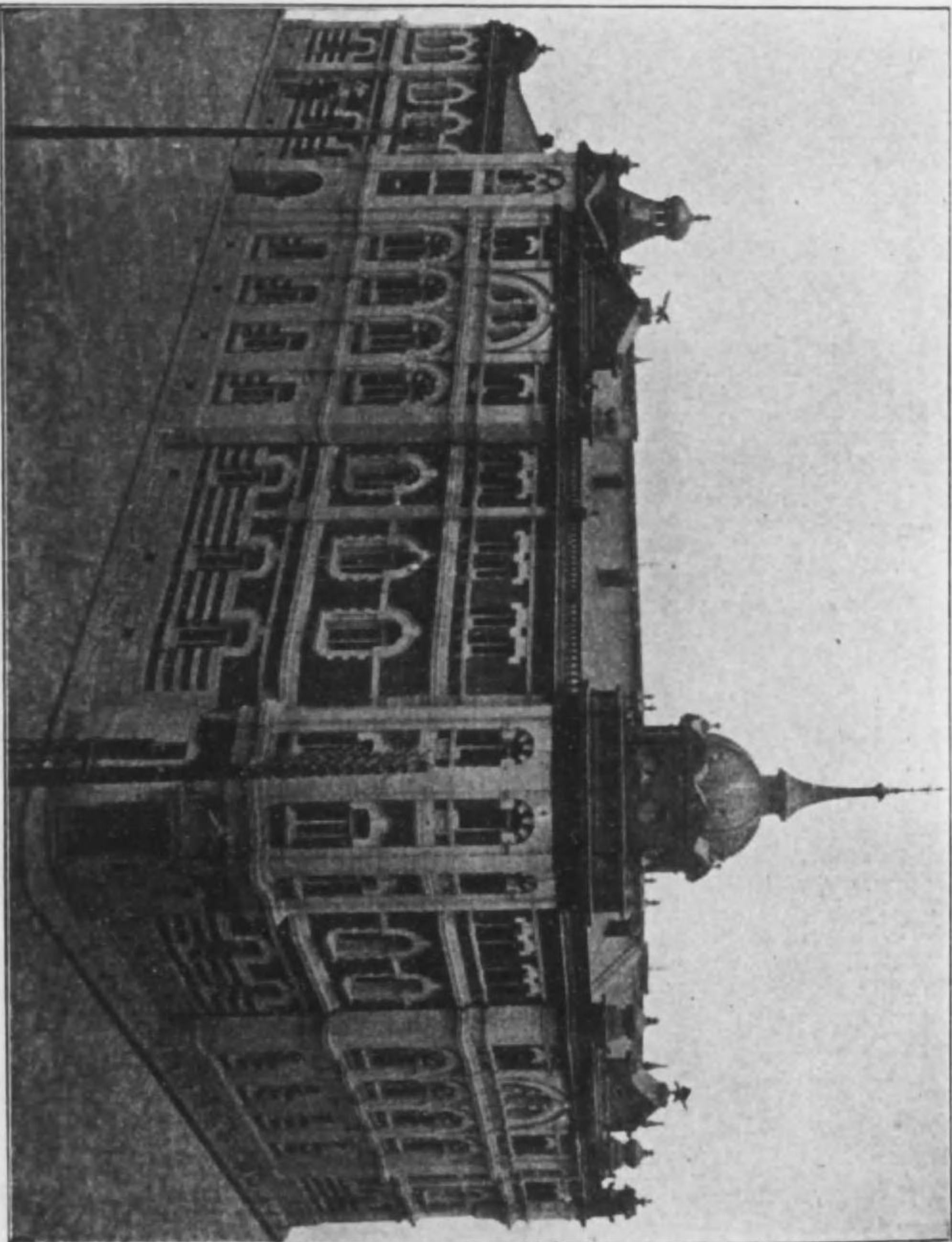


大 阪 電 燈 株 式 會 社

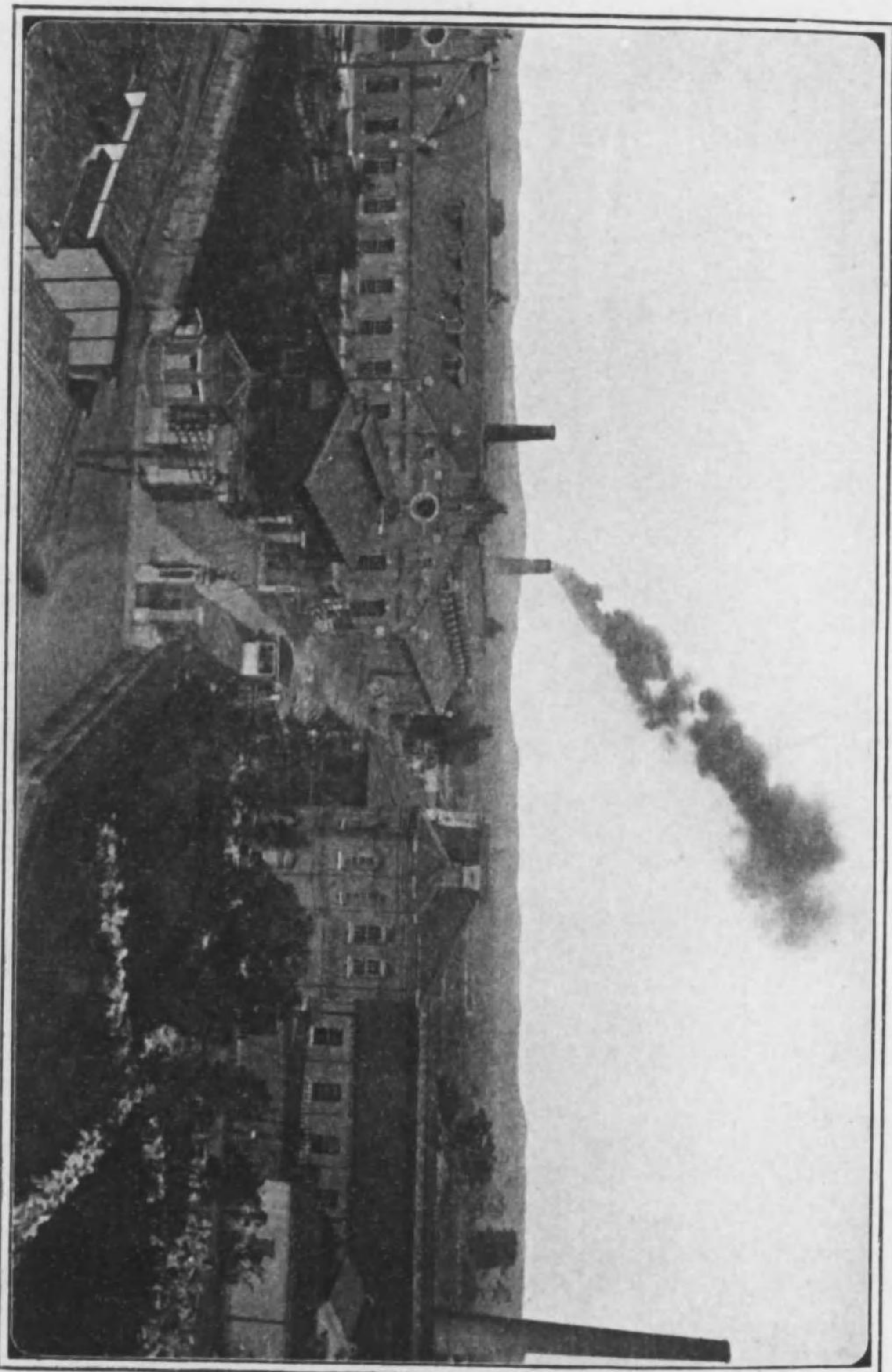




當會社は東京に支社、京都、名古屋、金澤、仙臺、横浜、函館に出張所を
設置し其他全國主要の地に四百九十餘箇所を代理店あり
日曜大祭日の外毎日保険申込に應じ簡便に御契約可仕候

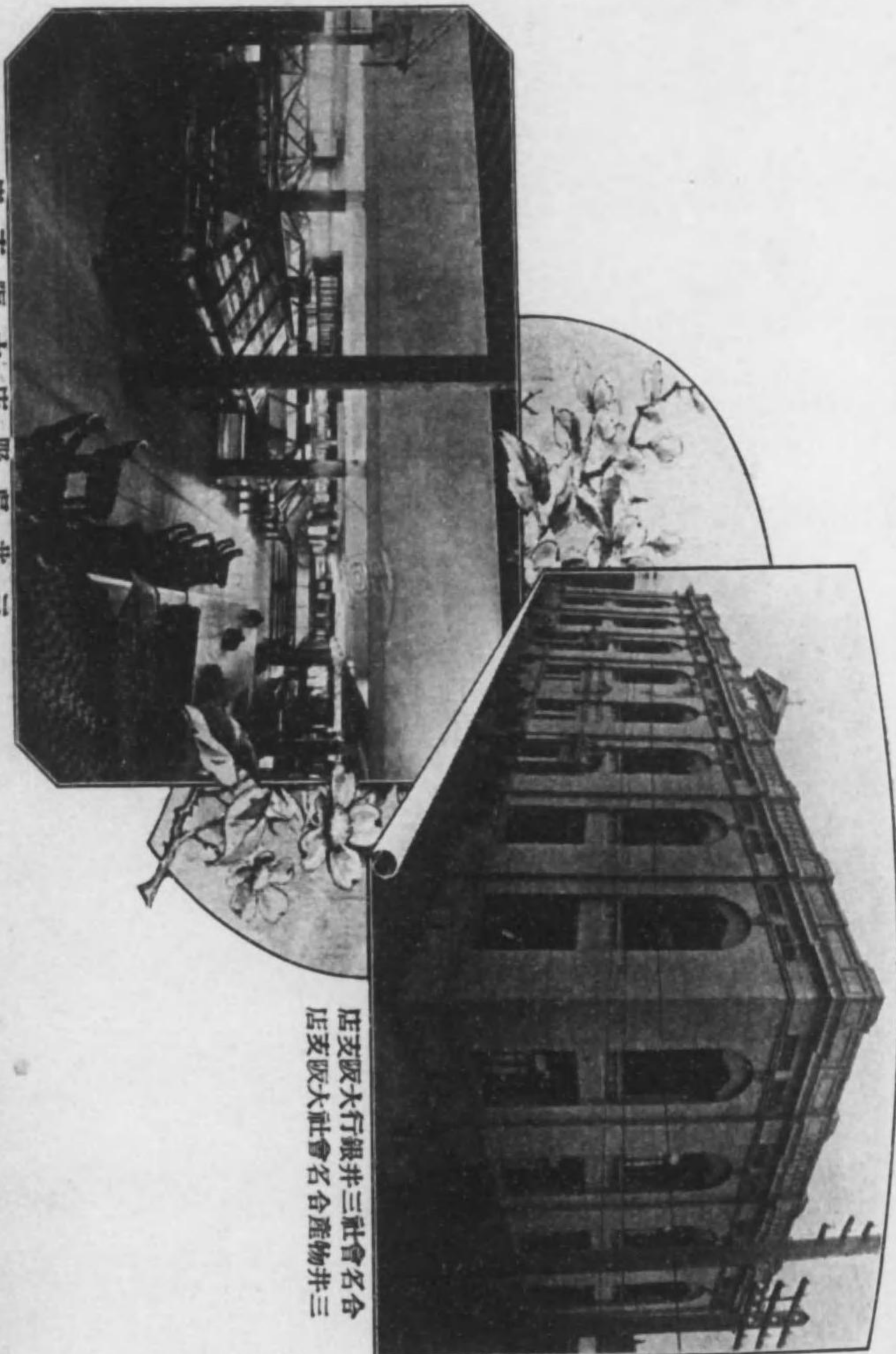


大阪市東區今橋四丁目七番地
日本生命保險株式會社
電話特異取扱急務、東千九百九番



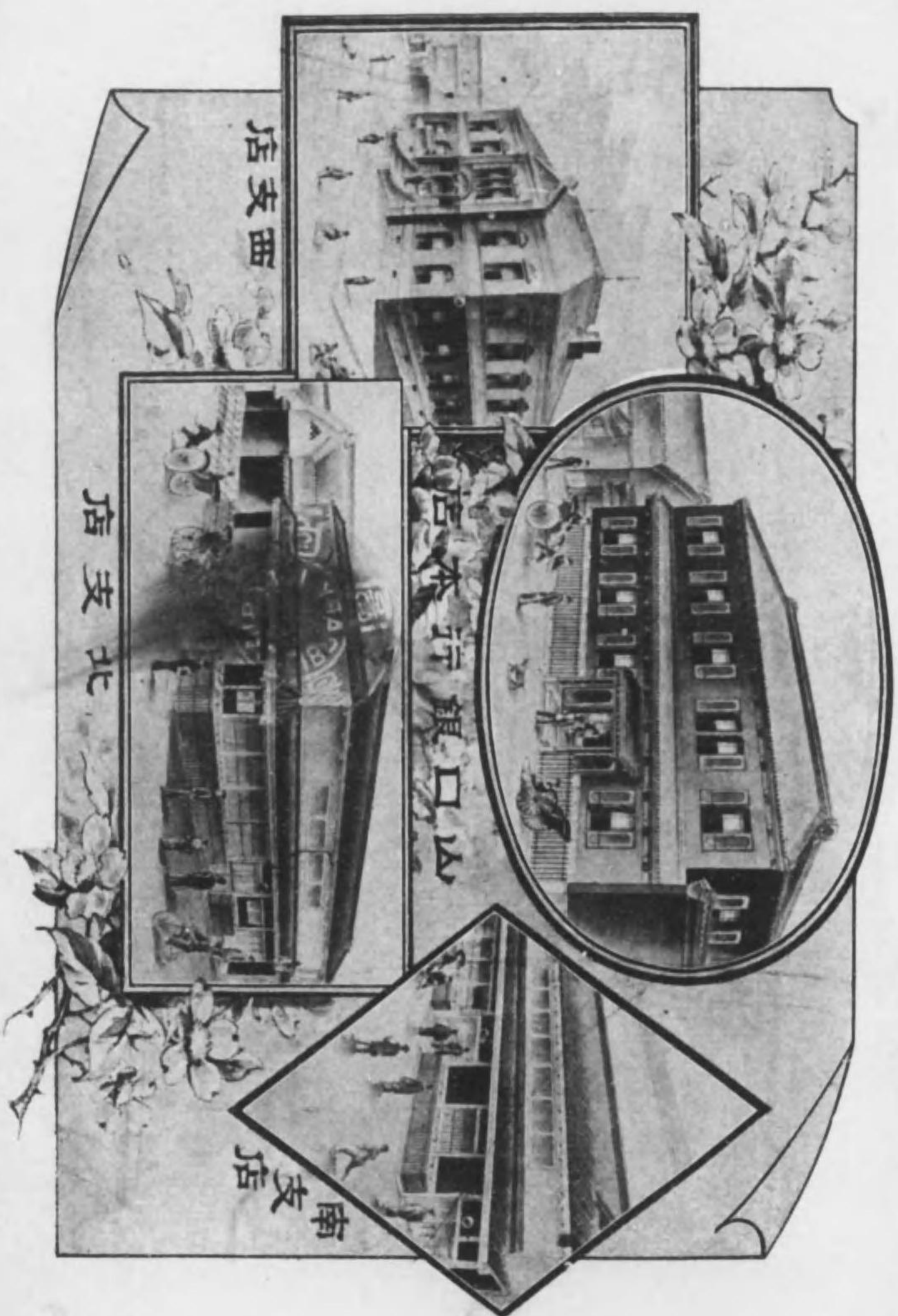
三 菱 會 社 大 賣 會 附 屬 製 鐵 所





合名會社三井銀行大阪店
三井物產會社大阪店

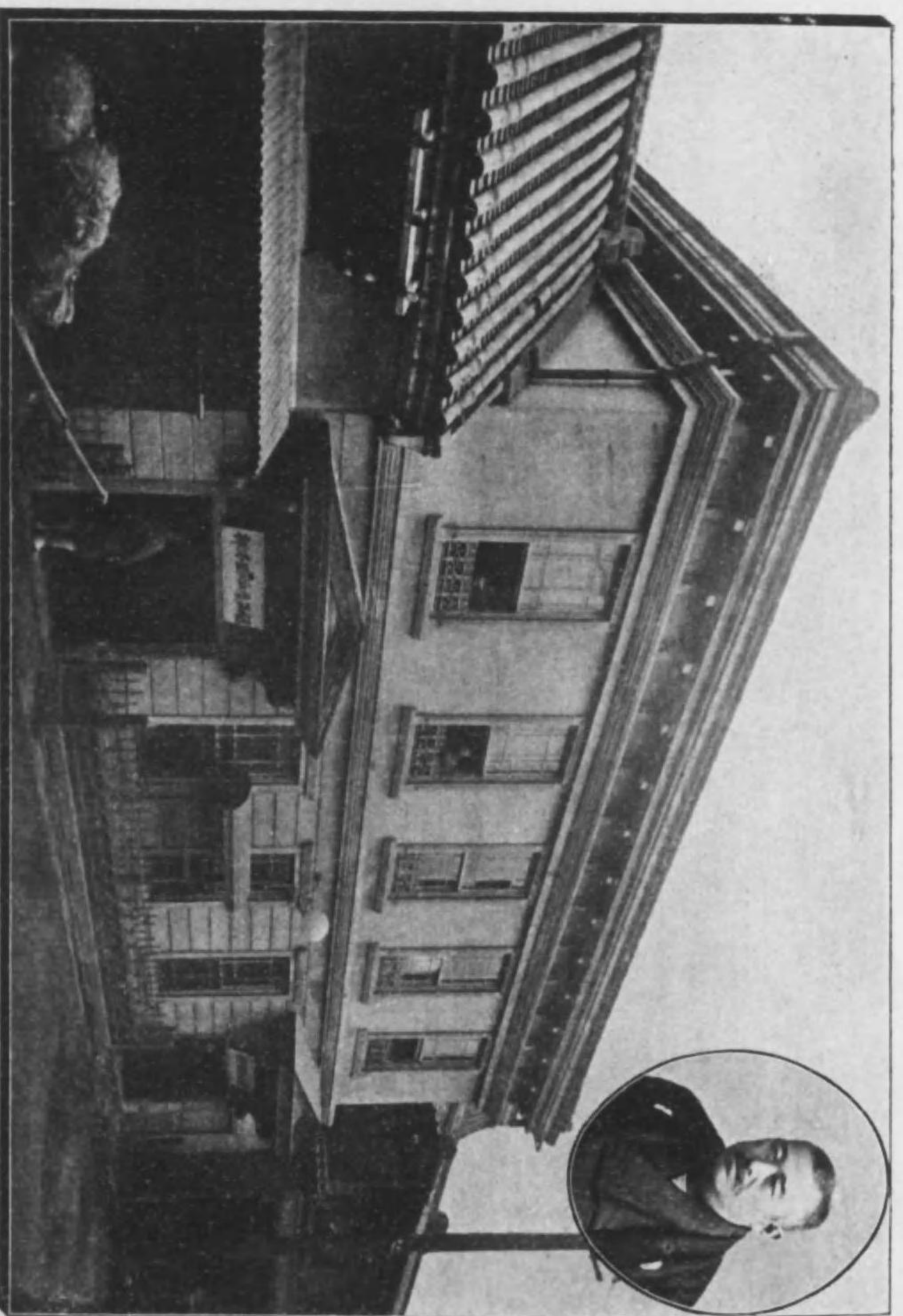
三井物產會社大阪店



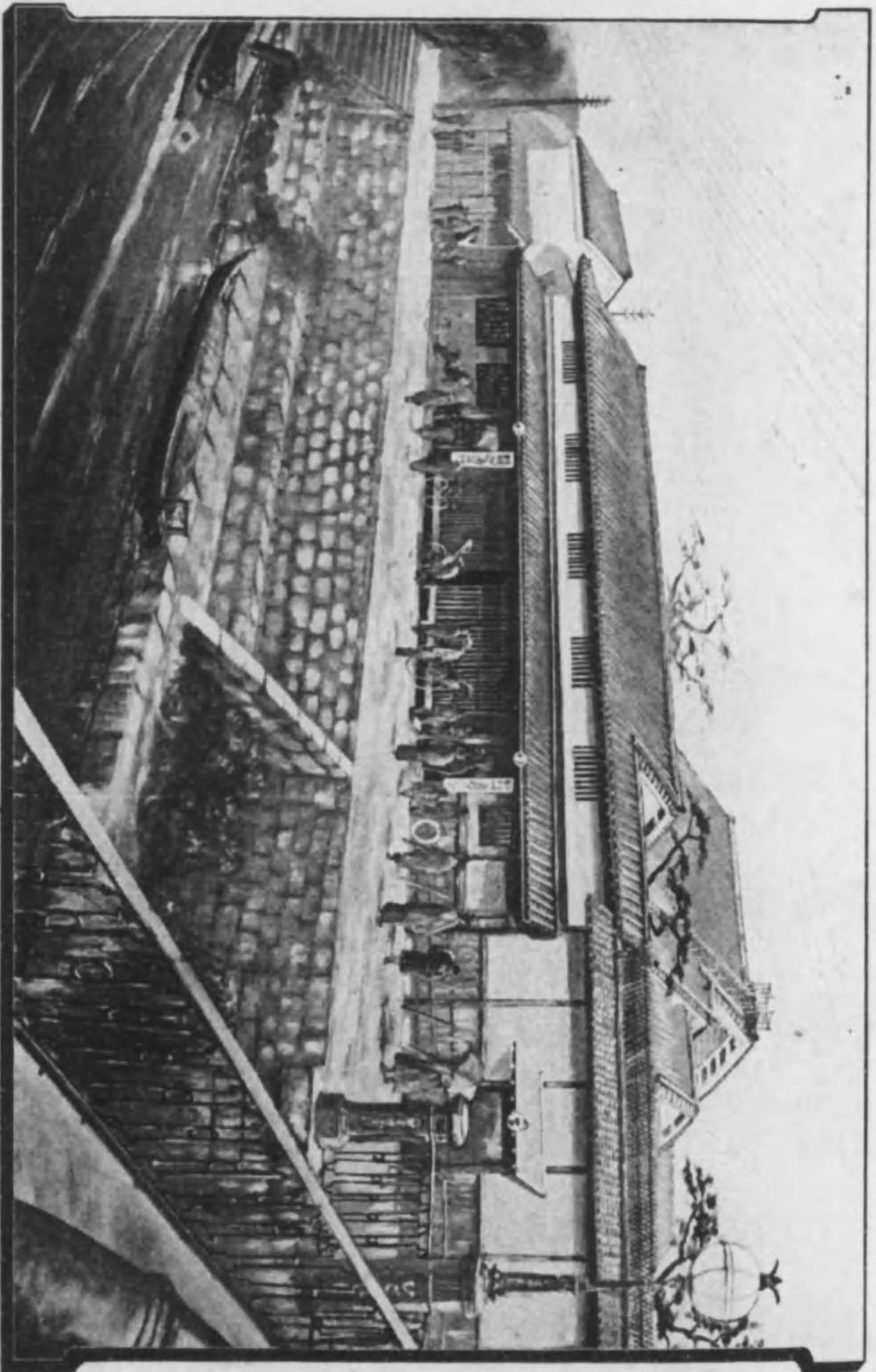
里巴國漆
 獲受牌五番號
 器漆數
 部器漆店商川芝
 町田野尻辰次

SEI WAKAWA'S
 PAPER LACQUER WARE.
 Awarded gold medal at the Paris World Exposition
 1889.
 SEI WAKAWA & CO.
 Fushimi-machi, Osaka.
 JAPAN.





西濱船同本及部小長平八郎氏



合資 加島銀行
本店 大阪市西區土佐堀一丁目

業務擔當社員
廣岡信五郎氏
廣岡久右衛門氏



金露印改良日本酒



內外國博覽會ニ於
名譽賞牌受領

芳香佳味價格低廉
四季最好ノ飲料

外營業品目

各種綿布製織販賣、石鹼製造販賣
キリンビール台灣一手捌、アサヒビール、石油
醬油、米穀、罐詰類、台灣生產品委託賣買

大塚和三郎本店
電話特拾九番

商號大塚商會

大阪市東區橫堀二丁目

大阪支店

台灣台北府建昌街一丁目

臺北支店

台灣台中大墩街

臺中出張店

北海道小樽港町

小樽出張店

長崎市東濱町商號木貞

長崎出張店

大阪と博覽會

第五回内國 勸業博覽會 協賛會編纂

第一編 來着

大阪へ來着の順路

第五回博覽會は入場者三百萬人あるべしとの豫想なり、是固より延人員の勘定にて又其半以上は大阪市民にてあるべく正味果して何程の人が他地方より大阪に來るべきや何人も豫知する能はざるなり、併し兎に角に明年の春より秋までは平日に幾十倍するの旅客が大阪を中心として東西南北に往來すること疑なく各鐵道會社、汽船會社は昨年中より既に其運搬上に工夫を凝らし、各地の神社佛閣、名所、舊蹟等にも種々の趣向を設けて參詣人又は探討者の吸收に餘念なければ定めて到る處賑かなる事なるべし。倍大阪の町に入るには海陸の二道あり、陸よりするものは、大阪に停車場を有し又は大阪附近において官線に接続する各鐵道によるなるべく其名稱左の如し



大阪と博覧會

第一編 來着

大阪へ來着の順路

第五回博覧會は入場者三百萬人あるべしとの豫想なり、是固より延人員の勘定にて又其半以上は大阪市住民にておるべく正味果して何程の人が他地方より大阪に來るべきや何人も豫知する能はざるなり、併し兎に角に明年の春より秋までは平日に幾十倍するの旅客が大阪を中心として東西南北に往來すること疑なく各鐵道會社瀛船會社は昨年より既に其運搬上に工夫を凝らし、各地の神社佛閣、名所、舊蹟等にも種々の趣向を設けて參詣人又は探討者の吸收到餘念なければ定めて到る處賑かなる事なるべし俗大阪の町に入るには海陸の二道あり、陸よりするものは、大阪に停車場を有し又は大阪附近において官線に接続する各鐵道によるなるべく其名稱左の如し

第五回内國
勸業博覧會 協賛會編纂



一、官設鐵道 一、山陽鐵道 一、關西鐵道 一、南海鐵道 一、高野鐵道
又海路よりするものは、大阪川口又は神戸に達するの線路を有する左の諸船による
なるべし

一、關西同盟船 一、日本郵船會社 一、東洋汽船會社
右諸船は、特り大阪へ來るの順路なるのみならず、又大阪を経て所々の名所舊蹟に遊
び又は温泉を尋ね或は工業地を視察するの順路にもあり、旁此に各線の概略を摘記す
ることとせり

官設鐵道

官設鐵道は東京より名古屋、京都、大阪を経て神戸に到るを本線とし、別に富山より金
澤、福井を経て京都に至り右の本線に合する支線あり、東海、東山、北陸、北海の諸道よ
り來るものは、大抵これに倚るべし、關西鐵道は名古屋、草津及大阪において、阪鶴鐵道
は神崎に於て、山陽鐵道は神戸に於て、孰れも官線に接続す、官線によりて東京より大
阪に來る道は、其大部分昔の東海道五十三驛と並行せるものにて、函根山、富士川、大井
川、天龍川、木曾川、瀨名の入江、近江の湖水等の勝地、桶狭間、關が原等の古戰場も、車
中より望見し得べし、博覽會開會中の時候には、京都に嵐山の櫻もあり、鴨川の納涼も

あり、岐阜に一泊して長柄川の鵜飼も見物するを得べし且來年開會の頃迄には東海道
の複線工事落成し新橋、神戸間の時間短縮するのみならず京都神戸間の往復を頻繁な
らしむる計畫あり

山陽鐵道

下關神戸間三百二十九哩の鐵道にして、神戸に於て官線に連絡し、下關に於ては同社所
有の小蒸氣船によりて九州鐵道に連絡す、途上の名所は壇の浦、宮市、天満宮、安藝の宮
島、明石、須磨、舞子の景にして一の谷の古戰場も程近し、又長府、廣島、福山、岡山(有名
なる後樂園あり)姫路の市街等も見るべし、本鐵道は設備の完美をもつて名あり、列車
内にボーイを乗込ましむる事、食堂列車を附すること、寢臺車を設くる事、蒸氣暖室裝
置を施すこと等他に卒先して乗客の便利を圖るに勉む、近來馬關にホテルを建築せる
が是亦日本に於ける鐵道ホテルの嚆矢なり

關西鐵道

關西鐵道は名古屋より大阪湊町に到るを本線とし、伊勢の津より同國龜山に到り本線
に合するの支線と、柘植より分岐して草津に到り官線に合するの支線とを有せり、大阪
附近に於ては、加茂より分岐して官線の大坂驛に到る線路もあり、大坂市の東、南、北の

三面は此鐵道線をもつて取巻かれたり、沿線の名所は本線に木曾川、揖斐川、淀川の三
大川、筆捨山、關の地蔵、鈴鹿山、柘植、月ヶ瀬、笠置山、信貴山、道明寺、高井寺、法隆寺の
名所舊蹟、桑名、四日市、龜山、上野、奈良の市街あり、支線には専修寺、津市、永源寺、男
山八幡、倉治桃林、四條驛神社、生駒山、瓢箪山、當麻寺、檀原神社、多武峯神社、初瀬寺
等あり、本鐵道は博覽會開會中天王寺停車場より線路を延長して博覽會場内に引込み、
臨時停車場を設けて、觀客の便に供する筈なり、又博覽會を機とし伊勢參宮をなさんと
欲するものは關西鐵道によりて津に到り同所にて參宮鐵道に乘換へ、山田に達するを
得べし

南海鐵道

紀州和歌山大阪難波間の線路を有す、沿線の名所及重なる市街は和歌浦、尾崎、樽井、佐
野、貝塚、岸和田、大津、葛の葉、濱寺、堺、住吉、天下茶屋なり、博覽會以前に和歌山の鐵
橋落成し同市傳法町まで線路を延長すべく開會中は今宮に臨時停車場を開設し觀客往
來の便利を圖るといふ

高野鐵道

河内の長野と大阪汐見橋間十七哩の鐵道にして、瀧谷、狹山、堺、住吉等を経過す

日本郵船會社

日本郵船會社は外國航路を主とするものなるを以て、内地の觀客にして其船に倚るも
のほ、蓋し少なからんも、朝鮮、支那地方より多く其船に搭すべく、又内國に在りても、
臺灣及北海道の人々は此會社の航路に倚るを便とすべし

關西同盟瀛船 附大阪商船會社

是れ明年の博覽會に九州、四國、中國よりする見物人が最も多く利用すべき航路を占領
する船舶なり、就中大阪商船會社は最も多數の瀛船を有し、航路も臺灣支那其他同
盟航路以外に廣く延び居れば、必ず觀客の大部分を運搬するなるべし同社は又博覽會
を機として特に内海巡航船を造り、四方觀光客の便に供する由なり、關西同盟瀛船
の通過する處は、世界第一の風景と稱せらるゝ内海にして、四國、中國の沿岸には高松、
多度津、丸龜、宇和島、尾の道、廣島、下關等有名の港あり、又屋島の古戰場、須磨、明石、
嚴島、淡路島、小豆島等の名勝もあり、豊後別府の温泉、伊豫道後の湯に入るも自在なれ
ば其繁昌今より想ひ見るべし

東洋瀛船會社

是も郵船會社の如く外國を重とするものなるを以て、神戸に線路を有すれども別に記

さす

大阪の地勢と歴史

第五回博覽會開設の地たる大阪は、攝津の國の東南隅、東經百三十五度二十九分、北緯三十四度四十一分の處にあり、淀の河流に跨りたる平地にして唯東方のみ少しく丘陵の形をなせるを見る、此地西に泉水の如き攝津の海を控へて淡路島を築山とし、東南北の三面には後園ともいふべき攝河泉の平野を有し、武庫、箕面、信貴、生駒、金剛、葛城、藏王等の連山界隈の如くこれを圍繞す、風景の佳勝、氣象の廣潤なるはいふ迄もなく、地理學者が都會發生の要素とする河道、海濱、沖積土の三者盡く兼備はり、空氣乾燥にして雨量少なく、氣候温和にして四時共に可なり、而して其位地を論ずれば、正しく五畿の咽喉七道交通の要衝に當れり、されば、皇祖神武天皇東征の時御船を此渚に寄せて浪速の稱を與へ給ひしより以降、次第に船舶の集會所となり、旅客休泊の處たりしもの如く、博土王仁の歌にも早く既に浪速津の稱あり、次で仁德天皇は都を此地に移し給ひ、新に堀を鑿り、大道を開きなどし給ひ、推古、欽明等の御世には外國人應接の場所となり、其後孝德聖武の兩天皇も一時都を長柄に遷し給ひし事あり、下つて明應年間連如上

べしとは市民の自ら期するところなり

重要なる史蹟

人本願寺別院を置きて宗法弘通の本據とせしより信往等四方より此地に集り來り、其後秀吉の居城を此處に構ふるや、盛に市街を經營し、堺伏見の兩地より豪富の商人を移住せしめ、大阪繁榮の基礎を定めたり、徳川氏に到り特に城代を置きて此地を幕府の直轄とし、市民を優遇して盛に貨殖の道を講せしめ、元祿年間には態々河村瑞賢を下して河川に大修繕を施さしめたり、これと同時に全國の諸藩孰れも倉屋敷なるものを此市中に設けて各其物産の交換に従事せしめしかば大阪は、恰も日本の納戸壘所となり、大阪の町人は居ながらにして日本中の大名を活殺するの權力を有せり、明治維新の變、一旦全市の秩序を破壊し商業を衰頽に傾かしめしも、久しからずして百般製造工業の勃興するあり、海陸運輸の便亦漸く増加し來れるを以て、今は市中の景氣都て舊時に倍するの勢なり、現今市の住民九十餘萬、大抵皆商工業に従事するものにして勤勉力行の風亦全國に冠たり、安治川口に築造せられつゝある港灣の落成したる曉には東洋第一の大貿易市場となり、日本のマンチエスターに兼て又リパブルたるの名譽を有す

神武天皇 紀元五十八年二月、東征して難波の磯に到り給ふ▲神武天皇 廿二年三月、難波に行幸 四十一年初め

て津の國の稱史に見ゆ、津は船舶輻湊の善なり△仁德天皇 元年正月、遷都高津宮に居給ふ 十一年、堀江を宮北に遷る 十四年、京師中に大道を作り、又宮の南門より河内丹比邑迄大道を開く△欽明天皇 元年九月、行幸(觀津宮)△推古天皇 元年四月、厩戸皇子四天王寺を建て給ふ 十六年四月、唐國の使臣來朝により新館を造つ 二十一年、大和の京師まで大道を開く△舒明天皇 二年十月、三御館を改修す△孝德天皇 大化元年十二月、都を長柄豐碓に遷し給ふ 二年京坊の制を定む△天武天皇 白鳳六年十月、蘇我氏を討つ 同八年十一月、難波宮を築く△文武天皇 應雲三年九月、難波宮に行幸△聖武天皇 神龜二年十月、難波宮に行幸 天平六年三月、行幸 同十六年、遷都 同十七年、平城に遷幸 同年八月、難波宮に行幸△孝謙天皇 天平勝寶八年二月、難波宮行幸 △桓武天皇 延暦七年、覺慶の南に堀を掘る 同十二年三月、蘇我氏を討つ△後土御門天皇 明應五年僧徒(蓮如上人)本願寺別院を置く蓮如の文章に攝州東生五内内の大政あり是は大政名稱の書に見ゆる始なり△後奈良天皇 天文元年、僧光教本願寺別院を改めて石山に築城す△正親町天皇 天正十一年、秀吉居城を搦(堺伏見の町)人を移す△後陽成天皇 慶長十七年、安井道頓領堀を掘る 慶長十九年、家康大阪城を攻む△後水尾天皇 元和元年、再攻堺城陥る 元和元年六月、松平下總守大阪に封せられ、同五年に至るまで大に市街の經營に盡力す 元和五年より徳川氏の直轄となる△明正天皇 寛永年中、香西折雲四貫島九條島を埋立つ△觀元天皇 貞享元年より三年(かけ河村瑞賢安治川を掘り、其他河川の大修繕をなす)△東山天皇 寶永元年、大和川の流城を轉換し、新大和川を掘る△仁孝天皇 天保二年、天保山を築立つ 同八年、大塩平八郎亂を爲し市中大半焼亡△今上天 明治元年、徳川氏城を明渡す 同年、天皇行幸 明治二年、大阪府を置く 明治二十二年、特別市制施行 明治三十年、築港に着手 三十一年十月一日、市制施行

大阪の氣候

附開會中の天氣

大阪測候所の調査によれば大阪の氣候は大陸の影響を受くるが故に、同緯度の地に比すれば寒さは稍々強く、暑さは大差あらず、平均は十四度八(華氏五十八度六)にして、

最高は三十六度五(華氏九十七度七)に昇り、最低は氷点以下七度一(華氏十九度二)に降り、而して平均温度を東北地方札幌に比すれば七度九(華氏四十四度二)高く、西南地方熊本に比すれば一度〇(華氏一度八)低く、臺北に比すれば六度八(華氏七十二度二)低し、降雨一ヶ年の總量は平均一千三百三十八耗五、(雨水の深さ四尺四寸二分)にして、一ヶ月の最多量は六百六十七耗四(雨水の深さ二尺二寸)、一日中の最多量は百七十四耗七(雨水の深さ五寸八分)、一時間の最多量は六十一耗八(雨水の深さ二寸)に達せり、然れども本邦中に於て降雨は寡少なる方に位せり、風は冬期は西乃至北西の風甚だ強く、數日間強風吹き續くことあり、其他の期節に於ては強からざるも夏秋の候には激烈なる暴風あり、即ち二十九年八月卅日の暴風は一秒時間三十三米突七(一時間七十五哩四)に達せり、之れを垂直に壓する方に換算せば一平方方に付三百二十貫目に當れり、風向は全年を通じて北東風、西風最も多く、南風、南東風は極めて少し、雪は十二月下旬に始まり、三月中旬に終る、然れども積雪を見るは甚だ稀なり、霜は十一月上旬に始まり、四月上旬に終る、其日数は平均七十七日に達せり又同測候所創立以來二十ヶ年間の觀測により、三月一日より七月卅一日に至る五ヶ月間(博覽會開會中)の晴雨寒暖を表記すれば左の如し(但し晴雨は百分率を以て示す、即ち晴の行六十、雨の行四十とあ

日	三	四	五	六	七	三	四	五	六	七
一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
三	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
四	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
五	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
六	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
七	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
八	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
九	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十二	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十三	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十四	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十五	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十六	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十七	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十八	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十九	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十二	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十三	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十四	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十五	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十六	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十七	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十八	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十九	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
三十	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
三十一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒

るは、晴六分を占め雨天四分なるの意味なり、寒暖は二十ヶ年間同日の最低最高温度を各別に平均して記入せり、其度は攝氏を用ふ、若し華氏の度を知らんと欲せば、九を乗じ五にて除し、三十二度を加ふべし。

日	三	四	五	六	七	三	四	五	六	七
一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
三	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
四	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
五	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
六	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
七	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
八	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
九	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十二	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十三	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十四	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十五	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十六	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十七	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十八	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
十九	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十二	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十三	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十四	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十五	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十六	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十七	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十八	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
二十九	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
三十	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒
三十一	晴	晴	晴	晴	晴	寒	寒	寒	寒	寒

大阪の町

大阪の町即ち大阪市は東西二里廿四町南北二里十九町、方三里六分の大きにして、東は舊城の北、猫間川を境とし、西は延びて海面に及び、南は今宮博覧會敷地の南端關西鐵道の線路に至り、北は大川及び官設鐵道を超へ、西成郡と、犬牙相交る、全市の區劃は、

東西南北の四區にて、中之島以北が北區、西横堀以西が西區、以東が東區、順慶町より道頓堀を越へ、南の方を南區とす、是れ方角の大體なり、尙これを詳細に記せば左の如し

東區 北は大川及土佐堀川、西は西横堀を限り、南は順慶町内安堂寺橋通に終り、東は東成郡に連る

西區 北は土佐堀川、東は西横堀を境とし、南は難波に至り、西は安治川を限る

南區 北は順慶町内安堂寺橋通、西は西横堀を限り、東南は東成郡に接す

北區 寢屋川、淀川、土佐堀川以北西成郡界に至るまでの區域

されども又四區の内には自ら舊來の俗稱を有する場所あり、大阪人の平生口にするところなればこれを記し置くを便利とす

東區 船場、上町、高津、玉造、清堀

南區 天王寺、今宮、木津、西濱、難波、道頓堀、島の内、南船場

西區 土佐堀、江戸堀、京町堀、鞆、阿波座、薩摩堀、立賣堀、新町、北堀江、南堀江、江の子島、松島、三軒屋、九條、西九條、櫻島、川口、四貫島、各新田

北區 安治川、野田、福島、梅田、曾根崎、北野、天満、堀川、西天満、川崎、網島、都島、中之島、堂島、

この小區劃は、最初其邊に小村落の存在したる名殘もあり、又便利のため自然に唱へ出されたるもあるべし、此他にも尙八軒屋、桃谷、空堀の如き名稱あれど、大區劃は右に擧ぐるところにて盡きたり又茲に大阪の町の方角を知るに肝要なるは、川と堀と橋なり、世人京都を水の都と稱すとはいへ其實は大阪こそ眞の水の府なれ、大阪は西洋人も日本之ヴェニス(伊太利にて有名なる水の都)と稱する位にて、川と堀とは此地の骨なり、今先づ其大體を言へば、市の北部を東西に貫通する大川あり、是れ即ち淀川の末流にして、中之島の所にて二つに分れたる所を土佐堀川及び堂島川といふ、人間ならばこれを脊髓として肋骨の如く南方に掘込みたる運河に種々の名稱あり、其南北に通せるものを東横堀、西横堀と云ひ、東西に通せるものを、北より南に數ふれば、江戸堀、京町堀、立賣堀、長堀、堀江、道頓堀にして、京町堀、阿波堀の間に、海部堀、薩摩堀あり、外に又高津、難波の兩入堀あり、此大體をよく胸に履み込み置けば市中を徘徊して途に迷ふことなし、偕又橋は其數二百四十餘に上り、大阪見物に来る人の、宿屋を出で、何れの方角に向ふも、必ず橋一つ越さぬ事なし、寔に橋は大阪の名物にして亦重寶なり、橋の最も名高きは高麗橋にて、活版創業者元木昌造氏の意匠に成れる大阪最初の鐵橋なり、橋上の中央を大阪府下里程の基点とす、其他大阪四大橋を初め有名なる橋々を川筋によ

りて區別すれば

△豊屋川 京橋△堂島及土佐堀川 難波橋(長九十七町)淀屋橋、肥後橋、筑前橋、常安橋、鶴中橋、淡橋、福徳橋、大江橋、渡邊橋、田邊橋、玉江橋、堂島大橋、船津橋、東横堀川、高麗橋、今橋、思案橋、平野橋、木町橋、農人橋、久寶寺橋、安堂寺橋、末吉橋、九之助橋、瓦屋橋、上大和橋、道頓堀川、日本橋、或橋、下大和橋、相合橋、太左衛門橋、新懸子橋、大黒橋、住吉橋、幸橋、汐見橋、日吉橋、長堀堀川、長堀橋、心齋橋、安福橋、板屋橋、中橋、三休橋、佐野屋橋、炭屋橋、吉野屋橋、宇和島橋、富田屋橋、間屋橋、白雲橋、腰屋橋、玉造橋、高橋、大川、淀川橋(長百三十三町)天神橋(長百三十三町)天滿橋(長百七十七町)西横堀川、西國橋、船町橋、尼ヶ崎橋、京町橋、新町橋、金尾橋、筋違橋、下關橋、堀江川、堀江橋、水府橋(六分中六面)▲西横堀川、西國橋、船町橋、尼ヶ崎橋、京町橋、新町橋、金川橋、▲運川、芦分橋、▲中津川、朝日橋、春日出橋、▲六軒屋川、森集橋、▲曾根崎川、浪花小橋、▲百間堀川、難波橋、上之橋、子島橋、江島橋、▲正蓮寺川、▲堂島橋、▲尻無川、船橋

一寸した事なれども序に讀者の注意を喚置くは、大阪の習慣として、東西に通じたる町を「通」といひ、南北に通じたる町を「筋」といふこと多し即ち同トク橋によりて名付けられたる町にても高麗橋は通にて心齋橋は筋なり、又橋の両端を橋詰といひ、右來の習慣何町と町名を言はずして何橋東詰西詰などいふなり、又これに限らず總トて大阪にては東西南北の稱呼を用ゆるの常なれば、東京などより來る人は別して注意すべし唯他所人の大阪に來て便利を覺ゆるは辻々の街燈なるべし是は警察の注意にて四方に其面せる町名を記しあれば、道路及方角につきて疑を抱きたる場合など甚だ重寶なり」これにて略方角の目安も極りたれば、町柄の荒増を案内せんに、先づ東西横堀の間なる

船堀、島の内は市の中央部に位して、豪商大買軒を並べ、會社銀行等の建築宏壯美麗なるもの多し、中にも心齋橋筋、堺筋、松屋町筋、北濱通、高麗橋通、平野町通、本町通、順慶町通、最も繁昌す、土佐堀川に臨める大川町には旅人宿多く西横堀に面せる川端には材木商多し、東横堀を東へ渡り上町に出れば、松屋町筋に小賣店の櫛比せるを見るも、是より以來舊城の近邊は各兵營練兵場廣き面積を占め又官吏會社員等所謂月給取の住宅多く、恰も東京の麹町に似たり、上町の坂を上りて東へ下る所を玉造及び清堀とす、玉造は昔四天王寺の在りし所なり、清堀の南を高津といふ、高津神社の高地を中心とせる市街にして、東京の赤阪四谷邊にも比すべきか、高津の東南に有名なる天王寺あり、その附近茶臼山の北邊を天王寺といひ、天王寺の西を今宮といふ、即ち今回博覽會の開かるゝところなり、其北を難波と云ひ、南海鐵道の難波驛あり、其西を木津といひ、木津の西なる西濱は皮革業者の集れるところなり、難波、木津、西濱は何れも近頃迄郡部に屬し、寂しき地方なりしことゝて、今尙其面影あり、東京の淺草田圃ともいふべき有様なり、難波より北に出れば道頓堀にて、劇場其他の興行物に男女雜沓を極む、轉トて西區に入れば、長堀、堀江、西横堀に材木商多く、京町堀と阿波堀との間には、乾魚問屋群を成し、阿波座、鞆の西横堀に面せる所には、陶磁器の問屋多し、江の子島に

は府廳、市役所、警察部、議事堂等あり、其對岸の川口は元外國人の居留地にして、今も猶外國人の住居するもの多し、更に西して安治川沿岸には大小船舶の寄泊所として、廻漕業者相連り、日本郵船會社支店、商船會社本店もこゝに在り、東北に廻りて中之島に到れば、學校、工場、郵便電信局、倉庫、ホテル等の建物相連り、東端に一の公園地あり、川を北に渡りて堂島には、古來有名なる米穀取引所あり、氣象臺、商業會議所、商品陳列所、知事官邸等あり、天満、天神二橋以北は天神社、青物市場、堀川監獄、川崎造幣局、泉布觀、三菱製鍊所等によりて繁昌し、淀川橋を超へて、櫻の宮に到れば一望の平田堤防の下に在り、東京の向島を聯想せしむ、此北方に都島とて水道の水源地あり、又關西鐵道の網島停車場あり、これを大阪の玉川ベリとも稱すべし

附著しき建物

大阪市中の家屋は大抵長屋建にして外觀甚だ舉らず、有名なる鴻池氏の住宅さへも、他地方の人はそれと知らずして通過すべし、是蓋し昔時商人等が、勉めて外面に質素を裝ひたる遺風なるべく、試に其内部を窺へば、座敷と云ひ、庭園と云ひ、中々手の掛りたる造作多し、店舗の家造りは、概して二階造なれど、其二階は大抵置物にして、住居を目的とせず、天井低くして押潰したる様なるは甚だ見苦し、然れども其構造の、毎戸略相

同トきは、東京などの不規則なるに比して遙に体裁よしといふべし
維新以來官衙、學校等の建築に、西洋風を用ひ、外觀の壯麗を競ふこととなりしより商業會社の家屋も次第に西洋風となり、近來に至り殊に著しく宏大の建築物を増加せり、今其洋風又は半洋風にして人目に著き易きものを擧れば

○官衙

大阪府廳、府會議事堂、警察部、(江ノ子島)各兵營(城の近傍)造幣局(川崎)大阪控訴院(絹笠町)大阪郵便電信局(中之島)税關(川口)大阪電話交換局(平野町)鑛山監督署(上本町)大阪衛生試驗所、貯金管理局(八軒家)

○學校

大阪高等工業學校(中之島)高等女學校、大阪高等商業學校(堂島)大阪師範學校(天王寺)各中學校及小學校幼稚園

○會議所、陳列所、書籍館

大阪商業會議所、大阪商品陳列所(堂島)公會堂圖書館(中之島)博物館(東横堀)泉布館(川崎)三品取引所(南久太郎町)

○銀行會社、取引所、興信所

日本銀行、三菱銀行部、大阪電燈會社(中之島)三井銀行支店、第一銀行支店、百三銀行、朝日來酒會社大阪支店(高麗橋通)北濱銀行、大阪株式取引所(北濱)山口銀行(唐物町)大阪商船會社(川口)日本貯金銀行、大阪貯蓄銀行、日本生命、明治生命、帝國海上、東京海上の各保險會社(心齋橋筋)日本海上(江戸堀)日本火災の各保險會社(西堀)大阪毎日新聞社、興信所(大川町)

○工場

各紡績工場、住友伸銅所、下郷製紙所、増田合資會社、三菱製煉所

○病院

大阪府立病院(中之島)緒方病院(立賣堀)回生病院(相堂町)

○寺院會堂

南北兩御堂(御堂筋)川口諸會堂、青年會館(土佐堀)公會堂(中ノ島)

○ホテル

大阪俱樂部ホテル(中之島)

此他和風の建物にて宏壯なるもの多く又個人の商店にて田舎人の目を驚かす建物も少からず

大阪の宿屋

大阪市内に於て宿屋業を営むものは、最近の調によれば約千戸ありて、旅人宿下宿屋の二種に分れ旅人宿は客室の總坪數廿五坪以上を有し一室少くも一坪半より狭からず、諸般の設備も比較的整頓し、主として短時日の投宿者を顧客とす、下宿屋は客室の總坪數十坪以上より營業を許され、旅人宿に比して諸事劣等なるも概ね宿料低く、寄留者若くは長逗留の客を迎ふるを特色とするものにて、兩者の數殆んど相等し而して旅人宿は自ら各處に群をなし、其場所によりて旅客の種類を異にし、宿屋の風儀を異にするを見る、固より家屋の大小、設備の如何は、數等にも十數等にも區別せらるべけれど宿料は先づ壹圓以内を多數とす更に大体上より旅舍所在の場所柄と旅客との關係を見れば、北濱、今橋、大川町及び中之島、土佐堀、江戸堀等の東部には、大家、巨商、其他所謂紳士連の泊客多く、中央船場には各地方仕入商人の定宿多く、堀江等には同處問屋筋との取引客多し、川口本田附近より中之島、土佐堀西部の旅宿は回漕業を兼ねるもの多く、投宿者は船客、船舶關係者及地方の遊覧客なり、梅田附近には梅田驛昇降の旅客が、偶然投宿するもの多く、八軒屋には伏見通の船客を迎ふる安直主義の旅舍多く、高

津生玉邊には料理屋を本業として、傍ら旅人宿を営めるが多く、道頓堀邊には近畿若くは諸國遊覽人の足を留め、其他難波、天王寺、曾根崎、福島等には諸國諸行商の安宿あり又下宿屋にて上町、天満、堂島、中之島、土佐堀附近等に在るものは、銀行會社員官吏等の獨身者を顧客として、傍ら普通旅客を迎へ、難波、天王寺、北野、曾根崎、福島、九條等に在るものも多數は、職工學生、小官吏等の宿舎なり、各宿屋は平時警察の取締の下に營業し居れども、往々不正の向ありて、故意に犯罪者を宿泊せしめ、若くは車夫に利を喰はして、不案内の旅客を誘ひ入れ不正の利得を貪らんとするものあり、今回の博覧會に際しては、警察に於ても殊に注意を加ふる所あり、旅客に對して十分の保護を加ふる筈なるが、我博覧會協賛會は今春以來市内旅人宿業者に勸めて、大阪旅宿協會なるものを組織せしめ、本會監督の下に諸般の改良をなさしむることとせり、右旅宿協會の決議は左の如し

第一 宿泊料の明示

加盟の旅館は旅客の待遇と宿泊料とを明示し、投宿者が仕拂をなすの際に、意外の感なき様豫め自家待遇相當の等級を定め、之を屋内の便宜見易き場所に揭示し置くべし、斯くて投宿者の擇ぶ所に從ひ等級相當の待遇をなし、精々不都合なき様注意すべし

第二 懇切の待遇

加盟の旅館は他の旅業者の模範となるべきものなるが故に、互に相警めて投宿者に對しては親切丁寧なるを旨とし決して其待遇に厚薄なき様注意すべし

第三 乗車賃の一定

加盟の旅館には常に出入の車夫を定め、嚴重なる取締をなし、必ず旅客より不當の賃金を貪らざる様注意し、又別に乗車賃金表を宿泊者に呈し置き、途上に飛乗をなしたる時にも一目相當の賃金を仕拂ひ得る様、出來得るだけ遊覽者をして好都合ならしむべし

第四 觀覽券の取次

加盟の旅館は豫め其向々との交渉を遂げて各種觀覽券の下渡を受け置き、宿泊者の需用に應じ、夫々直接に交附して以て雜沓せる現場に就き、先を争ふて買ひ求むる等の煩なからしむべし

第五 手荷物并に物品の運搬

加盟の旅館は、其向々と交渉して旅客の手荷物又は其購入物品を、極めて安全に極めて迅速に送達し得るの取計ひをなすべし

第六 興行物日割其他の揭示

加盟の旅館は協賛會より通知を受けたる毎に、市内の各處、若くは博覧會場内に於て時々催さるゝ興行物、及び餘興に就ての日割、其他觀覽者に必要なる注意、例へば市中に於て觀覽者の糞りたる各種の危険奸策等の類を、旅館内の見易き場所に掲示し置くべし

第七 館内各部の改良

加盟の旅館にては、客室内廊下等は勿論、前裁湯便所等に至るまで、衛生上に注意して諸事清潔を旨とすべし

第八 宿泊の周旋

加盟の旅館にては、投宿者あるも自家の客室悉く満員なるため差支ゆる場合に於ては、先づ最寄の加盟旅館に問合せ、尙差支ゆるときは旅客に親切なる他の旅館に向つて、懇切に周旋の勞を取るべし

第九 旅客の投書

加盟の旅館に宿泊したる旅客中若し取扱上甚だ不都合なる廉々を本協會の監督者たる博覧會協賛會に對して通報したるとき、協賛會より該件に付き注意を促されたる旅館は、直に改善するの義務あるものとす、若し右注意を受けて尙改善せざるときは、

除名或は相當の制裁を受くべし

但除名の時は其事情を掲げて新聞紙上に廣告すべし

四区内加盟旅館營業者人名

梅田町	二、七三七	近江屋	中	西	ミ	子	曾根崎新地二丁目	一〇二	萬	屋	中	島	定	藏
同	二、三三一	福永屋	若	村	仲	藏	同	三丁目	五三	い	せ	塚	原	シ
同	二、八一	今津屋	中	村	德	藏	同	上四丁目二四七	櫻	東	館	鈴	木	弘
同	二、八〇六	傳法屋	松	塚	ト	ヨ	同	同四丁目二、六〇四	寶	盛	館	山	本	タ
同	二、九三五	靜觀樓	牧	野	梅	太	同	同二丁目番外五〇五	泉	館	長	谷	ト	メ
同	外四二四	鐵城館	鐵	田	米	吉	同	番外四〇	近	江	亭	高	辻	エ
同	二、七五〇	梅根樓	谷	豐	一	吉	同	番外四一四	梅	田	樓	中	濱	ト
同	二、七九	花	波	多	野	勝	同	一八七	萬	屋	淺	井	ラ	ン
同	三一二	瓢の屋	土	生	楠	枝	曾根崎	二、六〇二	防	長	樓	福	間	要
同	三二四	茨木屋	芝	田	ナ	ナ	上福島	一、八八二	平	野	屋	五	島	キ
							同	一丁目	五	四	五	吾	妻	館
							東野田町二八九ノ一	樓	館	森	本	ウ	ノ	

大坂と博覽會

堂島濱一丁目番外
 一七 吉波マス
 同 四七 朝田キヌ
 同 二二八 三木屋林フミ
 同 三二五 朝日屋寺戸アイ
 同 仲一丁目三四五 田中トメ
 同 三四九 美濃屋橋本エイ
 同 中二丁目 一 正道館山田ハル
 同 塞一丁目 八六 富田吉郎兵衛
 同 二丁目 四七 成地館太田ツル
 同 一三一 花月館花岡ハナ
 同 一四一 西櫻樓村上タツ
 中之島
 中之島一丁目 二 銀水樓三浦幸松
 同 二九 森吉樓森田吉五郎

中之島二丁目一四〇 自由亭草野キン
 同 三丁目 一 花屋壺井久
 同 一三 西照庵成井ミネ
 同 一番ノ二號 小塚藤吉
 宗是町 一七 大黒屋和田フサ
 同 四丁目一三ノ二 矢野市輪
 同 一七 吾妻屋高橋榮次
 同 六九 伊豫屋金岡ハナ
 同 二九 淡路屋木村ムメ
 同 九六 河内屋岡田キク
 同 一五 松本ヤク
 同 五六 蘆屋松尾ナヲ
 同 六六 備前屋岡崎三代太郎
 同 七二 小豆屋駒津高三郎
 北濱、今橋、大川町(以上船場ノ内)

大坂と博覽會

北濱一丁目 六 高麗館山口アサ
 同 一〇 伊賀喜西村喜助
 同 一一 多景色樓寶田寅之助
 同 一二 金仁樓金澤仁三郎
 同 一六 阪木屋山田タセ
 同 一七 川村屋川村キミ
 同 一八 布市屋高橋市右衛門
 同 六二 花外樓和田コウ
 同 六五 淡路屋山西喜一郎
 同 一〇一 因島谷岩三
 同 二〇 加賀屋武田彌七
 同 二七 錦波樓西村榮助
 同 一二九 三竹田喜太郎
 同 三丁目 九 出雲屋金森仙太郎
 同 一〇 炭屋平井政七

北濱三丁目 六八 龜谷安治
 同 一〇 福岡屋雜賀常吉
 同 四丁目 一四 愛々堂御野ヨメ
 同 二九 南與南與平治
 同 六六 ② 芦田テイ
 今橋四丁目 二一 紫雲樓平川善右衛門
 同 五丁目 一一 泉米泉米太郎
 同 二 明石屋高木庄兵衛
 大川町 五 水明館今井嘉吉
 同 七 木屋原 澁
 同 一二 池喜池田アイ
 同 一八 備後屋豐田忠兵衛
 同 二〇 讃岐屋磯部甚吉
 同 五七 いろ六八 田竹松
 同 六八 大黒屋大瀧榮太郎

大坂と博覽會

大川町	七〇	香月樓村上常七
同	七〇	岩田樓岩田卯八
同	七五	北川樓北川芳助
同	七六	千秋樓佐野顯三郎
同	七七	泉松樓上邑松五郎
同	八〇	谷垣ヤス
同	一一四	金剛館越智テフ
同		釜谷タメ
船場		花房スヅ
道修町一丁目	三	野村榮助
伏見町三丁目	一六	加納屋内本カツ
平野町二丁目	四三	若村屋
同	七	松居宗太郎
同	七六	鈴木新太郎
瓦町二丁目	五〇	藤伊屋宮内スエ
瓦町四丁目	六七	後藤半七
同	一一八	井筒屋居林萬吉
備後町一丁目	一七	京屋京谷ハル
同	四〇	泉旅館泉エキ
同	二五	松庄鈴木庄太郎
同	四	小畑旅館酒井ヤス
同	一三	三田屋寺本カヨ
同	一四	安土町三丁目 〔大吉〕 駒井喜十郎
同	九九	因幡屋飯田治郎三郎
本町一丁目	六	船場館甲斐豊吉
南本町一丁目	六六	船場館甲斐豊吉
同	九一	葛谷キク
同	七四	わらや竹内仁三郎
同	九四	加賀屋北村藤兵衛
唐物町一丁目	二一	伏見屋増本九兵衛

大坂と博覽會

唐物町一丁目	三六	北屋北家フジ
同	五二	福定アイ
北久太郎町一丁目	一三	龜田政治郎
同	二七	加賀屋太田宗兵衛
同	一〇四	八木ヤス
同	五九	菅沼光藏
同	四丁目	菅沼光藏
南久太郎町一丁目	七八	能村高
同	一一八	河内屋有山芳太郎
同	九七	紀の文山崎文助
北久寶寺町一丁目	四八	黒田舜太郎
同		矢野善右衛門
同	二丁目	伊丹與助
同	四九	伊丹與助
同	三丁目	加納雄三郎
南久寶寺町一丁目	六八	近江屋塚本音吉
同	一一三	小川保松
博勞町一丁目	四七	大森岡ツ子
同	三一	池田屋池田勘七
同	二二	河合屋河合篤三郎
同	六	但馬屋今津寅吉
同	一一	中國屋原田政助
同	三〇	川崎屋永田リウ
同	二丁目	合輝樓安場カナ
同	三丁目	一三〇 大西屋大西利作
同	四丁目	兵庫屋川端甚三郎
北渡邊町	五二	尼ヶ崎屋尼崎太録
上難波北ノ町	九一	北村ナヲ
同	五三	薩摩屋加賀山善兵衛
同	八	〔河〕 山川利兵衛
順慶町一丁目	六	佐野館佐野利三郎
同	一四	吉野屋貴田榮三

大坂博覧會

順慶町一丁目一四六九 五佐伯キヨ
 同 二丁目 大 緒松本ヤツ
 安堂寺橋通二丁目 古川安次郎
 一六 八九 篠田カク
 同 八九 竹本宗吉
 鹽町一丁目 一三二 竹本宗吉
 同 二丁目 九四住ノ江旅館住ノ江源藏
 同 四丁目 一六一和合金田中仁兵衛
 同 一八〇泉屋泉林之助
 末吉橋二丁目 五五井筒屋宮本九兵衛
 同 四丁目 五二芳雲館増田辰次郎
 八軒家、上町、玉造、清堀
 京橋二丁目 一〇和泉屋三村福松
 同 三丁目 九二刃小林小政七
 同 九九大和屋谷村彌兵衛
 同 一一竹炭屋福田新左衛門

京橋三丁目 三一輪波仁今井仁兵衛
 同 七八今産今井彦兵衛
 同 八六山熊阪井常太郎
 同 五五北餅屋大村イシ
 高麗橋詰町 南餅屋中島留吉
 船越町二丁目二八 北川コト
 農人橋詰町 五一小田屋小田辰藏
 谷町一丁目 三一 榎本スエ
 同 一五七 永田フサ
 同 三四日 早川コウ
 同 四丁目 大和屋西谷甚三郎
 同 五丁目 一四二 那須穂那須嘉一郎
 上木町六丁目 花月亭小野木政吉
 宰相山町 吞春樓小西市松
 土佐堀、江戸堀、京町堀

大坂博覧會

土佐堀通一丁目 七 永井權永井仙太郎
 同 二丁目二八 中西澤次郎
 同 三五 國本キセ
 同 五六槽中屋山田鶴藏
 土佐堀通二丁目五九 天王寺屋西宗ハル
 同 三四日 五四純源武内タメ
 同 五九環閣館後藤泰一
 同 七六播磨屋津田松助
 同 七七大米屋米澤久吉
 同 八一三木幸金子幸一
 同 八三葉村屋新開吉兵衛
 同 八六大和屋中村喜兵衛
 同 八八 金丸文藏
 同 同 寒川岩吉
 同 同 浪旅花館岩崎源兵衛
 同 同 四 浪旅花館岩崎源兵衛

土佐堀通四丁目 七 築島仲藏
 同 五丁目 一 河野勘造
 同 三 渡邊為藏
 同 四 菅秀太郎
 同 一四九 古城湖平
 同 二五 佐藤ツル
 同 三二木屋稻津ウノ
 同 三七 平野嘉兵衛
 同 三九 中務タカ
 同 四一勢合館土橋平治
 同 同 四六桐屋平井サタ
 同 同 六池田屋池田サダ
 同 同 八〇笠屋佐々木タカ
 同 同 九五 江戶堀上通一丁目
 同 二丁目 四八 余田澤クミ

江戸堀上通二丁目 一五	大西叶大西サチ
同 一六 近江屋 秋野猪平	
同北通一丁目 二 高松屋 新庄マサ	
同 五二 小西タ子	
同 九四 飯田イワ	
同 一九 中島アイ	
同 二丁目 一五七 石濱ツル	
同 二〇五 島田トヨ	
同 二三九 出雲文原 文助	
同 三丁目 一〇三 玉櫻キクジ	
同 五丁目 一四 井上リン	
同南通一丁目 一九 近田源次郎	
同 四丁目 一〇一 石見屋 植木嘉兵衛	
同 五丁目 五 大和屋 池田彌吉	
京町堀通四丁目 一七六 梶原ハツ	
京町堀通五丁目 六四	井戸平七
同 川口、本田、安治川、松島、江ノ子島	
本田二番丁 一七五 廣島屋 龜藏	
同 三番丁 三四 岡本梅次郎	
同 八七九 徳諏訪茂平	
同 一〇〇 山形兼吉	
同 一〇六 新田庄助	
同 一二八 木村國松	
同 三四〇 樹屋 岡サマ	
古川町 二 大山ハル	
江ノ子島上ノ町 二九 關西樓 大西コイヨ	
同 東ノ町 七八九 庄岩根正次郎	
同 西ノ町 一 古川政吉	
仲ノ町一丁目 六 天狗屋 宇敷ハマ	

松島町一丁目 一六 引 河本喜平治	
同 二丁目 一六 銀崎權岸 ヨ子	
安治川通上一丁目 三三 西國屋 蒲生常藏	
同 通一丁目 三三 豊後屋 井上彌三郎	
富島町 一 川口奈良江	
同 三三三 小川平助	
同 四一六 ① 小路留治郎	
鞆、阿波座、立賣堀、新町、堀江	
鞆北通一丁目 二一 松屋 鈴木傳次郎	
同 三七 ② 水上源吉	
同 番外一解 屋 岡本伊助	
同 二丁目 一〇五 米屋 西壽市	
同 三丁目 一七三 和屋 田所徳馬	
同 四丁目 一八 富田屋 鎌田宗次	
同 中通一丁目 八 天満屋 米倉セン	
鞆中通一丁目 五三 濱田直八郎	
同 南通一丁目 六 橋野屋 露重助	
同 一五 細野 細川駒三郎	
同 二丁目 二一 和泉屋 八田齊次郎	
同 三丁目 四九 中島屋 鎌井キヌ	
同 三丁目 四 内田マサ	
阿波座上通二丁目 四二 清水小ツル	
立賣堀北通二丁目 四二 岩井樓 日下好	
同 一五五 丸八尾ツヤ	
同 南通一丁目 二四 吉田春吉	
新町北通一丁目 三二 丸山 後藤與七	
新町通一丁目 一六 和泉屋 和泉フク	
同 二〇二 豊田屋 山中馨	
同 通三丁目 一ノ三 村上シゲ	
同 四丁目 三八 吉本ミツ	

大阪博覽會

新町通四丁目一〇七	二宮エツ
同 通五丁目一三二	浪花館川島芳太郎
同 南通三丁目	普光江龍
同 五丁目	井筒タカ
西長堀北通二丁目九	小泉利助
同 四丁目 二五	今西喜藏
同 五丁目	楠イキ
同 南通一丁目二四	日高屋中村ヒロ
同 四丁目 一四三	稲葉健八
北堀江上通二丁目九	小泉覺兵衛
同 下通一丁目四三	菊盛館中川キク
同 四丁目 七一	澤口キシ
同 通一丁目一九	吉田六兵衛
同 通二丁目一三二	岩田屋稗田信吉
同 通三丁目一〇三	加賀伊富田ラク
北堀江下通三丁目一	和泉屋泉吉兵衛
同 通四丁目 九	黒田ヤス
同 一番丁一〇九	浪華屋武田武助
同 三番丁 二五	城山タキ
同 二七	外屋岩崎秀
南堀江通二丁目七二	丹羽ヨツ
同 七九	堺亭土岐孝助
同 通四丁目甲二三	加賀屋磯川貞吉
同 六丁目 五七	瀬藤屋篠村サト
同上通一丁目一四二	且子屋中川宗吉
島之内、道頓堀、日本橋筋、難波新地	
日本橋一丁目三六一	榊屋市兵衛
同 一三三	河内屋明石瀧十郎
同 四丁目 五六	大和屋天野タニ

大阪博覽會

日本橋北詰東	伊達春伊達ハル
東橋町 六八	川喜公原喜太郎
東橋町 七二	角屋脇マサ
九郎右衛門町 六七	吉田ムメ
同 一〇〇	或屋新保コウ
同 二三九	藤屋豐田寅藏
千日前	近江屋藤下茂三郎
同	櫻屋西本庄七
同	かんや松井富三郎
同	借後屋淵本龜次郎
澁谷仲ノ町 八	小橋吉吉村駒太郎
同 二六	葛城屋宇野伊之助
澁谷西ノ町 一〇	大野屋岩淵芳兵衛
同 一八二	淺彌都志彌七
同 二四三	山本作兵衛
澁谷西ノ町 二五七	大和屋刀根長兵衛
大寶寺仲ノ町三三九	大谷屋大谷チカ
問屋町 二三八	楠フサ
同 二五三	河内屋金本藤松
同 一二四	松屋内藤與兵衛
同 一三五	大和屋吉田義考
同 一四〇	河彌竹村ヨ子
同 一四五	岸澤屋岸澤彌吉
宗右衛門町 二三	藤屋井上フジ
同 三九末	廣八田千代
同 九二五	屋中井キヨ
同 九三八	幡屋宮田シゲ
同 九七	まこい樓公原キシ
同 一二二	大和屋浦島ヒデ
同 一二四	大黒同西村龜次郎

七〇三七	難波河原町一丁目	酒井家 小阪庄兵衛	瓦屋町五番町	六〇	津るや 佐々木カヅ
同	七、二二〇	河内屋 栗澤清次郎	谷町六丁目	八一	中山ツタ
同	二丁目	和泉屋 丸山政治郎	小橋東ノ町		産場樓 土井宇兵衛
同		かきや 永田柳吉	天満、西天満		
	生玉、高津、桃山		天満橋筋西三丁目番外		尾張屋 恒川兼助
六二	天王寺生玉町番外七	好静館 備前トミ	鳴尾町	一	一 佐藤菊藏
同	七三三	西照館 角南ヨ子	源藏町	二六	三 國屋堀 久吉
同	同	同	老松町	一六八	竹野屋 川村タケ
同	同	同	鶴屋町	一〇九	天狗茶屋 石川廣次郎
同	同	同	榎之上町	一七七	竹田屋 武田藤十郎
同	同	同	同	六二	石川屋 田口朝次郎
同	同	同	若松町	二四八	若松屋 高橋壽
					(管理人澤田金之助)

市内の交通運搬

大阪の町は道路狹隘にして馬車の通行自在ならず、さりとて道路の擴張、高架鐵道の

新設など、容易ならねば、差當り河川の利用に着目され、曩に市營の計畫もありしが、此程遂に大阪巡航合資會社が許可を得て、明年二月より開業することに定まれり、同社の計畫によれば、長四十尺巾七尺吃水貳尺にして、六馬力を有せる石油發動機船五十隻を以て、毎日午前六時より午後八時まで十分間毎に、各川筋の乗降場を發船する筈にして、その乗降場は左の如し

天神橋南、天満橋中央、網島驛附近(以上大川)天神橋北、難波橋北、大江橋北、渡邊橋北、(以上堂島川)難波橋南、淀屋橋南、肥後橋南、常安橋南、湊橋南(以上土佐堀川)安治川橋南(安治川)木津川橋西、松島橋東、千代崎橋東、岩崎町濱(以上木津川)汐見橋南、湊町驛附近、戎橋南、日本橋南(以上道頓堀川)上大和橋東、九之助橋東、久寶寺橋東、本町橋東、高麗橋東(以上東横堀川)京町橋西、信濃橋東、新町橋東、御池橋西、(以上西横堀川)古川橋北、國津橋西、蘆分橋東(以上安治川支流)

以上の間を往復するものにて各所の間を一區とし、一區一人の乗賃は壹錢にて、一區を加ふる毎に五厘を増すの定めなれば、高麗橋より日本橋まで行くに參錢、天神橋より府廳まで參錢五厘を拂へば足る譯となり、又天神橋、渡邊橋、安治川橋、湊町驛附近の四箇所を乗替場として、一航路より他の船路に轉ずるの自由あれば、交通上に一生面を開く

なるべし、更に河川は貨物の運搬に向つて極めて重要なるものと言はざるべからず其延長總計十八里餘、外に運河八百間あり、川巾の最も廣きは木津川の六十一丁半、干潮水深は安治川十五尺を以て最とし、この間を航行する日本形小船は八千五百十四隻九千九百三十三石を算す

又市内の道路は國道、縣道、里道を併せて一百三三里餘、其名稱は、國道に京街道、中國街道、紀州街道あり、縣道に、龜岡街道、古堤街道、梅田街道、奈良街道、暗越、奈良街道、梅田停車場道、阿部野街道、木津川海港道、安治川海港道、山田街道、尼ヶ崎街道、新堀街道あり、其最も長きは安治川海港路線にして、延長四千二百五十九間に及び、巾の最も廣きは北區堂島濱一丁目より渡邊橋筋を北へ、櫻橋を経て梅田停車場に達するものにして、平均約七間あり、此途上に往來せる人力車、荷車の數は去卅三年末の現在左の如し

人力車一人乗 一六、七五 同二人乗 一、九六 荷車大車 四、九五 同中小車 三、七五
馬車乗用 三 同荷積 五 牛車 一八三

爰に又一奇觀は市内の河川に架する橋梁にて、其數總計二百四十二あり、其延長を總計すれば實に七十三町七分に及び、其面積一萬四千一百七十四坪即ち四丁七反の廣さあり、大阪市街宅地の四百分の一に相當せり

人力車の賃錢

大阪府の警察部に於ては土地不案内者の迷惑を豫防せんが爲めに賃錢取極めに干渉して最高度を一定し居れり、同規定によれば乗車區域の遠近に應じて差あると左の如し

十五町未滿	五町毎ニ	三錢三厘以内	三町以上ハ五町ニ算ス
一里未滿	十五町毎ニ	七錢五厘以内	五町未滿ハ算入セズ
一里以上	一里毎ニ	十二錢以内	五町以上前率ニヨル

右は晝間一人乗の賃金なるが、別に左の増賃金規定あり

- ▲雨天 三割増 ▲雨後泥道 二割増 ▲夜間 二割増 ▲雨夜 五割増
- ▲二人乗 五割増 ▲二人曳 三倍 ▲一時間待六錢以内

而して又梅田、網島、天王寺、難波、湊町、川口波止場其他の要所には乗車切符を賣出す所の帳場ありて、其處より各所への賃金は又早より警察の許可を受けて一定しあり、而かも警察部に於ては車体の改良を勵行すると共に、明年に至り人力車の需用増加すべきを豫想し、近頃從來定めたるものより稍高めて左表の如く改め、別に市内の各要所毎に賃金表の揭示札を建て、尙梅田停車場前、博物館前、博覽會場前其他凡て十一ヶ所には電燈の装置をなせり、最も愈々博覽會の開くるに至らば實際多少の増賃を要するやも知れざれども大体の適用上には差間なかるべし

大阪博覽會

Table of exhibition numbers for Osaka Expo, listing various categories and their corresponding numbers.

大阪博覽會

Table of exhibition numbers for Osaka Expo, listing various categories and their corresponding numbers.

Table of telegrams and telephone numbers for various locations in Osaka, including entries for '大阪郵便電信局' and '船場郵便支局'.

郵便電信電話

大阪郵便電信局は中之島の中央、渡邊橋と肥後橋との間にあり東の方日本銀行支店と後面を對して、建築の宏大なるは通行人の常に注目する所なるが、その一等局の地位よりして、奈良、和歌山をも管轄し、尙市内に於ては左の支局を有せり

- 川口郵便電信支局 高麗橋郵便電信支局 高津郵便電信支局 難波郵便電信支局
船場郵便支局 梅田電信支局 堀江電信支局 心齋橋電信支局

博覽會開會中は今宮の會場内に臨時支局を設置す又市内における郵便受取所は左の如し

- 瓦町、谷町五丁目、高麗橋三丁目、内本町、北久太郎町、安土町四丁目、大川町、材木置場、北濱、農人橋、鞆、阿彌陀池、江戸堀南通、新町通五丁目、四ツ橋、阿波座上通、兩國橋、京町橋、立賣堀、平野町、大手、本町、日本橋筋、野田橋、道修町、夫婦橋、上本町、唐物町、天満橋、松島町、北堀江通二丁目、隆平橋、新一橋、南堀江一番町、幸町通、土佐堀通、本田、越後町、順慶町、難波新地、長堀橋筋二丁目、心齋橋筋、安堂寺橋通、北野、天神前、櫻橋、蛸橋、南安治川、老松町、中之島、安治川通上、壺屋町、天

王寺西門、東雲町、生國魂前、難波、西濱、上福島、今宮、梅田、三軒家、湊屋町、東九條、西九條、北長柄、上福島二丁目、新川崎、萬歲橋、天保町

市内に於ける郵便物の集配度数は區域によりて多少の差あり、概して三時間内外に到着すれども集配度數多き所に投ずれば幾分か着すること早く、市外各地方に對して又同様なるが便宜のためその區域と、集配度數を擧ぐれば左の如し

十二回集配地

船場、島ノ内、南北堀江、新町、阿波座、鞆、京町堀、土佐堀、中之島、堂島、川口、本田、富島

十回集配地

上町、天満、曾根崎、北野、上福島、松島、安治川北岸、西道頓堀、難波東部、西高津、清堀、玉造ノ一部

八回集配地

玉造ノ一部、東高津、今宮、木津、西濱、難波島、三軒屋、九條、西九條、四貫島、下福島、西野田

六回集配地

天王寺、東野田、九條及三軒屋ノ一部

更に大阪本局より發せし郵便物の内地各府縣著名の都會に送達せらるべき日取を摘記すれば概ね左の如し
畿内▲京都、奈良、堺、神戸(一日以内)

山陽道▲姫路、岡山(一日以内)尾ノ道、廣島、吳、山口、赤間關(一日又は二日目)

山陰道▲東舞鶴、鳥取(一日又は二日目)松江(二日又は三日目)

南海道▲和歌山(一日以内)徳島、高松、多度津、丸龜、松山(一日又は二日目)高知(二日目又は三日目)

西海道▲門司、小倉、久留米、福岡(一日又は二日目)佐賀、大分、長崎、佐世保、熊本(二日目又は三日目)鹿島、宮崎(三日又は四日目)

東海道▲四日市、桑名、津、名古屋(一日以内)豊橋、濱松、静岡、横須賀、横濱、東京(一日又は二日目)浦和、千葉、甲府、水戸(二日又は三日目)

東山道▲大津、岐阜(一日以内)松本、上田、長野、高崎、前橋、宇都宮、福島(二日又は三日目)若松、仙臺、盛岡、青森、弘前、米澤、山形、秋田、酒田(三日又は四日目)

北陸道▲福井(一日以内)金澤、高岡、富山(一日又は二日)直江津、長岡、新潟(二日乃至四日目)

北海道▲函館(三日又は四日目)室蘭、小樽、札幌、旭川(四日又は五日目)稚内(七日又は八日目)根室(八日又は九日目)

市内に於ける電話所は左の各處に配置され居れり

平野町電話交換局内(東九十番)梅田電信支局内(東九十一番)船場郵便支局内(東九十二番)心齋橋電信支局内(東九十三番)高津郵便電信支局内(東九十四番)中之島郵便電信局内(東九十六番)新町電話交換局西分局内(西九十番)堀江電信支局内(西九十二番)▲天満電話所(東九十八番)北區天神筋町(天王寺電話所)東九十七番、南區天王寺推寺町(鞆電話所)西九十三番、西區鞆南通二丁目(谷町電話所)東區谷町五丁目(以上箭人受負)富島波止場、難波停車場、梅田停車場、網島停車場、湊町停車場、堂島米穀取引所前、北濱株式取引所前(以上自働電話)

又大阪市より電話を通り得る市外の地は左の如し

尼ヶ崎、茨木、伊丹、池田、西宮、住吉、堺、濱寺、神戸、須磨、御影、京都、伏見、大津、名古屋、西枇杷島、四日市、桑名、横濱、神奈川、東京、南品川、南千住、静岡、川崎、池上、羽田

第二編 市政及商工業

大阪の市政

大阪の市政は、舊幕府時代に於て既に半官半民の組織によりて行はれたり、即ち城代の下に町奉行あり、町奉行の下に與力同心ありて百般の政務を分掌したれども、別に又人民中より大阪三郷(天満、南、北)總年寄、町年寄、總代なるものを選び、市政に參與せしめたり、其内總代の職務は恰も今の區長の如しといふ、此外に又三町人なるものあり、徳川家に由緒ある町人世襲にてこれを勤め、城代、町奉行の相談對手となる、明治元年此制を廢して純然たる官治を施し以て自治制の實施に至れり、其行政區域、慶長より元禄までは三郷五百四十八町、元禄年間に至り堂島、安治川の新地を開き、尋で堀江、幸町、富島、古川、曾根崎等の新地増加して六百二十町となり、明治元年には六百三十六町あり、今は又増して八百五十七町となれり

明治二十二年自治制度の施行せらるゝや、在來の東西南北四區をもつて、大阪市の區域となせしも、當時は特別市制によりたるが、其後特別市制の廢止により、卅一年十月一日新に市役所を開設して市長其他の市吏員を置き、茲に初めて眞の自治行政を施すに

至れり市役所は市參事會の統理する所にして、現今の組織は市長の下に助役二名、收入役一名あり、何れも名譽職にて其下に總務、商工、工務、學務、衛生、會計の六課と市長附書記とあり、各課は又各係に別れ、諸般の事務を分掌せり、又別に築港事務所、圖案調製所、上水検査所等あり、何れも市參事會の命令によりて活動するものなり、市參事會の外博覽會、衛生、學務、家屋稅調査等の各委員會あり市參事會の援助をなせり、借又東西南北の四區には各々區役所あり區長と區書記とによりて組織せられ、市長指揮の下に各區の行政事務を取扱ふ、以上市行政の當局者は現今左の諸氏なり

▲市長 鶴原定吉 ▲助役 菅沼達吉、池原鹿之助 ▲收入役 野田文敏 ▲技師長 船曳甲 ▲名譽職市參事會員 佐野與兵衛、播本孝良、横田六三郎、外山脩三、武田源兵衛、西村捨三、藤富衛、中井一馬、小森理吉郎 ▲區長 平井保徳(東)、白男川實福(西)、井上正陽(南)、梶原平太郎(北)

而して市行政は市參事會の處決によりて實施せらるゝも、歳入出豫算を始め重大事件は概ね市會の協賛を経るものにして、現今の市會議員定数は六十名あり、市公民の代表者たり

市内各小學校は市に於て統理すとは雖も、校舎の造營諸般の設備は、何れも各區内に於ける各聯合區が其區内の費用を以て維持せるを以て、各聯合區の區會ありて年々豫算を議し區有財産の管理に任せり、市内の聯合區會は現に六十四ありて各區長之を統ぶ市費の支出は經常臨時を合し二百餘萬圓にして、築港、水道、博覽會費等は、別途經濟に屬せり、而して此財源は地價割、所得稅附加、國稅並に府縣營業稅附加、第一種第二種營業稅、雜種稅、鐵道營業稅、家屋割、取引所稅、歩一稅、坪數割等の市稅が全收入の約九割を占め、其他使用料及手數料、雜收入國庫及府よりの補助下渡金、寄附金借入金より成り築港、水道、下水等は市公債を以て經營せり、而して市の膨脹と共に土木、衛生、學務其他の經費の外臨時費年々増加するを以て、市民の負擔も卅年までは一人平均四圓以下なりしが現今にては約五圓以上となれり左に掲ぐるは明治卅五年度の收支豫算なり

一歳入	府	全
使用料及手數料	壹萬壹千六百四拾八圓	
雜收 入	百八拾八萬八千八拾五圓	
國庫下渡金	參拾七萬六千八百九圓	
全補助金	二百五拾萬貳千六百圓	
合計	肆拾九萬九千九百九拾九圓	

一歳出

市役所費	七萬七千四百四拾七圓
會議費	壹萬五千九百四拾四圓
區役所費	拾四萬參千九百八圓
土木費	貳拾萬五百六拾圓
教育費	參萬七拾壹圓
衛生費	拾五萬四千九百九拾六圓
救助費	八千貳拾八圓
警備費	參萬壹千七百貳拾四圓
公園費	貳千七百五拾圓

勸業費	五千參百參拾八圓
墓地費	貳百四拾參圓
府納金	六拾參萬五千六拾壹圓
雜支出	參千五百五圓
豫備費	貳千參百八拾六圓
臨時費	貳拾壹萬六千貳百五拾壹圓
臨時取費	壹萬參千貳拾八圓
水道費	七拾八萬百四拾四圓
合計	貳百參拾貳萬百八拾四圓

市の重なる營造物は

一、傳染病院 (衛生の項に出づ)

一、消毒所 (同上)

一、圖案調製所

西區阿波堀通一丁目に在り、商工業者の需用に應じ各種の物品に對する意匠考案を附し、其圖案を調製する所とす、

大阪の警察

附博覽會に就ての設備

東西奉行時代より種々の變遷を経來れる我大阪市の警察は、他の府縣と等しく郡部と共に府廳の一部なる警察部の管する所にして、同部は又高等、警務、保安、衛生の諸課と巡查教習所とに別れたるはいふまでもなくして、市内警察の樞軸は此處に存することなるが、今市内に於ける警察機關の配置を視るに、別項官衙の部に記すが如く、七警察署ありて、警視及警部之が長たり、又二分署あり警部を以て長とし、別に市郡聯帶の費用に屬する水上警察署同三分署あり、以上の各警察署及分署に屬せる派出所及駐在所の數は最近の調査によるに百八十八ヶ所あり、一派出所に詰め居る巡查は二人以上八人以下にして其數九百四十三人あり此他部長、内勤、特務、刑事を合し總數一千一百五十八人を定員とせる上、請願巡查百餘人あり、尙技手、書記等六十餘人ありて市街を警戒しつゝあり、此他不慮の火災に備ふる七箇の消防組は又各警察の管する所なるが其屯所數は四十五箇所ありて、組頭、小頭以下四百五十餘人あり、市の經濟を以て之を維持せり▲以上の如き機關の配置ありて、各本支所の間には警察電話を特設し、以て通信の速達を圖り居れるなるが博覽會開期中に至れば梅田、道頓堀、博覽會場の三ヶ所に同